

応用言語学

210013NOJ  
 大学院  
 人間文化研究科 > 応用英語専攻  
 2単位 前期  
 月曜3限  
 ー  
 60  
 喜多 容子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業では、応用言語学の諸領域に関する論文・文献の購読を通じて、応用言語学で扱われる種々の分野を総論的に扱います。社会言語学で扱われる諸問題より始め、言語習得にまつわる問題、言語と脳の問題、外国語教授法などの諸分野を俯瞰し、現在の日本の教育現場において英語教育実践を考える際に必要な専門的知識の習得を目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

本授業では、応用言語学の諸領域に関する論文購読を通じて、以下の諸点についての理解を深める

1. 異文化コミュニケーション
2. 言語と文化、言語と社会、言語とジェンダーなどの社会言語学的観点
3. 母語習得と第二言語習得
4. 外国語教授法
5. 日本の初等・中等教育における英語教育の現状と課題

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業の準備をしていない。	理解できない事柄を調べようとする。	理解できない事柄を調べ、内容を把握しようとする。	内容を把握し、考えを広げようとする。
応用言語学に関する知識・理解力	応用言語学に関する基本知識を、理解していない。	応用言語学に関する基本知識を、理解しようと努力している。	応用言語学に関する基本知識を、理解している。	応用言語学に関する基本知識を、理解し、他者に説明できる。
共生・協働する力	他者と協働して学習を進めることができない。	協働学習を進めようと努力している。	協働学習を進めることができる。	協働学習に積極的に関わり、さらに飛躍しようとする。
創造・発信力	意見を発信しようとしていない。	意見を発信しようと努力している。	他者の意見をしっかりと聞き、自分の意見を発信できる。	他者の意見を聞き、自分の考えを再構築し発信できる。

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

授業方法についての説明と応用言語学についての導入

- 第 2 回 異文化コミュニケーション (1)  
ノンバーバル・コミュニケーション言語コミュニケーション
- 第 3 回 異文化コミュニケーション (2)  
言語コミュニケーション  
発表
- 第 4 回 言語と文化 (1)  
言語と文化の関係
- 第 5 回 言語と文化 (2)  
high-context culture and low-context culture  
発表
- 第 6 回 言語とジェンダー  
フェミニズム運動と英語の語彙改革
- 第 7 回 言語習得研究の変遷  
母語習得と母語習得に関わる事例
- 第 8 回 第二言語習得研究の変遷  
中間言語  
言語臨界期仮説
- 第 9 回 言語と脳  
脳の可塑性と言語発達の臨界期
- 第 10 回 言語発達の臨界期  
発表
- 第 11 回 英語教授法の変遷  
欧米諸国における外国語教授法  
クラッシュの理論
- 第 12 回 現代の英語教授法 (1)  
Communicative Language Teaching  
イマージョン教育
- 第 13 回 現代の英語教授法 (2)  
発表
- 第 14 回 小学校における英語教育  
早期英語教育の意義と効果
- 第 15 回 コースのまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業は、テキスト以外にも「応用言語学と英語教育」に関連した文献を扱う。教員がテーマを導入し、解説を加える。受講生は輪番で課題文献の要約を発表し、全員で討議する。また、受講生は指示された内容について、レポートの提出が個別に求められる。これらの課題・レポートに関しては、最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各授業の準備段階においては、テキストや課題論文を熟読し内容をよく理解した上で授業に臨むことが求められる。また、授業で扱われる各テーマに関して自分なりの問題意識と自らの研究テーマにどのように生かしていくのかを考えたうえで出席すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

成績は以下を参考に総合的に評価する。

授業参加度 (発表・ディスカッション) 30%  
 プレゼンテーション 40%  
 課題レポート 30%

GRADING SCALE

秀 S 90 to 100% : 優 A 80 to 89% : 良 B 70 to 79% : 可 C 60 to 69% : 不合格 D 0 to 59%

〔留意事項 (Other Information)〕

受講者のニーズ、人数などにより、受講者と相談の上、授業予定を変更することがある。

必要に応じて課題ハンドアウトを配布する予定。適宜オンライン授業を取り入れる予定。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『言語教育学入門—応用言語学を言語教育に活かす—』/山内進 (編著) /大修館書店/2003/9784469244892/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Approaches and Methods in Language Teaching (Cambridge Language Teaching Library) Cambridge University Press ISBN-13 : 978-1107675964

ハンドアウト・論文など必要に応じてその都度配布予定

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英語プレゼンテーション

210016N0E

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 前期

火曜4限

—

60

集中

York Weatherford

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

The goal of this course is to introduce you to the basic theories and practice of public speaking focusing on general academic presentations and help you improve your speech/presentation skills in English with technology while enhancing critical thinking skills. You will learn how to formulate specific purpose statements, how to analyze and adapt to audiences, how to organize ideas and construct outlines, how to assess evidence and reasoning, and how to use language effectively.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ Attend classes regularly.
- ・ Read the weekly reading assignment and complete the assigned homework.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Introduction to Oral Presentation  
 第 2 回 Modern Presentations; Self-Introduction Presentation  
 第 3 回 Selection a Topic and Purpose  
 第 4 回 Analyzing the Audience  
 第 5 回 Gathering Materials  
 第 6 回 Supporting Your Ideas  
 第 7 回 Organizing the Speech  
 第 8 回 Design: Importance of Simplicity  
 第 9 回 Design Principles and Techniques  
 第 10 回 Usual Visuals: Images and Text  
 第 11 回 Using Language Effectively  
 第 12 回 Delivery Basics  
 第 13 回 Connecting with the Audience  
 第 14 回 Final Presentation Workshop  
 第 15 回 Final Presentations

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

The lecturer will provide a blended teaching/autonomous learning style to cover the content in class and beyond the class. Students are expected to complete the weekly reading assignment and homework while being ready for planned presentations after doing research on a chosen topic.

Feedback methods:

Students will receive oral commentary from the instructor in class after each presentation. In addition, students will receive written evaluations for each presentation.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. Read the assigned textbook chapters
2. Complete critical reading assignments
3. Prepare speeches/presentations

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Assignments (35%)

Individual/Small Group Presentations (15% x 3 = 45%)

PowerPoint files (20% x 1 = 20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Presentation Zen: Simple Ideas on Presentation Design and Delivery (3rd Edition)/Garr Reynolds/Voices That Matter/2019/0135800919/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

アカデミックライティング & ライティング

210019N0E

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

金曜 3限

ー

60

必修

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course is designed to help students efficiently read academic English prose and produce academic research papers in English.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Emphasis will be placed on logical and effective presentation of information in support of an argument. Students will learn the conventions of English academic writing, particularly with regard to the citation and listing of sources.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
創造・発信力: Creative Ability; Ability to brainstorm ideas; Ability to express your ideas; Ability to think outside the box	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

第 1 回 Introductory class

第 2 回 Outlining: outline of the first article

第 3 回 Summarizing: summary of the first article

第 4 回 Outlining: outline of the second article

第 5 回 Summarizing: summary of the second article

第 6 回 Outlining: outline of the third article

第 7 回 Summarizing: summary of the third article

第 8 回 Introduction to APA style; Outline for Report I

第 9 回 Revision of first draft of Report I

第 10 回 Peer critique of second draft of Report I

第 11 回 Teacher conferences on Report I

第 12 回 Paper I due, Outline for Report II

第 13 回 Revision of first draft of Report II

第 14 回 Peer critique of second draft of Report II

第 15 回 Teacher conferences on Report II  
(Report II due the following week)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

Students will read, outline, and summarize scholarly articles of their choice in the area of their concentration. After having written and revised several drafts, they will also submit two 5-

page reports on an academic topic in their area. Students will read and critique the writing of their partners.

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Students must do all the homework for the course, including all the drafts of the two reports

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Classroom performance 10%, summaries 10%, Outlines 30%, Reports 50%

Feedback will be provided in class during or after activities, or through written comments in TEAMS for online assignments.

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 応用英語研究方法論

210020NOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻  
2単位 前期

月曜 5限

ー

60

必修

大川 淳 喜多 容子 木島 菜菜子 Lyle De Souza  
須川 いずみ 小山 哲春 東郷 多津 York Weatherford

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本授業は、応用英語専攻修士1回生を対象に、大学院レベルでの研究・学問の基礎的な方法論を教授することを目的とする。受講者は、大学院レベルで期待される研究の質を理解し、その達成のために必要とされる履修計画、研究計画、研究方法論、時間管理能力などを習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

具体的な個別課題として、以下の四つを掲げる：

- (1)大学院での研究の目的、意義、および期待される質を理解する
- (2)大学院での研究を計画し、遂行するための能力を養成する
- (3)大学院レベルでの一般的な研究方法論を理解し、習得する
- (4)各学問領域における特定の研究方法論を概観する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 大学院における研究の質と意義、心構え／研究の具体的な進め方 (共通)

第 2 回 文学・文化研究方法論 総論 (共通)

第 3 回 社会科学研究方法論 総説 (共通)

第 4 回 Academic Integrity (共通)

第 5 回 Methods of Reading Academic Articles (共通)

第 6 回 イギリス文学 研究方法論総説／英語教育学 (第二言語習得論の目標と分析対象)

第 7 回 イギリス文学 Flannery O'Connor 作品講読／英語教育学 (教育工学研究方法論)

第 8 回 イギリス文学 Flannery O'Connor 作品分析／英語教育学 (教授法研究の目標と分析対象)

第 9 回 イギリス文化論 / 英語教育学 (教授法研究方法論)

第 10 回 アメリカ文学 研究方法論総説／英語教育学 (応用言語学の目標と分析対象)

第 11 回 アメリカ文学 Nathaniel Hawthorn 作品講読／英語教育学 (応用言語学研究方法論)

第 12 回 アメリカ文学 Nathaniel Hawthorn 作品分析／言語学 (理論言語学の目標と分析対象)

第 13 回 アメリカ文化論 / 言語学 (研究方法論)

第 14 回 Academic Paper & Academic Presentation (共通)

第 15 回 研究計画書執筆に向けて (総括) (共通)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本授業は、主に以下のような構成となる：

第 1～4 週 一般的な研究方法論に関する講義

第 4～14 週 Reading assignment に基づく講義、解説、討論

第 15 週 全体のまとめ、および質疑応答

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

Reading Assignment

第 4～14 週の授業に際しては、受講者は、前もって課された Reading Assignment (各授業につき、Journal article, Book chapter, etc.) を熟読し、授業中の討論に参加する。

Short Paper:

第 4～14 週の授業では各教員が指定するトピックでの Short Paper (500 words～) が課され、これを指定の期日までに提出する。

## Proposal

最終課題として、各種方法論を学習した上での「研究計画書 (Proposal)」を執筆する。

各種課題の詳細については授業中に指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

Short Paper 60%

Proposal 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

本科目は原則として、文学・文化領域、英語教育・コミュニケーション・言語学領域の2クラスに分かれて授業を行う。なお、領域共通の授業回に関しては合同のクラスで授業を行う。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『研究法ハンドブック』/高橋順一・渡辺文夫・大淵憲一 編著/ナカニシヤ出版///学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

適宜指示

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 言語研究デザインと統計

210047N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

水曜2限

—

60

小山 哲春

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では社会科学的方法論に基づいた言語研究のデザインと基礎的な統計分析を扱う。ただし、ここでいう「言語研究」は狭い範囲での言語現象のみを扱った研究を指すのではなく、人間の言語活動に関わる広範囲の現象を扱った研究(例えば英語学・英語教育学・コミュニケーション学・言語人類学等)を含む。本コース終了時に以下の3つの能力を習得していることが目標となる。(1)他の研究者が行った言語研究の報告を読み、理解し、かつ適切に評価する能力 (2)自らの言語研究を計画し遂行する能力 (3)質的・量的な言語データを適切に分析し、その分析結果を他人に報告する能力

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 社会科学(言語研究を含む)の定義、科学哲学、認識論
- (2) 社会科学的研究の方法論
- (3) 実験研究・調査研究・フィールド研究の基礎的デザイン

(4) 記述統計

(5) 推論統計の基礎

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

### 〔授業計画〕

第1回 Introduction / Philosophy of Science

第2回 Scientific Reasoning / Hypothesis Testing

第3回 Research Elements

第4回 Measurement (1): Scale Development

第5回 Measurement (2): Validity and Reliability / Sampling

第6回 Research Design

第7回 Review & Midterm Exam

第8回 Descriptive Statistics (1): Central Tendency

第9回 Descriptive Statistics (2): Variance and Standard Error

第10回 Logic of Inferential Statistics & Hypothesis Testing

第11回 Comparing Means (t-test)

第12回 Analysis of Variance (1): One-way ANOVA

第13回 Analysis of Variance (2): Factorial ANOVA

第14回 Correlation / Simple Regression

第15回 Comparing Proportions (chi-square)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

課題(1)~(3)に関してはテキスト、資料、参考文献に基づいた講義・ディスカッションを行う。また、ここで得た理解・知識を基に、修士論文の研究計画作成の練習を行う。課題(4)~(5)に関しては、テキスト、資料に基づいた講義を行い、さらに実際のデータを扱った演習を行う。

### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指摘テキストの精読、統計データの事前分析、等

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1)試験(2回を予定) 50% (2) (模擬) 研究計画 30%

(3)統計分析の演習 20%

〔留意事項 (Other Information)〕

いたって入門的・基礎的な内容を予定しているので、履修時点で基礎的な統計の知識や高度な数学の知識を有している必要はない（四則計算ができれば十分！）。ただし、英語での専門用語に習熟するため、そして個々の英語力の鍛錬のため、多数の英語文献を使用する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『Research Methods for the Behavioral Sciences』/Stangor, C/Houghton Mifflin/1998//

『心理学のためのデータ解析テクニカルブック』/森敏昭・吉田寿夫/北大路書房/1990/

『英語教師のための教育データ分析入門』/三浦省吾 監修/大修館書店/2004/

『SPSSとAMOSによる心理・調査データ解析』/小塩真司/東京図書/2004/

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091A0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

ー

60

必修

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

19世紀アメリカ文学を代表する作家の一人Herman Melvilleの作品を読む。テキストの難解さは、Melville作品の特徴の一つであるが、それは複雑な英語の構造だけではなく、哲学的領域を含めた考察を読者に求める作風に起因している。そこで、本科目の教育目標として、英語を読む力を養うとともに、テキストの分析力を向上させることも目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Herman Melvilleの作品の”Benito Cereno”を取り上げ、精読と分析を行う。テキストの細部にこだわりながら一語一句分析し、多角的な視点から考察することが課題となる。また、19世紀の時代背景や、文化的知識などの涵養も必須であり文献研究も多岐にわたる必要がある。本科目を通じ

て、分析する上での独自の切り口を修得し、修士論文で扱う主題の基礎を築くことも課題となる。

学期の最後にPaperの提出を課すが、そこでは自身の分析に加え、先行研究の把握、論文の構成力が課題となる。そのため、授業時間外の十分な学習時間の確保も受講者に求められるところである。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション：Herman Melvilleの紹介、授業の進め方

第 2 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.46-51)

第 3 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.52-57)

第 4 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.58-63)

第 5 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.64-69)

第 6 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.70-75)

第 7 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.76-81)

第 8 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.82-87)

第 9 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.88-93)

第 10 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.94-99)

第 11 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.100-105)

第 12 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.106-11)

第 13 回 ”Benito Cereno”の精読(pp.112-117)

第 14 回 Review, 文献研究, Final Paperの準備

第 15 回 Review, 文献研究, Final Paperの準備

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業で指定された範囲のテキストの精読を行う。

重要だと思われる箇所に関して、コメントを求めることもある。

学期の最後に、Final Paperの提出を課す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、指定された範囲の精読を課す。精読の方法としては以下の点を留意すること

1) テキスト内の文法構造を理解すること

2) テキスト内の固有名詞などをリサーチすること

3) 2) で調べた固有名詞が、なぜ言及されているかを考察すること

4) テキストを分析し、重要な箇所についてコメントする準備をしておくこと

5) 以上に関して、理解できなかった箇所を授業で確認できるように明確にしておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点(予習等)40%

Final Paper 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

”The Piazza Tales” / Herman Melville / The Northwestern UP / 2000 / 0-8101-1467-4 / 学内販売無し

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091B0E

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

—

60

必修

Steven Herder

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course will explore a core set of topics related to the theory and practice of teaching and learning within the EFL context. Within the framework of ongoing professional development, these topics all relate closely to how teachers teach and how students learn best and can be explored and developed over a long career. There are a myriad of skills and strategies that effective teachers carry with them at all times. This course will introduce some of the most important issues to begin to focus on.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. Address important issues in teaching and learning English.
2. Identify personal opinions about critical issues in the English classroom.
3. Develop a voice in expressing and debating issues related to teaching and learning.
4. Master’s thesis proposal - Choose a narrow topic, outline a dissertation, and begin to work on selected parts of the thesis.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
言語力: Communicate clearly; Have enough Complexity, Accuracy, and Fluency; Use grammar correctly; Use appropriate vocabulary	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations
思考・解決力: See multiple perspectives; Ability to ask questions; Ability to solve problems; Be logical, persuasive, and organized in your thinking	Does not meet course expectations yet	Meets some course expectations	Meets most course expectations and excels on some criteria	Exceeds most course expectations

〔授業計画〕

- 第 1 回 Course Introduction  
Discuss options for interacting with the material from presentations, discussions, debates to written summaries, mind maps, and essays.
- 第 2 回 Teacher-centered, Student-centered, and Learning centered  
Understand the differences and choose an approach for specific contexts.
- 第 3 回 Complexity, Accuracy, and Fluency (CAF)  
Explore these three constructs by which learning gains can be measured. Understand the place they occupy in any classroom.
- 第 4 回 The Balance of Input and Output  
Create a framework for input and output based on the level of the learning community as well as the context within which learners will work.
- 第 5 回 Grammar vs. Meaning

- What is the role of grammar in the learning process? How does it interact with meaning?
- 第 6 回 Vocabulary Acquisition  
What does it mean to know a word? How is vocabulary best learned. Is all vocabulary equal?
- 第 7 回 Extensive Reading, Writing, Listening, and Speaking  
An extensive approach to the four skills has grown in popularity within EFL contexts. Why is this and how do ESL and EFL differences support extensive learning.
- 第 8 回 Interim Report  
An Interim Report will be made through a pre-chosen method.
- 第 9 回 Context, Level, and Group Dynamics  
Not only are students different, but each and every class can be different based on level, context, and group dynamics
- 第 10 回 Classroom Management and Interaction  
What are the five types of interaction that occur in the classroom? What classroom management skills are needed to not only survive but to also thrive?
- 第 11 回 Motivational Strategies  
What does Dornyei teach us about motivational strategies in the classroom? How important is motivation in your approach?
- 第 12 回 Motivation 3.0  
The latest in motivational theory claims that "the carrot and the stick" is ineffective. A new approach based on autonomy, relatedness, and mastery will be explored.
- 第 13 回 Action Research  
The Action Research model is an effective way to pursue ongoing professional development. Why is that, and how can one best employ action research?
- 第 14 回 Reflective Teaching  
The reflective teaching model is an exceptional way to improve teaching in a significant way. The goal is to attain ongoing, incremental gains.
- 第 15 回 Proposal Meeting  
A dissertation project will have been chosen and this session will review all that has been completed, as well as refining further steps in the process.

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

- Each lesson consists of (1) a critical review of the week's reading assignments by the student (2) commentary from the instructor, and (3) a discussion between the instructor and the student about the reading assignments. It is important to read each week's assignments thoroughly in order to narrow down

the topic of the master's thesis within the limited time of 15 weeks.

2. By the end of the term, complete the master's thesis proposal. Students will complete ongoing oral reports and a written dissertation proposal.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. Read the assigned materials.
2. Prepare a critical review of the assigned reading.
3. Use LINE or e-mail to communicate with the instructor in case of questions.
4. Write a thesis proposal.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

1. Critical review and discussion of each week's reading assignments (50%)
2. Master's thesis proposal (50%)

Feedback will be provided in class during or after activities, or through written comments in TEAMS for online assignments.

[留意事項 (Other Information)]

This course will be a blended course. It means some classes will be face to face and some classes will be asynchronous (Manaba assignments). Therefore, you must look carefully on Manaba each week in the Course News for specific instructions.

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

No assigned textbooks

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

PDF handouts will be used

[参考URL(URL for Reference) ]

Online readings will be available as well

[実務経験のある教員による実践的科目]

---

## 専門演習

210091C0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

—

90

木島 菜菜子

---

[科目の教育目標 (Course Description)]

19世紀イギリス文学を代表する作家の一人George Eliotの作品を読む。英語を読む力を養うとともに、テキストの分析力を向上させることも目標とする。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

George Eliotの作品*Adam Bede*を取り上げ、精読と分析を行う。テキストの細部にこだわりながら一語一句分析し、多

角的な視点から考察することが課題となる。また、19世紀の時代背景や、文化的知識などの涵養も必須であり文献研究も多岐にわたる必要がある。本科目を通じて、分析する上での独自の切り口を修得し、修士論文で扱う主題の基礎を築くことも課題となる。

学期の最後にPaperの提出を課すが、そこでは自身の分析に加え、先行研究の把握、論文の構成力が課題となる。そのため、授業時間外の十分な学習時間の確保も受講者に求められるところである。

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 *Adam Bede* の精読 (Book First, Ch. 1)
- 第 3 回 *Adam Bede* の精読 (Book First)
- 第 4 回 *Adam Bede* Book Firstの精読と analysis  
Book Firstについての分析とディスカッション
- 第 5 回 *Adam Bede* の精読 (Book Second)
- 第 6 回 *Adam Bede* Book Secondの精読と analysis  
Book Secondについての分析とディスカッション
- 第 7 回 *Adam Bede* の精読 (Book Third)
- 第 8 回 *Adam Bede* Book Third の精読 と analysis  
Book Thirdについての分析とディスカッション
- 第 9 回 *Adam Bede* の精読 (Book Fourth)
- 第 10 回 *Adam Bede* Book Fourthの精読 と analysis  
Book Fourthについての分析とディスカッション
- 第 11 回 *Adam Bede* の精読 (Book Fifth)
- 第 12 回 *Adam Bede* Book Fifthの精読と analysis  
Book Fifthについての分析とディスカッション
- 第 13 回 *Adam Bede* の精読 (Book Sixth)
- 第 14 回 *Adam Bede* Book Sixthの精読と analysis  
Book Sixthについての分析とディスカッション
- 第 15 回 Reviewと先行研究の分析

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回の授業で指定された範囲のテキストの精読を行う。重要だと思われる箇所に関して、コメントを求めることもある。

学期の最後に、Final Paperの提出を課す。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回、指定された範囲の精読を課す。精読の方法としては以下の点を留意すること

- 1) テキスト内の文法構造を理解すること
- 2) テキスト内の固有名詞などをリサーチすること
- 3) 2) で調べた固有名詞が、なぜ言及されているかを考察すること
- 4) テキストを分析し、重要な箇所についてコメントする準備をしておくこと
- 5) 以上に関して、理解できなかった箇所を授業で確認できるように明確にしておくこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点(予習等) 40%

Final Paper 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

*Adam Bede* / George Eliot / Oxford University Press / 2008 / 978-0199203475 / 学内販売無し

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091DOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

ー

60

必修

小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

コミュニケーションとは、言語・文化・認知など様々な要素が複雑に絡み合って織り成す相互的な人間行動である。本演習では、各要素が特に異文化間でのメッセージの産出や解釈にどのような影響を与えるかを先行研究を通して考察し、それらを土台として独自の研究(修士論文)を行うための能力を養成する。具体的に対象とするトピックは、対人コミュニケーション、異文化コミュニケーション、語用論、コミュニケーション能力研究、等となる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 関連領域の基盤的知識 (語用論、対人コミュニケーション論、社会心理学等) の獲得
2. 先行研究の概観と課題の探索
3. 修士論文のテーマ(研究課題) の絞り込み
4. 修士論文のProposal: 最初の数章 (先行研究、研究課題/研究仮説の特定、方法論) の完成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 Orientation
- 第 2 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #01 (on Definitions of Communication)
- 第 3 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #02 (on Code Model of Communication)
- 第 4 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #03 (on Inference Model of Communication)
- 第 5 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #04 (on Message Effects)
- 第 6 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #05 (Cognition and Communication)
- 第 7 回 Interim Report
- 第 8 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #06 (on Interpersonal Communication)
- 第 9 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #07 (on Message Design Logic)
- 第 10 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #08 (on Cognitive Complexity and Communication)
- 第 11 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #09 (on Empathy and Perspective Taking)
- 第 12 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #10 (on Persuasive Communication)
- 第 13 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #11 (on Intercultural Communication)
- 第 14 回 Report & Discussion on the Reading Assignment #12 (on Communication Competence)
- 第 15 回 Proposal Meeting

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 各授業は、各週のReading Assignmentについての(1)院生からの批判的報告、(2)担当教員からの解説、(3)担当教員と院生とのディスカッション、によって構成される。15週間という限られた時間内に関連領域の知識をつけ、また修士論文のテーマを絞り込む必要性から、各週のReading Assignmentsを深く読み込んでいくことが重要となる。
2. 学期末までに、修士論文のProposalを完成する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

各週のReading Assignmentを精読し、ディスカッションの準備を行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. 各週のReading Assignmentsの批判的報告およびディスカッション (50%)
2. 修士論文Proposal (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

修士論文のトピック等を考慮し、1週間に1~2本程度の論文/Book ChapterをReading Assignmentsとする。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091E0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

—

60

必修

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

文学で修士論文を書こうと思っている院生が自分で作品を読みこなし、研究書をどう扱うのかを教えるクラスである。わたしの専門がジェイムズ・ジョイスなので、専門演習では好むと好まざるにかかわらず『ユリシーズ』の一部を読む。またそれ以外のジョイスの作品やその他その周辺のアイルランドの文学、イギリスの小説、カルチュラル・スタディーズなど受講者の希望によって内容を変更し、個人指導をする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 修士論文を書くに当たっての研究方法の習得
- (2) 原作及び資料、批評書を読むための英語力の向上
- (3) 原作の精読の習得
- (4) 先行論文の把握
- (5) 研究テーマの確定

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	毎講義のための準備や講義自体の内容を理解することができない。	毎講義の準備をある程度準備し、分からない点を質問できず。	講義を受けるための予習ができていて、質問に答えることができる。	講義の予習が完璧にできた上で、新たな視点で自分の解釈を論じることができる。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション  
それぞれの研究テーマの把握とクラス内容の相談
- 第 2 回 院生の研究方向の確認  
文学基本読解方法の確認と研究におけるメソッドの説明
- 第 3 回 作品読解 1  
ジョイスの”A Painful Case”前半 2 分の 1 までの精読
- 第 4 回 作品読解 2  
ジョイスの”A Painful Case”前半までの精読
- 第 5 回 作品読解 3  
ジョイスの”A Painful Case”後半 2 分の 1 までの精読
- 第 6 回 作品読解 4  
ジョイスの”A Painful Case”最後まででの精読
- 第 7 回 研究方法紹介 1  
クリティシズムの紹介とディスカッション
- 第 8 回 作品読解 5  
Ulysses 第 1 挿話を読む
- 第 9 回 作品読解 6  
Ulysses 第 3 挿話を読む
- 第 10 回 作品読解 7  
Ulysses 第 8 挿話を読む
- 第 11 回 作品読解 8

- Ulysses 第 13 挿話を読む
- 第 12 回 作品読解 9  
Ulysses 第 15 挿話を読む
- 第 13 回 作品読解 10  
Ulysses のビデオ鑑賞
- 第 14 回 研究方法紹介 2  
クリティシズムの紹介とディスカッション
- 第 15 回 総まとめ  
まとめとその他

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 文学・映画テキストの精読
- (2) 先行論文の紹介
- (3) 研究テーマの紹介
- (4) ディスカッション
- (5) レポート提出
- (6) 発表
- (7) 授業中の発問と学生の解答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

大変少人数で行うクラスであるので、それぞれが課題教材をしっかりと読んでまとめてくる必要がある。必ず指定の参考書や資料も読み、担当箇所の配布資料を準備してこることが求められている。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 (50%)、提出物 (30%)、発表 (20%) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

各の学生の研究テーマによって内容を変更する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

*Ulysses Annotated*/Don Gifford/Univ.of California Press /1974年/9.780520253971E12

*James Joyce's Ulysses*/Harold Bloom/Chelses House/1987年/1555460216

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

専門演習

210091F0J  
 大学院  
 人間文化研究科 > 応用英語専攻  
 2単位 後期集中  
 その他  
 ー  
 60  
 必修  
 田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

データを収集して一般化を行い、それをもとに仮説を立て、それを検証・修正していく方法論を学ぶ。これを繰り返して提案を行うという理論言語学の方法論を実践し、論文にまとめることを最終目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 理論言語学の方法論をきちんと身につける。
2. 言語学の方法論を実践する。
3. 修士論文に執筆を念頭に、関連した小論文を作成する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 理論言語学の方法論  
 ・理論言語学の方法論をおさらいします。  
 ・より学術的なレベルでの方法論を導入します。
- 第 2 回 事前インタビュー  
 ・学生がどのようなテーマに興味を持っているか尋ねます。  
 ・テーマに応じて先行研究の紹介をします。
- 第 3 回 トピックの決定と先行研究の紹介  
 ・トピックの決定と先行研究の紹介をします。  
 ・先行研究の探し方を学びます。
- 第 4 回 先行研究の読み方1 (受講者数により回数調整)  
 ・先行研究がどのような意義や波及効果をもたらしたかを議論します。  
 ・データや分析を鵜呑みにするのではなく、批判的に読んでいく手法を学びます。
- 第 5 回 先行研究の読み方2 (受講者数により回数調整)

- ・先行研究がどのような意義や波及効果をもたらしたかを議論します。  
 ・データや分析を鵜呑みにするのではなく、批判的に読んでいく手法を学びます。
- 第 6 回 先行研究の読み方3 (受講者数により回数調整)  
 ・先行研究がどのような意義や波及効果をもたらしたかを議論します。  
 ・データや分析を鵜呑みにするのではなく、批判的に読んでいく手法を学びます。
- 第 7 回 データの収集  
 ・先行研究で提示されたデータ、及び関連するデータの反例を探します。  
 ・最小対によるデータベースを作成します。  
 ・文法性判断を知人、友人などに依頼します。
- 第 8 回 中間発表  
 ・現時点での進捗状況を報告し合うことで、学生がお互いを刺激することにつながります。
- 第 9 回 アウトライン  
 ・修士論文のアウトラインを作成し、大まかな構想を立てます。
- 第 10 回 データの分析と一般化  
 ・集めたデータの文法性判断を整理し、一般化を行います。
- 第 11 回 仮説を立ててみよう  
 ・一般化から仮説を立てます。
- 第 12 回 仮説の検証  
 ・仮説が正しいかどうか、を検証します。
- 第 13 回 分析と提案  
 ・仮説をもとにデータを分析します。  
 ・選んだアプローチに対してどのような帰結や意義、波及効果があるかをまとめます。
- 第 14 回 修士論文の提案書作成1 (受講者数により回数調整)  
 ・修士論文の提案書を作成します。  
 ・修士論文執筆に関する最後のアドバイスをを行います。
- 第 15 回 修士論文の提案書作成2 (受講者数により回数調整)  
 ・修士論文の提案書を作成します。  
 ・修士論文執筆に関する最後のアドバイスをを行います。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

・修士論文の提案書を提出してもらいます。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・読む習慣、書く習慣を身につけましょう。
- ・周りの言語表現に絶えず気を配り、メモを取る習慣をつけましょう。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・授業参加はもちろん、授業外でも担当教員と連絡を取り、関連文献を探しましょう。特に、手に入らない文献については、必ず担当教員に相談して下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・ 授業参加 (ディスカッションや質疑応答など) : 50%
- ・ 修士論文の提案書 : 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

- ・ 先行研究や参考文献を適宜紹介していきます。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

- ・ 初回授業で話し合い、それを基に決定します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

### 専門演習

210091G0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

受講生各自が選んだ研究テーマについて、それを深化・発展させて、修士論文につなげていくための個別指導を行う。本授業で扱う英語教育の領域は、シラバス・教材開発、授業設計、授業分析のほか、自律学習、協調学習、DBR(Design-based Research)といったテーマについても指導する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 研究テーマに関連する先行研究の読解と整理
2. 研究テーマの絞り込み
3. 研究仮説 / Research Questionsの設定
4. 研究計画 (Research Proposal) 作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	関連テーマに関する研究について全く説明できない。	テキストを参照しながらだと、関連テーマに関する研究が何かを説明できる。	テキストを見ずに、関連テーマに関する研究が何か自分の言葉で説明することができる。	関連テーマに関する研究について、自分の言葉で説明ことができ、自身の研究について研究法を限定できる。
発信力	研究成果を発表することができない	研究成果を教室内で発表できる	研究成果を学内で発表できる	研究成果を関連学会で発表できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 関連テーマについての概論的講義
- 第 2 回 関連テーマについての資料の収集方法
- 第 3 回 関連テーマについての資料の読解方法
- 第 4 回 関連テーマについての資料の読解演習
- 第 5 回 関連テーマについての資料の読解と整理
- 第 6 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の整理
- 第 7 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の選択
- 第 8 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の考察
- 第 9 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の再整理
- 第 10 回 研究テーマを絞り込むための追加資料の収集
- 第 11 回 研究テーマを絞り込むための追加資料の整理
- 第 12 回 研究テーマを絞り込むための追加資料の考察
- 第 13 回 修士論文の構成
- 第 14 回 研究計画の作成
- 第 15 回 修士論文の研究計画書 (Research Proposal) の作成

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業方法
  - (1) 研究論文や実践報告書の講読と演習
  - (2) 研究テーマや研究計画の発表とそれに対する助言
2. 研究方法
  - (1) 研究テーマに関係する先行研究の把握
  - (2) 研究仮説の検討
  - (3) 研究計画の作成

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業予定を把握し、資料をあらかじめ準備する。そのうえで、必ず授業までに資料を読んで、授業に臨む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表や報告に基づく授業参加点 (40%) と修士論文プロポーザル (60%) に基づき総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

この授業では、課題の種類や状況に応じて、適宜オンラインを取り入れる。

毎回与えられる課題を必ずこなして、修士論文執筆の基礎固めを確実に達成すること。

関連学会への参加、出席を奨励する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

John Furlong and Alis Oancea (2005) "Assessing Quality in Applied and Practice-based Educational Research : A Framework for Discussion"

The Design-Based Research Collective (2003) "Design-Based Research: An Emerging Paradigm for Educational Inquiry"

教員が準備したプリント

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

『ロングマン応用言語学辞典』//南雲堂//

『英語教育用語辞典』//大修館/最新刊/

『Longman Dictionary of Applied Linguistics and Language Teaching』/Richards, J. and R. Schmidt/Longman/2010/

『英語教育学大系 第1巻 大学英語教育学』/森住衛編さん/大修館書店/2010/

『英語教育学大系 第11巻 英語授業デザイン—学習空間づくりの教授法と実践』/山岸信義, 鈴木 政浩, 高橋 貞雄(編)/大修館書店/2010/

海外学術雑誌 (Applied Linguistics, TESOL Quarterly, ELT Journalなど)と国内学会紀要 (ARELE, JACET Journal, SELT など), 研究書などからの関連論考

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

### 専門演習

210091H0E

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

一

60

必修

York Weatherford

### [科目の教育目標 (Course Description)]

The course will focus on second language acquisition (SLA) and how languages are learned and taught. Students will also gain an understanding of how second language learning compares to first language acquisition. The course will help students better understand the processes and strategies involved in learning an additional language and the methods employed in teaching second-language learners. Students will also develop the ability to do original research for a master's thesis in the area of second language learning and teaching.

### [教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. Acquisition of basic knowledge of second language acquisition and teaching
2. Overview of previous research and issues
3. Narrow down the topic of the master's thesis
4. Master's thesis proposal: Completion of the first few chapters (previous research, research subject /research hypothesis, and methodology)

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

### [授業計画]

第 1 回 Introduction to Second Language Acquisition

第 2 回 Native Language Influences

第 3 回 The Linguistic Environment

第 4 回 Universal Grammar

第 5 回 Cognition

第 6 回 Intelligence and Aptitude

第 7 回 Motivation and Attitudes

第 8 回 Personality

第 9 回 Learning Styles and Strategies

第 10 回 Age and the Critical Period

第 11 回 Learner Language

第 12 回 Social Dimensions

第 13 回 Second Language Teaching

第 14 回 Teacher-Student Interactions

第 15 回 Classroom Research and Teaching

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

### [教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. Each lesson consists of (1) a critical review of the week's reading assignments by the student (2) commentary from the instructor, and (3) a discussion between the instructor and the student about the reading assignments. It is important to read each week's assignments thoroughly in order to narrow down the topic of the master's thesis within the limited time.
2. By the end of the course, complete the master's thesis proposal.

### Feedback methods:

1. For in-class reports, students will receive feedback in class in the form of oral commentary.
2. For written reports, students will receive written feedback within one week of submission.

### [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

1. Read the assigned materials.
2. Prepare a critical review of the assigned reading.
3. Send e-mail to the instructor in case of questions.
4. Write a thesis proposal.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

1. Critical review and discussion of each reading assignment (50%)

2. Master's thesis proposal (50%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

References to current research and practices will be provided.

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Reading assignments will include one or two articles based on the topic of the master's thesis.

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

### 専門演習

210091I0E

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

ー

60

必修

Lyle De Souza

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

This course introduces students to literary criticism.

The course is divided thematically into three sections

? History & Theories

? Practice

? Contexts

Students learn by applying literary criticism to a wide range of literature in the English language.

The course prepares students for advanced study of literature at postgraduate level.

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

Introduce students to the most significant schools of literary criticism.

Teach students how to apply literary criticism to the analysis of selected works.

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	Does not meet expectations for the course yet.	Meets expectations set out for the course.	Exceeds expectations in some areas of the course.	Exceeds expectations in most areas of the course.

知識・理解力	Does not meet expectations for the course yet.	Meets expectations set out for the course.	Exceeds expectations in some areas of the course.	Exceeds expectations in most areas of the course.
言語力	Does not meet expectations for the course yet.	Meets expectations set out for the course.	Exceeds expectations in some areas of the course.	Exceeds expectations in most areas of the course.
思考・解決力	Does not meet expectations for the course yet.	Meets expectations set out for the course.	Exceeds expectations in some areas of the course.	Exceeds expectations in most areas of the course.
共生・協働する力	Does not meet expectations for the course yet.	Meets expectations set out for the course.	Exceeds expectations in some areas of the course.	Exceeds expectations in most areas of the course.
創造・発信力	Does not meet expectations for the course yet.	Meets expectations set out for the course.	Exceeds expectations in some areas of the course.	Exceeds expectations in most areas of the course.

〔授業計画〕

第 1 回 What is Literary Theory?

第 2 回 Early literary theories

第 3 回 New Criticism

第 4 回 Formalism

第 5 回 Reader-response Criticism

第 6 回 Structuralism, Semiotics

第 7 回 Post-structuralism, Deconstruction

第 8 回 New Historicism

第 9 回 Cultural Studies

第 10 回 Postcolonial Criticism

第 11 回 Ethnic Studies

第 12 回 Gender Studies

第 13 回 Feminist Criticism

第 14 回 Queer Studies

第 15 回 Psychoanalytical Criticism

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

This course is conducted entirely in English.

Students read a variety of literature in the English language.

Students study in the classroom individually as directed by the professor. Students study in pairs (or small groups) for discussions and close readings. Students provide each other with encouragement and feedback. Students read together

with other students to encourage the mutual development of positive reading habits.

Students study outside the classroom by completing homework assignments and tests set by the professor. Homework is submitted and graded using Manaba or Microsoft Teams. Students receive regular written feedback from their professor on their homework.

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

Before class, students should read the syllabus and prepare as directed by the professor. Usually this will be a close reading of the Nikkei diaspora literature that we are reading. A close reading requires taking notes and writing a summary of the assigned pages, plus writing at least 2-3 questions and points for discussion with other students and the professor.

Please bring your textbook, paper, and pens to the classroom. A mobile phone or laptop with internet access is required to take attendance and to search for information.

After class, students should review to make sure that they understand everything.

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

60

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

Assignments and tests 80%

Engagement 20%

[留意事項 (Other Information)]

CHANGES TO SYLLABUS

The contents and schedule of this syllabus may change according to the needs and abilities of the class, or due to other circumstances.

GRADING

秀 Excellent (S) 90 to 100%

優 Very good (A) 80 to 89%

良 Good (B) 70 to 79%

可 Pass (C) 60 to 69%

不合格 Fail (D) 0 to 59%

提出された Submitted (ungraded)

All assignments and tests must be submitted.

Work not submitted, or submitted late, will lower the final grade.

ENGAGEMENT

Attendance is taken within the first 15 minutes of every class.

Students should actively participate in the classroom or online by completing their work, answering questions, being active in discussions, and so on.

ACADEMIC INTEGRITY

Students must:

- follow university rules on academic integrity, academic misconduct, and ethical guidelines.

- not cheat, plagiarise, or commit any other academic misconduct.

- respect diversity.

SAFETY

Students must:

- follow university safety guidelines.

GETTING IN TOUCH

Email:

lyle@notredame.ac.jp (Tuesday to Friday)

Office hours:

Thursdays 1300 to 1430 (make a 15-minute appointment using the link below)

<https://www.lyledesouza.com/contact>

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

There is no textbook required for this course.

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

[参考URL(URL for Reference)]

[lyledesouza.com/teaching](http://lyledesouza.com/teaching)

[実務経験のある教員による実践的科目]

---

専門演習

210091JOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期集中

その他

喜多 容子

---

[科目の教育目標 (Course Description)]

受講生各自が選んだ研究テーマについて、それを深化・発展させて、修士論文につなげていくための個別指導を行うことを目標とします。応用言語学・英語教育分野の中でも4技能の指導法に関して、理論領域と実践領域の有機的つながりを意識することで、院生各自の研究課題が修士論文へとつながることを期待します。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 英語教育学, 応用言語学関連の基盤的知識の獲得
2. 研究テーマに関連する先行研究の整理と読解
3. 研究テーマの絞り込み

4. 研究仮説又は研究上の問い (Research Questions) の設定  
 5. 研究計画 (Research Proposal) の作成

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

- 第 1 回 授業の進め方等の説明  
 第 2 回 関連テーマに関する概論的講義  
 第 3 回 関連テーマに関する資料の収集方法  
 第 4 回 関連テーマに関する資料の読解方法  
 第 5 回 関連テーマに関する資料の読解演習  
 第 6 回 関連テーマに関する資料の整理  
 第 7 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の整理  
 第 8 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の選択  
 第 9 回 研究テーマを絞り込むための先行研究の考察  
 第 10 回 研究テーマの絞り込み  
 第 11 回 研究仮説又は研究上の問い (Research Questions) の設定  
 第 12 回 研究仮説又は研究上の問い (Research Questions) に対する検証  
 第 13 回 修士論文のアウトライン  
 第 14 回 修士論文の研究計画 (Research Proposal) の作成  
 第 15 回 修士論文の研究計画 (Research Proposal) の見直しと修正

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各回の授業において、研究課題に関連する文献を 1 本の割合で読み進めていきます。

基本的には院生が各文献の批判的レビューを行い、担当教員が補足的説明を行います。批判的分析を院生と担当教員との間でディスカッションを通して行い、院生の修士論文におけるプロポーザルに結びつけていきます。また、提出された課題については、その都度コメントを付して返却し、次の課題へつなげる形でフィードバックを行います。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

院生自らが選んだ研究論文と教員から与える文献を精読したうえで、授業に臨むことが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表や討論・報告などの授業参加度 50%、修士論文プロポーザル 50%

〔留意事項 (Other Information)〕

研究会・学会への積極的参加を奨励する

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

必要な文献・論文等はこちらから配布する

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

その都度通知する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インディペンデントスタディーズ

210101A0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

8単位 集中

その他

一

必修

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書(M1後期提出)に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究(分析)を遂行する。

・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。

・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究指導教員(主査)と2名の研究副指導教員(副査)による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インディペンデントスタイル

210101B0J  
 大学院  
 人間文化研究科 > 応用英語専攻  
 8単位 集中  
 その他  
 ー  
 必修  
 小山 哲春

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書(M1後期提出)に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究(分析)を遂行する。
- ・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
- ・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。  
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究指導教員(主査)と2名の研究副指導教員(副査)による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準につ

いては、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕
- 〔参考URL(URL for Reference)〕
- 〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インディペンデントスタイル

210101C0J  
 大学院  
 人間文化研究科 > 応用英語専攻  
 8単位 集中  
 その他  
 ー  
 必修  
 須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書(M1後期提出)に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究(分析)を遂行する。
- ・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
- ・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。  
 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究指導教員(主査)と2名の研究副指導教員(副査)による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

- 〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

インディペンデントスタイルズ

210101FOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

8単位 集中

その他

ー

必修

東郷 多津

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書(M1後期提出)に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究(分析)を遂行する。

・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。

・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	英語圏文学・文化、言語としての英語、言語(異文化間)コミュニケーション等に関する知識の中で、自身の専門領域に関する知識でさえ不足している	英語圏文学・文化、言語としての英語、言語(異文化間)コミュニケーション等に関する知識の中で、自身の専門領域における知識は習得している	英語圏文学・文化、言語としての英語、言語(異文化間)コミュニケーション等に関する知識の中で、自身の専門領域に関する知識と、それ以外の領域に関する知識を習得している	英語圏文学・文化、言語としての英語、言語(異文化間)コミュニケーション等に関する幅広い知識を身に付けている
言語力	自身の専門領域における研究・教育・実践活動を英語で説明することができない	自身の専門領域における研究・教育・実践活動を英語で説明することができる	自身の専門領域における研究・教育・実践活動を限定した場面であれば英語で遂行することができる	自身の専門領域における研究・教育・実践活動を国際社会において英語で遂行することができる

創造・発信力	英語圏文学・文化、言語としての英語、言語(異文化間)コミュニケーション等の領域のいずれにおける研究遂行能力、または実践家としての能力も備えていない	英語圏文学・文化、言語としての英語、言語(異文化間)コミュニケーション等の領域のいずれかにおいて、補助や助言を受けながら研究遂行できる	限られた範囲であれば、英語圏文学・文化、言語としての英語、言語(異文化間)コミュニケーション等の領域のいずれかにおいて、自力で研究遂行できる、または実践できる。	英語圏文学・文化、言語としての英語、言語(異文化間)コミュニケーション等の領域のうち、いずれかにおける高い研究遂行能力、または幅広い範囲に適応できる実践家としての能力を備えている
--------	---	---	--	---

〔授業計画〕

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

ー

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究指導教員(主査)と2名の研究副指導教員(副査)による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

210101G0E  
 大学院  
 人間文化研究科 > 応用英語専攻  
 8単位 集中  
 その他  
 ー  
 必修  
 Steven Herder

【科目の教育目標 (Course Description)】

「専門演習」で習得した専門的知識を基盤に、研究計画書(M1後期提出)に従って研究を遂行し、修士論文を執筆する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- ・研究計画書(Proposal)に従い、適切な方法論を用いて研究(分析)を遂行する。
- ・研究計画の問題点を適宜修正し、また、必要に応じて新たな課題を追加して研究を遂行する。
- ・適切なAcademic Englishによる修士論文の執筆を行う。

【授業計画】

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

研究指導教員の指導による。指導教員のガイダンスに従い、研究遂行と論文執筆に必要な講義、演習、個人指導、その他の形式での指導を受けること。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

詳細は授業中に指示する。指導教員の指示に従うこと。

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

ー

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

研究指導教員(主査)と2名の研究副指導教員(副査)による論文審査・口頭試問を行う。修士論文の評価基準については、応用英語専攻発行の修士論文執筆の手引きを参照のこと。

【留意事項 (Other Information)】

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

210232N0J  
 大学院  
 人間文化研究科 > 応用英語専攻  
 集中  
 鬼田 崇作

【科目の教育目標 (Course Description)】

第二言語習得理論の主なものを理解し、そうした知見と第二言語指導との接点についても理解し、考察できる。さらに、基礎的な第二言語習得研究の方法についても理解する。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

- 1) 第二言語習得理論の主なものについて理解する
- 2) 第二言語習得理論と実際の第二言語指導との接点について理解を深め、理論に裏付けられた第二言語指導とは何かを考察できる
- 3) 第二言語習得について研究する手法、データ、分析の仕方について理解する

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

【授業計画】

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 第二言語習得における個人差
- 第 3 回 第二言語習得の認知的要因
- 第 4 回 第二言語習得論の理論的枠組
- 第 5 回 第二言語習得と外国語教授法
- 第 6 回 第二言語習得とスキル獲得
- 第 7 回 中間のまとめ
- 第 8 回 小学校の英語教育
- 第 9 回 中学校の英語教育
- 第 10 回 高等学校の英語教育
- 第 11 回 成人の英語教育
- 第 12 回 文献レビュー
- 第 13 回 文献レビュー
- 第 14 回 文献レビュー
- 第 15 回 まとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

毎回、教科書の輪読と履修者による議論を行います。教科書の内容をまとめるだけでなく、関連する文献を履修者自らが積極的に調べ、授業内の議論に還元することを期待します。また、履修者自らが興味のある分野の研究内容を掘り下げるため、履修者が選んだ文献を数点レビューしてもらうことを課題とします。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

授業内の議論で積極的に発言できるように、関連する内容を調べたり、不明点、質問点を明らかにしてから、授業ののぞむようにしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加と討論への積極的な参加 (50%)、文献レビュー (50%) を評価の対象とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『英語教師のための第二言語習得論入門』/白井恭弘/大習慣書店/2012/4469245704/

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『Theories in Second Language Acquisition: An Introduction (3rd edition)』/ Bill VanPatten, Gregory D. Keating, Stefanie Wulff / Routledge / 2020/

『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』/ 鈴木渉 (編) / 大修館書店 / 2017 /

『英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』/ 廣森友人 / 大修館書店 / 20015 /

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 英語教育学特論Ⅰ (Language Pedagogy)

210234N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 前期集中

その他

—

90

集中

鬼田 崇作

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

言語教育の主要なテーマを理解し、様々な関連する内容について考察できる。さらに、学習した内容を教育実践にどのように生かすのかを具体的に考えることができる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 外国語教育研究についての基本的な考え方を理解する
- 2) 現代の外国語教育の方法について歴史的な背景を理解する
- 3) 外国語教育実践について具体的な方法を考えることができる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 外国語学習の目的論

第 3 回 外国語教授法の変遷

第 4 回 学習者要因の理解

第 5 回 外国語学習の教材論

第 6 回 外国語の授業作り

第 7 回 外国語の授業改善

第 8 回 中間のまとめ

第 9 回 外国語学習の評価論

第 10 回 外国語学習の教師論

第 11 回 今後の課題

第 12 回 文献レビュー

第 13 回 文献レビュー

第 14 回 文献レビュー

第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回、教科書の輪読と履修者による議論を行います。教科書の内容をまとめるだけではなく、関連する文献を履修者自らが積極的に調べ、授業内の議論に還元することを期待します。また、履修者自らが興味のある分野の研究内容を掘り下げるため、履修者が選んだ文献を数点レビューしてもらうことを課題とします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業内の議論で積極的に発言できるように、関連する内容を調べたり、不明点、質問点を明らかにしてから、授業にのぞむようにしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加と討論への積極的な参加 (50%)、文献レビュー (50%) を評価の対象とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『教師教育講座第16巻：中等英語教育』/深澤清治 (編著) / 協同出版 / 2014 / 4319106865

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法』/ 酒井英樹・廣森友人・吉田達弘 (編著) / 大修館書店 / 2018 /

『実践例で学ぶ第二言語習得研究に基づく英語指導』/ 鈴木 渉 (編) / 大修館書店 / 2017 /

『英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』/ 廣森友人 / 大修館書店 / 20015 /

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

英語教育学特論III(Classroom Research)

210236NOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

木曜 4限

ー

60

集中

東郷 多津

[科目の教育目標 (Course Description)]

授業は学習者を含めた相互行為の結果でもある。したがって、同じ授業者が、同じ教材、同じ授業法を使用しても再現できない現象である。本科目では、授業実践者が自らの実践を研究する授業実践研究に立脚し、授業分析研究の視点を踏まえながら、「よい授業とは？」への回答を追求してみたい。

[教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

1. 授業実践研究についての知識・理解を深める
2. 授業分析についての知識・理解を深める
3. 授業分析結果を授業改善へと繋げる方途を検討する

[ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業実践研究について全く説明できない	テキストを参照しながらだと、授業実践研究が何かを説明できる	テキストを見ずに、授業実践研究が何か自分の言葉で説明することができる	授業実践研究が何かを自分の言葉で説明することができ、自身の研究について研究法を適用できる

[授業計画]

- 第 1 回 授業実践研究と授業分析研究についてのオリエンテーション
- 第 2 回 2: Introduction to Part One: The Historical and Conceptual Background to Researching Practice
- 第 3 回 3: From Research to Practitioner Research: Setting Exploratory Practice in Context.
- 第 4 回 4: Perspectives on the ‘Family’ of Practitioner Research.- Chapter
- 第 5 回 5: The Evolution of the Exploratory Practice Framework
- 第 6 回 6: Puzzles, Puzzling and Puzzlement.- PART II

第 7 回 7: Introduction to Part Two: Developing Understanding from Practice

第 8 回 8: Understanding from Practice: Integrating Research and Pedagogy

第 9 回 9: Understanding from Practice: Collegial Working

第 10 回 10: Understanding from Practice: Continuing Personal and Professional Development.- PART III

第 11 回 11: Introduction to Part Three: Understanding for Practice

第 12 回 12: Understanding for Practice: Puzzles, Puzzling and Trust

第 13 回 13: Understanding for Practice: PEPAs, Culture and Identity

第 14 回 14: Conclusions.- PART IV: Resources.

事例研究：観察と評価 (3)

第 15 回 授業実践研究まとめ

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

[教育・学習の方法 (Course Methods)]

1. 授業方法

(1) テキストを中心とした主要文献の講読と演習

(2) 実際の授業 (またはビデオの視聴) の分析方法についての演習

2. 研究方法

(1) 授業実践研究関連の文献読解

(2) 授業分析方法の習得

(3) 授業分析結果の授業改善・改革への応用

レポートに関するフィードバックは、必要に応じて、直接またはweb上で、個人または全体に対して行います。

[準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

授業前に必ず文献を読んで授業に臨むこと。

また、授業内に質問やディスカッションができるよう、あらかじめ、関連する情報について調べておくこと。

必要であれば、指定箇所以外の箇所も積極的に取り組む姿勢が求められる。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

25

[評価方法・評価基準 (Evaluation)]

評価は、平常点 (テキストの読み込みと授業内ディスカッション) 50% とレポート (課題とまとめ) 50% により、総合的に行う。

[留意事項 (Other Information)]

・受講生の経験やニーズにより、進度、内容の優先度および順番が換わる可能性がある。

・この授業では、課題の種類や状況に応じて、適宜オンラインを取り入れる。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

Exploratory Practice in Language Teaching: Puzzling About Principles and Practices (Research and Practice in Applied Linguistics) / Judith Hanks/ Palgrave Macmillan/ 2017/

その他、必要に応じてプリントを配布する。

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]

学習開発研究所『「教える」から「学ぶ」への変革：学習投資への道 学習開発シリーズ』[Kindle版], 2014

金田道和編『英語の授業分析』大修館書店, 1986.

高梨庸雄『英語の「授業力」を高めるために』三省堂, 2005.

Lynch, T. Communication in the Language Classroom. Oxford U.P.

1996.

Tajino, A, Stewart, T, Dalsky, D(ed.) Team Teaching and Team Learning in the Language Classroom: Collaboration for innovation in ELT. Routledge.2015

[参考URL(URL for Reference)]

[実務経験のある教員による実践的科目]

## 英語教育学特論IV(Curriculum Design)

210237NOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

後期

鬼田 崇作

### [科目の教育目標 (Course Description)]

外国語教育のカリキュラムに関する基本的な知識や理論的背景を理解することができる。

### [教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

本授業では、以下のテーマについて、理解を深める。

- ・カリキュラム開発の理論的背景
- ・カリキュラム開発の方法
- ・カリキュラム開発の原理
- ・環境分析・ニーズ分析
- ・シラバス
- ・学習目標
- ・授業運営
- ・タスク, 教材
- ・評価
- ・ケーススタディ

### [ルーブリック表]

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				

### [授業計画]

- 第 1 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
オリエンテーション
- 第 2 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
外国語教育におけるカリキュラム開発の基本的知識 (テキストCh. 1)
- 第 3 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
ニーズ分析 (テキストCh. 3)
- 第 4 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
目標・内容・順序 (テキストCh. 5)
- 第 5 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
評価 (1) (テキストCh. 7)
- 第 6 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
評価 (2) (テキストCh. 8)
- 第 7 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
中間のまとめ
- 第 8 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
カリキュラムデザイン (テキストCh. 9)
- 第 9 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
シラバス (テキストCh. 10)
- 第 10 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
コースブック (テキストCh. 11)
- 第 11 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
インサービスコース (テキストCh. 13)
- 第 12 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
文献レビュー
- 第 13 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
文献レビュー
- 第 14 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
文献レビュー
- 第 15 回 (タイトルがあれば記入。無ければ消してください。)  
まとめ
- [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]  
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

毎回、教科書の輪読と履修者による議論を行います。教科書の内容をまとめるだけでなく、関連する文献を履修者自らが積極的に調べ、授業内の議論に還元することを期待します。また、履修者自らが興味のある分野の研究内容を掘り下げるため、履修者が選んだ文献を数点レビューしてもらうことを課題とします。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業内の議論で積極的に発言できるように、関連する内容を調べたり、不明点、質問点を明らかにしてから、授業にのぞむようにしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加と討論への積極的な参加 (50%)、文献レビュー (50%) を評価の対象とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

Macalister, J. & Nation, I. S. P. (2020). Language Curriculum Design (2nd edition). Routledge. (ISBN: 9780367196509)

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

英米文学作品研究 c

210243N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

前期

月曜 5限

大川 淳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

Herman Melvilleの作品を読み、文学における英語表現を正確に精読し、考察することを目標とする。アメリカン・ルネッサンス期の時代背景やMelvilleの伝記的背景を理解し、批評する能力を涵養することも目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

難解なMelville文学を読むにあたって、一語一句分析する姿勢を身につける必要がある。

また、文学批評を行うにあたって、作品の先行研究などを渉猟することも求められる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				

言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーションおよびMelville文学について

第 2 回 "The Bell-Tower" 精読および分析 (p.174~177第 2 段落)

第 3 回 "The Bell-Tower" 精読および分析 (~p.180第 3 段落)

第 4 回 "The Bell-Tower" 精読および分析 (~p.183第 1 段落)

第 5 回 "The Bell-Tower" 精読および分析 (~p.186第 1 段落)

第 6 回 "The Bell-Tower" 精読および分析 (~p.187)

第 7 回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (p.378~p.381第 1 段落)

第 8 回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.383第 2 段落)

第 9 回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.385)

第 10 回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.388第 1 段落)

第 11 回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.390第 2 段落)

第 12 回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.392)

第 13 回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.394)

第 14 回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.396)

第 15 回 "The Apple-Tree Table" 精読および分析 (~p.397)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

・テキストの精読 (辞書を引き、表面的な意味にとらわれず多角的な視点からに読むこと)

・テキスト分析 (受動的に読むのではなく、能動的にテキストに意味を見出すこと)

・リサーチ (先行研究を把握すること)

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

準備学習としてテキストの精読を求める。その際、不明な箇所や、解釈に関するコメントを事前に明確にしておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 40% (準備学習および授業でのコメントの評価)  
レポート 60%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

配布プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Melville, Herman. The Piazza Tales and Other Prose Pieces 1839-1860. Ed. Harrison Hayford, Alma A. MacDougall, and G. Thomas Tanselle. Evanston: Northwestern UP and The Newberry Library, 1987.

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 英米文学作品研究 d

210244N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻  
2単位 前期

その他

ー

90

佐々木 徹

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語で書かれた小説を読解するうえでの基礎的な技術を身につけるための授業です。ヘミングウェイの「殺し屋たち」と、ロレンスの「盲目の男」を精読し、テキストの英語を正確に読み取るプロセスの理解を通じて、その知識を他の作品を読むときに応用するためのトレーニングを積み、リーディングのスキルを向上させることを目標とします。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

学んだ知識は、それを自分で使ってみることで、初めて生きた知識になります。小説を読むための知識を、そのような生きた知識に変えるには、多くの小説に接すること、そして問題意識を持って考えながら読むことが必要です。

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	辞書を丁寧にひきながら予習をして授業に参加し、授業の中の訳読や議論に積極的に参加できない	辞書を丁寧にひきながら予習をして授業に参加し、授業の中の訳読や議論に積極的に参加できる	辞書を丁寧にひきながらよく予習をして授業に参加し、授業の中の訳読や議論に積極的に参加できる	辞書を丁寧にひきながら非常によく予習をして授業に参加し、授業の中の訳読や議論に積極的に参加できる

知識・理解力	作者や作品の背景について基礎的な知識を持ち、作品に関する様々な論点を理解できない	作者や作品の背景について基礎的な知識を持ち、作品に関する様々な論点を理解できる	作者や作品の背景について基礎的な知識を持ち、作品に関する様々な論点をよく理解できる	作者や作品の背景について基礎的な知識を持ち、作品に関する様々な論点を非常によく理解できる
言語力	学作品を原書で読むための英語読解能力を持っていない	学作品を原書で読むための英語読解能力を持っている	学作品を原書で読むための英語読解能力をよく持っている	学作品を原書で読むための英語読解能力を非常によく持っている
思考・解決力	想像力をつかって作品を理解できない	想像力をつかって作品を理解できる	想像力をつかって作品をよく理解できる	想像力をつかって作品を非常によく理解できる
共生・協働する力	意見交換やディスカッションを通じて、作品についての相互の理解を高めあえない	意見交換やディスカッションを通じて、作品についての相互の理解を高めあえる	意見交換やディスカッションを通じて、作品についての相互の理解をよく高めあえる	意見交換やディスカッションを通じて、作品についての相互の理解を非常によく高めあえる
創造・発信力	作品の主題や読みどころについて自分の言葉で表現できない	作品の主題や読みどころについて自分の言葉で表現できる	作品の主題や読みどころについて自分の言葉でよく表現できる	作品の主題や読みどころについて自分の言葉で非常によく表現できる

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション (授業の概要を説明します)
- 第 2 回 Hemingway, "The Killers" の最初の7分の1を読む。
- 第 3 回 Hemingway, "The Killers" の次の7分の1を読む。
- 第 4 回 Hemingway, "The Killers" の次の7分の1を読む。
- 第 5 回 Hemingway, "The Killers" の次の7分の1を読む。
- 第 6 回 Hemingway, "The Killers" の次の7分の1を読む。
- 第 7 回 Hemingway, "The Killers" の次の7分の1を読む。
- 第 8 回 Hemingway, "The Killers" の最後の7分の1を読む。
- 第 9 回 Lawrence, "The Blind Man" の最初の7分の1を読む。
- 第 10 回 Lawrence, "The Blind Man" の次の7分の1を読む。
- 第 11 回 Lawrence, "The Blind Man" の次の7分の1を読む。
- 第 12 回 Lawrence, "The Blind Man" の次の7分の1を読む。
- 第 13 回 Lawrence, "The Blind Man" の次の7分の1を読む。
- 第 14 回 Lawrence, "The Blind Man" の次の7分の1を読む。

第 15 回 Lawrence, "The Blind Man"の最後の7分の1を読む。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

これまで学んできた英文法の知識を活用し、英語で書かれた短編小説を一語一語丁寧に (前置詞や代名詞等細かい文法事項にも十分注意を払い)、正確に読む訓練をします。なお、シラバスに記した授業の進度は受講者数等により変動することがあります。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業で扱う範囲について、既存の翻訳を参考にしつつ、しっかり辞書を引いて事前に読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点100%で評価します。

〔留意事項 (Other Information)〕

特になし。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

初回に配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜指示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 映像芸術

210246NOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

金曜4限

ー

90

須川 いずみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

英語圏の映画を取り上げ、聴解力を高めるなど英語運用力の養成を図ると同時に映画と文学との関係に注目し研究を行いたい。誕生からわずか一世紀にして人間文化の優れた表現を実現するに至った映画の中でも名作として歴史に名を留める小説の脚色をもとに作られた作品を取り上げ、原作となった小説の正確な読解を基礎に原作と映画との比較を行い、文学的表現と映像表現との関係の研究を目指したい。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 映画という映像メディアの把握
- (2) 原作を読む英語力の育成

(3) 文学作品を読み解く能力の養成

(4) クリティシズムの扱い方

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	講義や授業の内容を理解できない。	講義や授業の内容を理解できるがまとめることができない。	講義や授業をまとめることができるが、自らの新しい意見を発表することができない、	講義や授業をしっかりと理解した上で、自らの新しい意見を発表することができる。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション  
院生の研究テーマの把握
- 第 2 回 ジョイスの短編の読解 1  
『ダブリン市民』"Araby"を読む
- 第 3 回 映像作品との比較 1  
"Araby"の映像を観て比較研究
- 第 4 回 ジョイスの短編の読解 2  
"A Painful Case"の前半 3 分の 1 を読む
- 第 5 回 ジョイスの短編の読解 3  
"A Painful Case"の 3 分の 2 まで読む
- 第 6 回 ジョイスの短編の読解 4  
"A Painful Case"の後半 3 分の 1 を読む
- 第 7 回 映像作品との比較 2  
"A Painful Case"の映画を見て比較研究
- 第 8 回 ジョイスと映画との関連 1  
ジョイスと初期映画
- 第 9 回 ジョイスと映画との関連 2  
ジョイスとエイゼンシュタイン
- 第 10 回 ジョイスと映画との関連 3  
マックス・ランデー、アンドラ・ディード、チャップリン
- 第 11 回 ウオーの作品と映画 1  
A Handful of Dustを観る
- 第 12 回 ウオーの作品と映画 2  
イヴリン・ウオーの作品研究
- 第 13 回 研究方法論 1  
文学と映画学を考える
- 第 14 回 研究方法論 2  
クリティシズムを読む

第 15 回 それぞれの研究における可能性を考える  
まとめ等

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 原作を読んでから映画を観る
- (2) 積極的授業の参加を求める
- (3) 発表、レポートあり

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- (1) 原作の精読
- (2) アノテーションやグローサリー等での学習
- (3) 発表原稿の作成
- (4) レポート執筆

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

平常点 (40%)、発表 (30%)、レポート (30%) で総合的に判断する。

〔留意事項 (Other Information)〕

学生の研究分野やレベルによって中身の変更がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリント

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

Ulysse』/James Joyce/The Bodley Head/2001/

Joyce Annotated/Don Gifford/U. California Press/1982/

Engendered Trope in Joyce's Dubliners/Earl G. Ingersoll/South Illinois Univ. Press/1996/809320169

Dubliners' Dozen/Gerald Doterty/F. Dickinson Press/2004/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日英語比較分析 a

210251N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

月曜 4限

60

三原 健一

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代言語学の考え方を背景とした、意味論 (Semantics) と統語論 (Syntax) の基礎概念とその応用について、英語教育 (や日本語教育) に役立つ言語観を身に付けることを目標とします。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

授業では、まず、(1) 意味の捉え方に関する幾つかの考え方を学び、(2) 意味と統語のインターフェイスの問題を見た後、(3) 言語の統語構造に話を進めます。言語のその他

の側面 (音声、語彙、談話など) についても、ハンドアウトの <Coffee Break> のコーナーで取り上げます。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分を育てようとする意欲に欠ける。	今の自分の研究に足りないものを明確に認識できる。	明確な研究計画の下に研究を進めることができる。	次々に新たな研究課題に対峙し自分を高めようとする。
知識・理解力	言語に関する最も基本的な知識・理解力に欠ける。	言語に関する知識を体系化しようとする。	可能な限り多方面からの知見を得ようとする。	隣接分野からも知識や理解力を得ようとする。
言語力	言語に関する最も基本的な認識に欠ける。	体系的な言語観察ができる。	これまで気付かれていなかった言語事実を発掘できる。	これまで気付かれていなかった言語事実を体系化できる。
思考・解決力	自らの頭で考えようとする意欲に欠ける。	自らの頭でオリジナルなことを考えようとする。	困難な課題に対峙しても解決策を探ることができる。	自らのオリジナルな発想を体系化できる。
共生・協働する力	先行研究から学ぼうとする意欲に欠ける。	先行研究を虚心に理解しようとする。	先行研究にない知見を加えることができる。	同じ分野の研究者と共同研究することができる。
創造・発信力	先行研究に新たな知見を加えようとする意欲に欠ける。	先行研究から解決すべき問題を抽出しようとする。	新たな着想を他の研究者に発信できる。	先行研究に敬意を払いつつ学界に貢献できる。

〔授業計画〕

第 1 回 言語の地平へ : Introduction

第 2 回 意味の捉え方 (1) : 文の意味とは何だろうか ?

第 3 回 意味の捉え方 (2) : 語を作り上げる成分

第 4 回 意味の捉え方 (3) : 日本語学と文法

第 5 回 見えないものを見る言語表現

第 6 回 比喩から見る世界の姿

第 7 回 学校文法と理論文法

第 8 回 意味と構造のインターフェイス (1) : 主要部

第 9 回 意味と構造のインターフェイス (2) : 意味役割

第 10 回 動詞から見る日本語と英語 (1) : 動詞分類とアスペクト

第 11 回 動詞から見る日本語と英語 (2) : 移動表現を巡って

第 12 回 動詞から見る日本語と英語 (3) : 二重目的語構文

第 13 回 動詞から見る日本語と英語 (4) : 結果構文

第 14 回 活用を考える

第 15 回 科学的な言語研究：総括

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業は基本的に講義形式で進めますが、授業中の質問やディスカッションを歓迎し、Active Learningの観点からの成果を期待しています。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

ハンドアウト (プリント) は、第一回目の授業の後に全15回分を配信しますので、次回の授業分に目を通し、不明な箇所や興味のあるトピックについて、予め考えてきて下さい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の質疑応答と Semester末のレポートで評価します。なお、レポートは、評点とコメントを付けてPCにファイルを送ります。

〔留意事項 (Other Information)〕

現代言語学に関する基礎知識はとりあえず必要ありません。受講生の履修レベルを勘案して授業内容を調整します。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

ハンドアウト (プリント) を配布します。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 日英語比較分析 b

210252NOJ

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 前期

金曜 3限

ー

60

田口 茂樹

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ミニマリストプログラムにおける統語論の基本概念と、それにもとづく日本語と英語の構文研究を行う。修士論文のテーマ設定と論文作成を目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 学部時代に学んだ方法論を用いて、口頭発表・論文発表を行う。
2. 文献収集によって修士論文のテーマ設定と論文作成を行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	高度な教材を通して積極的に内容を理解しようとしな	高度な教材を通して積極的に内容を理解しようとする	高度な教材を通してある程度内容が理解できる	高度な教材の内容をほぼ理解できる
言語力	複雑なデータを正しく理解することができない	複雑なデータを正しく理解することができる	複雑なデータを的確に分析できる	複雑なデータを的確に分析し、それを口頭・文章で表現できる
思考・解決力	修士論文のテーマについて考えようとしな	修士論文のテーマについて考えようとする	修士論文に関する興味深いテーマを考えられる	修士論文に関する興味深いテーマを考え、それを分析できる

〔授業計画〕

第 1 回 分量の多い論文を書くに当たって

- ・ハンドアウトや短い論文と、修士論文の違い
- ・学部時代の文献収集と、修士課程における文献収集の違い
- ・ミニマリストプログラムの最近の動向

第 2 回 変形、構造構築の変遷

- ・顕在的移動の解説をします。
- ・非顕在的移動の解説をします。
- ・素性移動の解説をします。
- ・移動と併合の解説をします。
- ・素性継承の解説をします。

第 3 回 フェイズ理論

- ・Chomsky (2000)以降のフェイズ理論を概観します。

第 4 回 補文標識句 (節) の構造：平叙文

- ・日本語と英語のカートグラフィー統語論 (節レベル) について議論します。

第 5 回 補文標識句 (節) の構造：疑問文

- ・日本語と英語のカートグラフィー統語論 (節レベル) について議論します。

第 6 回 名詞句 (限定詞句) の構造：NPとDP

- ・日本語と英語のカートグラフィー統語論 (名詞句レベル) について議論します。

第 7 回 名詞句 (限定詞句) の構造：限定詞句のカートグラフィー

- ・日本語と英語のカートグラフィー統語論 (名詞句レベル) について議論します。

第 8 回 名詞句 (限定詞句) の構造：格交替を中心に

- ・日本語と英語のカートグラフィー統語論 (名詞句レベル) について議論します。
- ・日本語の主格/属格交替構文の研究史を概観し、先行研究を紹介します。

- 第 9 回 中間発表  
 ・どのようなアプローチに興味を持ち、それをもとにどのようなデータを収集する予定かを発表し、ディスカッションを行います。
- 第 10 回 例外的格標示構文  
 ・日本語と英語の例外的格標示構文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。
- 第 11 回 使役文  
 ・日本語の使役文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。
- 第 12 回 主格／属格交替構文  
 ・日本語の主格／属格交替構文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。
- 第 13 回 主格／対格交替構文  
 ・日本語の主格／対格交替構文の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。  
 ・アイスランド語などの主格／与格交替構文にも言及します。
- 第 14 回 受動文  
 ・日本語と英語の研究史を概観し、参考文献の紹介をします。
- 第 15 回 まとめと相談  
 ・授業のまとめをします。  
 ・修士論文の執筆に関する相談に乗ります。
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕  
 ・修士論文に関連したレポートを提出してもらいます。
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕  
 ・授業中に紹介した参考文献以外にも、興味がある文献は紹介しますので、遠慮なく尋ねてください。  
 ・類例や反例に絶えず気を配ってください。  
 ・内容が濃くなってくるので、分からないところがあれば、メールなどで随時質問してください。  
 ・レポートや口頭発表の数は未定ですが、文書あるいは口頭でフィードバックを行います。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕  
 ・授業中に紹介した参考文献は、きちんと読んでください。  
 ・必要に応じて練習問題を課題とする場合がありますので、きちんと授業内容を理解できるように工夫してください。  
 ・口頭発表・レポートの回数は未定ですが、文書あるいは口頭でフィードバックを行います。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕  
 60
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕  
 発表：30%  
 課題：30%  
 修士論文に関連したレポート：40%
- 〔留意事項 (Other Information)〕  
 ・「ことばのしくみ」の並行履修或いは聴講することをお勧めします。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

・授業で紹介する文献を読んできてもらいます。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の進度に応じて適宜紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 言語コミュニケーション

210253N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

水曜2限

—

60

小山 哲春

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本講義の目標は、言語による発話意図伝達の仕組みを理論的に理解し、実際に言語データを分析する手法を習得することである。具体的な目的は以下の2点：

(1) 語用論 (Pragmatics) のうち特に会話の含意／推論を扱った諸理論を理解し、これらを用いて言語現象の分析を行う技術を習得すること

(2) 言語メッセージが持つ対人効果を検証する研究方法論(実験デザインと計測法)を習得すること

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 会話におけるNon-Literal / Non-Directな意味とその伝達に関する理論的モデルの批判的概観

(2) 具体的な言語データ分析手法の習得

(3) 言語メッセージの対人的影響計測方法の習得

(4) 実験デザインの理解と遂行技術の獲得

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

### 〔授業計画〕

第 1 回 Origins and Domains of Pragmatics

第 2 回 Presupposition and Entailment

- 第 3 回 Speech Act Theory
- 第 4 回 Literal, Non-Literal, Direct, and Indirect Meanings
- 第 5 回 Conversational Implicature (1): Gricean Theory
- 第 6 回 Conversational Implicature (2): Neo-Gricean Theory
- 第 7 回 Conversational Implicature (3): Relevance Theory
- 第 8 回 Conversational Implicature (4): Socio-Cognitive Model
- 第 9 回 Facework & Politeness
- 第 10 回 Cross-cultural Pragmatics
- 第 11 回 Utterance Meaning & Message Effect
- 第 12 回 Message Effect Research Methods (1): Design
- 第 13 回 Message Effect Research Methods (2): Measurement
- 第 14 回 Message Effect Research Methods (3): Reporting the Results
- 第 15 回 Review & Presentation of a Mini Research Project  
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

(1) 本科目は主に講義及びディスカッションで構成され、それぞれ事前に課されるリーディングを基に行われる。

(2) 授業内または外の課題として実際に言語データを分析する演習を行い、理論的な理解の確認と増強を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

事前に課されるReading Materialsを批判的に読んだ上で講義、ディスカッションに望むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

(1) 授業内演習 (ディスカッション、データ分析演習、他) : 30%

(2) 理論に関するプレゼンテーション (2回) : 30%

(3) Final Paper : 40%

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『The Oxford Handbook of Pragmatics』/Huang, Y. (Ed.)/Oxford U.P./2017/9780199697960

『Pragmatics: A Multidisciplinary Perspective』/Cummings, Louise/Edinburgh U.P./2005/0748616829

『Origins of Human Communication』/Tomasello, Michael/A Bradford Book/2010/0262515202

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

言語と社会

210254N0J

大学院

人間文化研究科 > 応用英語専攻

2単位 後期

月曜4限

川上 伊都子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私達は人として生まれてきて、重篤な障害がない限り、当然の様に言語を学習し、日常生活の中で言語を使わない日は無いわけですが、言語を習得するとはどういう事なのでしょう。言語を習得する時、私達が属する社会や文化が大きな役割を果たし、同時に私達の使う言語が社会や文化を再構築するという相互作用が行われているのです。この講義では、言語の機能とは何か、言語習得とは何を意味するのか、native speakerとは何か、等、様々な言語に関する重要な問題について考えていきます。Language & Dialect, Multilingualism, Speech Community, Communicative Competence, Politeness, Language & Gender, 等があげられますが、受講者の興味・要望によって、講義をすすめます。「男女の会話は異文化コミュニケーション」という説についても講義していきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

現実社会での言語使用の分析を通して、いかに社会・文化と言語との相互作用があるかを、検証していく。例えば、課題にそって、受講者が自らデータを集め、その分析などを行う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	必要な知識を集めたり、理解できない。	必要な知識を集める事ができる。	必要な知識を集め、取捨選択できる。	必要な知識を集め、取捨選択し、内容を良く理解できる。
言語力	自分の考えを言語化できない。	自分の考えを言語化できる。	自分の考えを言語化し、他者に伝える事ができる。	自分の考えを言語化し、他者に正確に伝える事ができる。
思考・解決力	何が問題かわからない。	何が問題かわかる。	何が問題かわかり、その解決策を探そうとする。	何が問題かわかり、その解決策を探すができ、他者とも協力できる。

共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 What is Sociolinguistics?ーOrientation  
Sociolinguistics（社会言語学）とは何か、まず概論から始める。クラスで扱うどの様なtopicがあるか、説明していく。受講者は、次回までにどのtopicを担当するか考えてくる。（基本的には、テキストに載っているtopicの中から選ぶ）
- 第 2 回 Introduction  
受講者の興味・要望を聞きながら、クラスで扱うtopicを決め、さらに、各topicの担当者を決めていく。担当者は責任を持って、自分のtopicをクラスで発表できるように準備を始めていく。
- 第 3 回 Language & Dialects（仮） 1  
このtopicの基本的な解説をしていく。重要な読み物（論文、記事など）配り、受講者は、この問題に関して、詳しくテキストを読み、課題について考えてくる。
- 第 4 回 Language & Dialects（仮） 2  
課題の結果をクラスで発表し、受講者たちで、Group Discussionを行う。最後に、discussionのまとめを一枚のレポートにして提出する。
- 第 5 回 Speech Communities（仮） 1  
このtopicの基本的な解説をしていく。重要な読み物（論文、記事など）配り、受講者は、この問題に関して、詳しくテキストを読み、課題について考えてくる。
- 第 6 回 Speech Communities（仮） 2  
課題の結果をクラスで発表し、受講者たちで、Group Discussionを行う。最後に、discussionのまとめを一枚のレポートにして提出する。
- 第 7 回 Language Variation（仮） 1  
このtopicの基本的な解説をしていく。重要な読み物（論文、記事など）配り、受講者は、この問題に関して、詳しくテキストを読み、課題について考えてくる。
- 第 8 回 Language Variation（仮） 2  
課題の結果をクラスで発表し、受講者たちで、Group Discussionを行う。最後に、discussionのまとめを一枚のレポートにして提出する。
- 第 9 回 Solidarity & Politeness（仮） 1  
このtopicの基本的な解説をしていく。重要な読み物（論文、記事など）配り、受講者は、この問題に関して、詳しくテキストを読み、課題について考えてくる。
- 第 10 回 Solidarity & Politeness（仮） 2  
課題の結果をクラスで発表し、受講者たちで、Group Discussionを行う。最後に、discussionのまとめを一枚のレポートにして提出する。
- 第 11 回 Language & Gender（仮） 1

このtopicの基本的な解説をしていく。重要な読み物（論文、記事など）配り、受講者は、この問題に関して、詳しくテキストを読み、課題について考えてくる。

- 第 12 回 Language & Gender（仮） 2  
課題の結果をクラスで発表し、受講者たちで、Group Discussionを行う。最後に、discussionのまとめを一枚のレポートにして提出する。
- 第 13 回 Language & Gender（仮） 3  
受講者は、自分でデータを収集し、その分析を各自行う。その結果をクラスで発表する。
- 第 14 回 Language & Gender（仮） 4  
前回に引き続き、受講者は、自分で収集したデータの分析を各自行い、その結果をクラスで発表する。
- 第 15 回 受講者によるトピックの発表  
受講者は、自分の担当したトピックについてクラスで発表する。自分の担当のトピックだけでなく、このクラスで学習した、様々な要素や議論との複合的な発表が望まれる。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

筆記試験は実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

テキストに沿っての、講義、質疑応答、Group Discussion、受講者の発表などを通して、社会言語学に関する、様々な問題を探究していく。Group Discussionでは、必ず最後にまとめのレポートを提出するので、十分な準備が毎回必要とされる。発表の担当者は、もちろん「口頭発表」のための十分な準備が必要であるが、他の受講者も、毎回質問に答えられる様予習は必須である。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

毎週、次回の講義のための予習が必要である。テキストを読んでくることはもちろん、それ以外の課題が出た時は、「口頭」で答えられる様に、適切な準備をしていくこと。詳しい方法は、クラスで説明する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)（Standard Prep Study hours (Total)）〕

毎週、最低でも1時間。発表などの担当者は、「口頭発表」のための十分な準備のため、2?3時間は必要かも。

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

毎回の授業（又、discussionに）でどれだけ「積極的に参加している」か。また、Group Discussion後に提出する「レポート」、さらに「個人の発表」、など全て総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

毎週、しっかり予習、準備してくる。クラス発表には十分な準備をすること。発表がない時も、クラスでのdiscussionには積極的に参加すること。そのためには、予習・準備が必要である。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

An Introduction to Sociolinguistics 8th Edition, Ronald Wardhaugh, WILEY Blackwell, 2021/学内販売有

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

クラスで伝える。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 文化学研究方法論

280014N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

水曜 3限

ー

60

必修

中里 郁子

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目の目標は、大学院において修士論文を書くための明確な理念をたて、必要な心構えと作法を学び、しっかりと方法論を構築することである。そのことにより、各自が論文の基本構想を組み立て、それに沿って大学院における研究成果としての修士論文を書き上げられるようにする。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.問題提起
- 2.論文の内容・形式
- 3.先行研究の調査・整理の意義
- 4.方法論の選択と確立
- 5.結果・成果のまとめ
- 6.引用・参考文献の重要性

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	研究方法の基本が理解できている。	研究方法を理解し、記述ができるが、詳細が不明。	研究方法を明瞭に記述でき、詳細や全体像を把握している。	研究方法を明瞭に記述し、目的を達成する過程が明らかにできる。
言語力				

思考・解決力	研究目的と結論があいまいである。参考文献リストを作成できる。	研究目的と結論が記述できる。引用や参考文献の体裁が不十分である。	研究目的と結論が対応している。引用や参考文献の体裁が正しい。	研究目的と結論が対応し、論点が定まっている。引用や参考文献の量が十分に適切である。
共生・協働する力				
創造・発信力				

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 研究に関わる様々な組織 (学会、学術誌、研究機関など) (オンライン)
- 第 3 回 論文テーマの選び方、問題意識 (オンライン)
- 第 4 回 先行研究の調査、検索、収集の重要性と実践
- 第 5 回 収集文献の整理 (オンライン)
- 第 6 回 方法論1 (担当教員の例)
- 第 7 回 方法論2 (図書館情報学など ゲスト・スピーカー)
- 第 8 回 方法論3 (日本文学など ゲスト・スピーカー)
- 第 9 回 論文の基本コンセプト発表・議論 第1段階 (オンライン)
- 第 10 回 論文の形式 (オンライン)
- 第 11 回 論文の表現
- 第 12 回 プレゼンテーションの方法 (オンライン)
- 第 13 回 中間の研究経過報告に求められる内容 (オンライン)
- 第 14 回 論文の基本コンセプト発表・議論 第2段階
- 第 15 回 論文の執筆計画とまとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・講義
- ・論文読解
- ・オンライン検索
- ・資料収集
- ・発表
- ・発表・レポートに対して授業内で講評を行なう

### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- ・文献読解
- ・読解したものの要約
- ・発表用のレジюме作成
- ・発表用のパワーポイント資料作成
- ・課題に対するフィードバックは授業のなかで受ける

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

- ・レポート (60%)
- ・発表 (20%)
- ・授業参加・課題 (20%)

〔留意事項 (Other Information)〕

研究分野別の視点から方法、先行研究、書誌情報、あるいは分野の特殊なアカデミックな姿勢などについての導入を行うため、ほかの教員がゲストスピーカーとして参加することもある。また、外部講師による授業やワークショップを行ったり、授業で学外フィールドワークへ出かけたりすることもある。オンラインによる授業回を変更することもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『文章を論理で読み解くためのクリティカル・リーディング』 / 福澤一?? / NHK 出版新書 / 2012 / ASIN: B07DHBCZ6T 学内販売無

『最新版 大学生のためのレポート・論文術』 / 小笠原喜康 / 講談社現代新書 / 2018 / 978-4065135020 学内販売無

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

文化学研究実践論

280015N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

水曜 3限

一

60

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業では、研究方法や研究発表の方法について学び、それをもとに自分でも研究発表をしてみることによって、研究を進めていく上での適切なプロセスを身につける。そして、M1の1月に実施される「構想発表会」を成功させることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 自分の研究に適した研究方法を見つける。
2. 他人の研究発表から、適切な研究方法や効果的な研究発表の方法を学ぶ。
3. よりよい形での研究発表を実践する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

創造・発信力	研究実践論について全く理解していない。研究実践しようとしてもしない。	研究実践論について、ある程度の理解があるが、授業での研究発表、議論にあまり参加しない。構想発表の完成度が低い	研究実践論について理解がある。授業での研究発表、議論にも参加する。構想発表はある程度できる。	研究実践論について理解があり、授業での研究発表、議論にも参加し、構想発表の完成度が高い。

〔授業計画〕

- 第 1 回 前期の「研究方法論」の授業内容の復習
- 第 2 回 論文テーマの発表(各自)とその研究方法に関する議論
- 第 3 回 研究テーマと研究発表方法の関連について整理(サンプル論文利用)
- 第 4 回 自分が選んだ文献の紹介(1)図書
- 第 5 回 自分が選んだ文献の紹介(2)論文
- 第 6 回 自分が研究発表する可能性のある「学会・研究会」の種類の調査と報告
- 第 7 回 自分の研究分野に関する「学会・研究会」の参加報告
- 第 8 回 授業内における模擬研究発表(1)導入
- 第 9 回 授業内における模擬研究発表(2)運用
- 第 10 回 授業内における模擬研究発表(3)応用
- 第 11 回 「学会・研究会」での研究発表(1)導入
- 第 12 回 「学会・研究会」での研究発表(2)応用
- 第 13 回 各自の修士論文に関する研究方法の決定と具体的な作業予定の確定
- 第 14 回 修士論文の構想発表会の実施
- 第 15 回 構想発表会の報告とこれからの見通しを発表(その内容は、この授業の最終レポートとして提出すること)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

授業時の議論、研究発表を組み合わせで行う。発表に対するフィードバックは発表時の質疑応答において行い、レポートへのフィードバックは提出後学生に口頭で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

毎回の授業の講義対象となるテキストのページを事前に伝えるので、その部分を熟読し、質問内容を考えた上で、授業に参加することを望む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、構想発表を含む研究発表とレポート80%、授業時の議論への参加20%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

特に第1回~3回は、前期における研究の導入とそれを今後の研究に発展させていく接続の意義を持つ内容である。院

生一人ひとりが大学院の研究についての明確な意識をもって臨むことが求められる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 日本語学特論

280034NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

木曜 3限

—

60

蜂矢 真弓

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

どのような歴史の変遷の末に現在我々が話し聞き読み書きする日本語に至ったかという観点から、国語学の内、音韻・表記・語彙の分野について修得出来るようになることを目標とする。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本語の文字、表記の特徴・歴史について学習する。
2. 日本語の音声、音韻の歴史について学習する。
3. 日本語の語彙に関する知識について学習する。

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	日本語の文字・音韻の歴史について、まったく理解していない。	日本語の文字・音韻の歴史について、ある程度理解している。	日本語の文字・音韻の歴史について、よく理解している。	日本語の文字・音韻の歴史について、深く理解している。

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 漢字
- 第 2 回 音読み
- 第 3 回 訓読み
- 第 4 回 漢字音
- 第 5 回 表意文字
- 第 6 回 表音文字
- 第 7 回 万葉仮名
- 第 8 回 上代特殊仮名遣
- 第 9 回 あめつちの詞
- 第 10 回 たるにの歌
- 第 11 回 いろは歌
- 第 12 回 五十音図
- 第 13 回 母音の連続
- 第 14 回 音便

## 第 15 回 被覆形・露出形

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義を受ける。
2. 小テストを受験する。
3. 次週授業の冒頭に、教員が小テストの解答を公開し、解説を行うので、それを受けて復習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配布プリントを熟読し、辞典類で調べ、講義までに準備してくる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度30点、小テスト70点による総合評価である。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

受講生の専攻分野や関心領域を考慮し、授業予定は変更する場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 日本近代詩特論

280038NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

木曜 4限

—

90

河野 有時

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

「ことば」には「話しことば」と「書きことば」があり、「書きことば」に口語体と文語体がある。それをを用いるに、詩は文語から口語へと移行したのに対して、短歌は文語を残した短歌文体へと至った。この授業では、詩歌における文語と口語の諸相から、詩歌の近代の姿を捉えることを目標とする。また、用語が選び取られる背景やその選択が詩歌の表現にどのように作用したかを明らかにすることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文語から口語へという移行を背景とした詩歌の変遷を理解する。
2. 文語表現と口語表現の性質の違いを考察する。
3. 文語詩と口語詩、それぞれの詩的世界の成り立ちを捉える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	授業に主体的に臨んでいない。	授業に主体的に臨んでいる。	授業に主体的に臨み、課題を見つけることができる。	授業に主体的に臨み課題を発展的に考察することができる。
「文語」と「口語」に対する知識・理解力	「文語」と「口語」について理解できていない。	「文語」と「口語」について理解できている。	「文語」と「口語」について理解し、その変遷を把握できている。	「文語」と「口語」について理解し、その変遷や背景を捉えている。
文語表現と口語表現に対する理解力	文語表現と口語表現の違いを理解できていない。	文語表現と口語表現の違いを理解できている。	文語表現と口語表現の違いを理解し、それぞれの特徴を把握できる。	文語表現と口語表現の違いを理解し、それぞれの特徴を説明できる。
文語詩と口語詩を読み味わう力	文語詩と口語詩を読み味わうことができない。	文語詩と口語詩を読み味わうことができる。	文語詩と口語詩を言葉や表現に即して読み味わうことができる。	文語詩と口語詩を言葉や表現に即して読み味わい、詩の原理について考察できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回  
イントロダクション
- 第 2 回  
文語と口語
- 第 3 回  
日本近代文学と言文一致運動
- 第 4 回  
近代短歌史概観
- 第 5 回  
口語短歌の試み
- 第 6 回  
『池塘集』の世界
- 第 7 回  
短歌文体の創出
- 第 8 回  
現代短歌における口語と文語

- 第 9 回  
近代詩史概観
- 第 10 回  
文語定型詩を読む
- 第 11 回  
近代詩歌と自然主義
- 第 12 回  
散文詩という問い
- 第 13 回  
口語自由詩の世界
- 第 14 回  
口語自由詩と萩原朔太郎
- 第 15 回  
まとめと今後の課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕  
レポートを実施する。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は主として講義形式で行うが、詩歌の読解については演習形式で進める。
2. プリントを配布して教材として活用する。
3. 授業の終了時に授業や発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
4. 発表時の課題については次回の授業において補足説明を行う。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 作品が作られた年代の文芸思潮を捉えておく。
2. 参考文献や資料を読み、用語に対する理解を深めておく。
3. 用語に留意しながら作品を読んで、自分の考えたことをまとめておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (40%) とレポート (60%) とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。  
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

古典文法における助動詞について学習する。そして、学校文法の教育方針の変更点について学習することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 古典文法の助動詞の活用表について学習する。
2. 助動詞の文法的意味について学習する。
3. 助動詞の文法的意味の判別方法について学習する。
4. 学校文法の教育方針の変更点について学習する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
助動詞の文法的意味	助動詞の文法的意味について理解していない	助動詞の文法的意味について、おおむね理解している	助動詞の文法的意味について、正しく理解している	助動詞の文法的意味を判別することができる
助動詞の活用表	助動詞の活用表が書けない	助動詞の活用表が、おおむね書ける	助動詞の活用表が正しく書ける	助動詞の活用表の、学校文法の教育方針の変更点について理解できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 品詞の分類
- 第 2 回 活用の種類
- 第 3 回 活用形
- 第 4 回 文法的意味
- 第 5 回 受身の助動詞
- 第 6 回 使役の助動詞
- 第 7 回 過去の助動詞
- 第 8 回 完了の助動詞
- 第 9 回 推量の助動詞
- 第 10 回 推定の助動詞
- 第 11 回 断定の助動詞
- 第 12 回 打消の助動詞
- 第 13 回 希望の助動詞
- 第 14 回 その他の助動詞
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 講義により、学校文法の助動詞の活用表の書き方を学習する。
2. 講義により、助動詞の文法的意味と判別法について学習する。
3. 小テストを受験する。
4. 次週に公開される小テストの解答を受けて、復習する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

小テストに向けて、講義内容について復習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度30点、小テスト70点による総合評価である。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講学生数や進捗状況等により、内容や順序が変更になる場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

出版・情報文化特論

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

文字による記録、出版を通して、またインターネットを中心とする新しいメディアによって発信される情報の性質と、それを利用する人との関わりについて検討する。これについて、情報リテラシーと呼ばれる、文字情報などの情報を人が適切に理解し、利用できる能力を軸として、歴史的変遷を踏まえて様々な側面から考察する。以下のテーマに焦点を絞り、テーマに関する基礎事項について講義し、先行研究を紹介、検討する。

1) 文字情報を中心とした書籍、文書などの資料が持つ性質と、それを読解し、受容する人との関係。

2) 情報の伝達と保存、それに関わるメディア、機関の文化と動向。

これらのテーマに関する研究動向、研究方法について理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 情報の持つ性質について理解する。
- 2) 情報が発信されるメディアについて理解する。
- 3) 情報、メディアを適切に理解して利用するための知識を習得する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力	基礎的事項の理解ができていない	基礎的事項の理解がある程度できている	基礎的事項の理解が十分できている	基礎的事項に加えてそれらの背景、関連する事項などを理解できる
言語力				
思考・解決力	与えられた課題について最低限の思考しか示されていない	与えられた課題についてある程度の思考が示されている	与えられた課題について十分な思考ができている	与えられた課題だけでなく、自発的に新たな課題や関連する課題を見つけたり検討することができる
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 「リテラシー」に関する諸理論と動向
- 第 2 回 「情報」に関する諸理論と動向
- 第 3 回 「メディア」に関する諸理論と動向
- 第 4 回 文字情報の歴史的変遷と人との関わり（書物と読書の歴史）
- 第 5 回 記録、文書の読解、利用における人の行動
- 第 6 回 出版メディアと出版物の読解
- 第 7 回 批判的思考力と情報の読解
- 第 8 回 情報リテラシー教育の理論と動向（図書館と情報リテラシー教育）
- 第 9 回 メディアリテラシー教育の理論と動向
- 第 10 回 Post-Truth 時代の情報とメディア
- 第 11 回 文化情報資源
- 第 12 回 情報行動
- 第 13 回 情報、メディアと権利、倫理の問題（著作権など）
- 第 14 回 レポート課題について議論
- 第 15 回 まとめ及びレポートの講評

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各テーマ毎に参考文献を提示し、それに基づいた発表、ディスカッションを行う。レポート、課題のフィードバックは授業内で行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

呈示された文献を読み、発表の準備をする。課題へのフィードバックは授業中に行う。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート (50%)、授業中の発表 (25%)、授業中のディスカッションへの参加 (25%)

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

図書館情報文化特論 (子どもとメディア)

280047N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

火曜1限

ー

60

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

読書や学習や情報探索行動は、人間にとって生涯にわたり欠かせない文化活動の一部である。生涯学習社会において、子ども時代にその習慣や方法を身につけることは重要であり、その支援は図書館の大切な役割の一つである。本特論では、(1) 子どもの読書能力・読書興味の発達段階、(2) 児童書と子どもの発達、(3) 子どもの読書支援のための理論、(4)現代のメディアが子どもに与える影響などに関する学術研究への理解を深めることで、理論的な土台を築き、それをもとに、子どもへのよりよい図書館サービスのありかたを探る。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 子どもを取り巻くメディア環境を知る。
2. 児童書と子どもの発達との関係、読書支援に対する理解を深める。
3. 各自のテーマとの接点を見つける。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・理解力	当該テーマに関する基本的知識がない。	当該テーマに関する概要を理解している。	当該テーマの先行研究についての知識がある。	当該テーマに関する研究について議論をすることができる。
思考・解決力	当該テーマに関する関心がない。	当該テーマに関する関心がある。	当該テーマに関する現代的課題を知っている。	当該テーマに関する現代的課題について議論をすることができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 序及び 1. 子どもの読書とメディア  
序 子どもをとりまくメディアの現状  
1. 子どもの読書とメディア  
1) 子どもの読書の現状と図書館の果たす役割：講義
- 第 2 回 1. 子どもの読書とメディア  
2) 子どもの読書の現状と課題：文献解読と発表
- 第 3 回 1. 子どもの読書とメディア  
3) 子どもの読書の現状と課題：討論
- 第 4 回 2. 児童書と子どもの発達  
1) 児童書と子どもの発達に関する概説：講義
- 第 5 回 2. 児童書と子どもの発達  
2) 児童書と子どもの発達との関係：文献解読と発表
- 第 6 回 2. 児童書と子どもの発達  
3) 児童書と子どもの発達との関係：討論
- 第 7 回 3. 子どもへの読書支援  
1) 子どもへの読書支援の動向：講義
- 第 8 回 3. 子どもへの読書支援  
2) 現代における読書支援の傾向と課題：調査と発表
- 第 9 回 3. 子どもへの読書支援  
3) 現代における読書支援の傾向と課題：討論
- 第 10 回 4. 子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解読と討論  
1) テレビゲームをめぐる議論
- 第 11 回 4. 子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解読と討論  
2) ネット依存といじめ・犯罪
- 第 12 回 4. 子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解読と討論  
3) 知的自由をめぐる議論
- 第 13 回 4. 子どもとメディアをめぐる諸問題：文献解読と討論  
4) ハンディキャップを持つ子どものための情報技術の活用
- 第 14 回 5. まとめ  
1) 内容の振り返りと発表
- 第 15 回 5. まとめ  
2) 討論

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義、発表と特定のテーマについての討論を組み合わせで実施する。

フィードバックは、口頭及び提出物へのコメント記入によって行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指定された文献を読み、レジュメを作成する。
2. 自分でも関心のある文献を探索し、読む。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の取り組み (50%) 及びレポート (50%) を総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業に参加することを前提条件とする。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

キリスト教文化特論

280053N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

前期

中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

新約聖書のパウロ書簡『コリントの信徒への第二の手紙』の読解を通して、聖パウロの神学を理解することを目的とする。聖パウロは異邦人にキリストの福音を述べ伝えて、異邦人教会を設立した使徒である。聖パウロの創立したコリント教会についての理解を深め、コリントの信徒へのメッセージを理解し、その神学的意義を探究する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1 コリントの町を知る
- 2 コリントの教会について理解する
- 3 『コリントの信徒への第二の手紙』の背景を学ぶ
- 4 『コリントの信徒への第二の手紙』の神学を理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力	聖パウロの宣教とコリントについて知ろうとする	聖パウロの宣教とコリントの町や人々について概ね理解している	聖パウロの宣教とコリントの町の地理的・経済的状況と人々の信仰について自ら文献を研究して理解している。	聖パウロの宣教とコリントの町の地理的・経済的状況と人々の信仰について自ら文献を研究して理解を深めることができる。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力	『第二コリント書』の内容を理解しようとする	『第二コリント書』の内容とパウロの言葉の意味を概ね理解している	『第二コリント書』においてパウロが述べた言葉とコリントの信徒との関係について適切に理解し、書簡の言葉の神学的意味を解明しようとしている	『第二コリント書』においてパウロが述べた言葉とコリントの信徒との関係について適切に理解し、書簡の言葉の神学的意味を討議し、自分の独創的な問いを以てレポートにまとめ、発表することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
  - 第 2 回 『第二コリント書』概説（オンライン）
  - 第 3 回 コリントの町（オンライン）
  - 第 4 回 コリントの教会
  - 第 5 回 パウロとコリントの信徒（オンライン）
  - 第 6 回 フィールドワーク
  - 第 7 回 挨拶と祝福（オンライン）
  - 第 8 回 変更された訪問
  - 第 9 回 真正な奉仕（オンライン）
  - 第 10 回 奉仕の理論と実践
  - 第 11 回 奉仕—古いものと新しいもの（オンライン）
  - 第 12 回 奉仕と死
  - 第 13 回 イエスの命と新しい創造（オンライン）
  - 第 14 回 受講者による発表
  - 第 15 回 まとめ
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕  
定期試験に替わるレポートを提出すること。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- 1 『コリントの信徒への第二の手紙』と『Theology of the Second Letter to the Corinthians』を精読する。
- 2 割り当てられた箇所のメッセージについてディスカッションする。
- 3 受講生は一つのテーマを選んで参考文献を用いて研究し、学期の後半に発表してレポートにまとめる。
- 4 最後の授業中に、レポートについての講評を行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

受講生は毎回の授業で割り当てられる聖書と英文テキストを事前に読んで、要約をレジュメする。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業中の取り組み（50%）及びレポート（50%）を総合的に評価する。最後の授業中に、レポートについての講評を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

オンライン授業の実施回に変更になる可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『聖書 旧約聖書続編つき（共同訳）』//日本聖書協会/2009/9.784820212713E12/学内販売予定『Theology of the Second Letter to the Corinthians』/Jerome Murphy-O'Connor/Cambridge University Press/1991/521358981/学内販売予定  
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ヨーロッパ芸術文化特論

280054N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

後期

吉田 朋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

古代彫刻の受容に関する文献を読むことを通して、ヨーロッパ文化・美術に関する知識と理解を深める。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・美術史に関する英語文献を精読する
- ・有名な古代彫刻について知識を深める
- ・古代彫刻がのちのヨーロッパ文化に及ぼした影響について考察する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

知識・理解力	古代彫刻について全く知識がない	古代彫刻の有名作品を知っている	古代彫刻の受容に関する専門的な研究に触れたことがある	古代彫刻の受容について適切な見解を持っている
言語力	英語文献に抵抗がある	辞書を活用しながら英語文献を読み進めることができる	英語文献の内容をわかりやすくレジュメにまとめることができる	英語文献の内容を自分の研究に生かすことができる
思考・解決力	古代彫刻の受容について考察したことがない	古代彫刻の受容にまつわる問題に触れたことがある	古代彫刻の受容に関する文献を読み、自分の意見を述べる事が出来る	古代彫刻の受容に関する研究から、自分の研究に生かせるアプローチ方法を発見している

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 文献講読と議論 (1) ベルヴェデーレのアポロン
- 第 3 回 文献講読と議論 (2) サン・マルコの馬
- 第 4 回 文献講読と議論 (3) ファルネーゼのヘラクレス
- 第 5 回 文献講読と議論 (4) ファルネーゼの牡牛
- 第 6 回 文献講読と議論 (5) ラオコーン
- 第 7 回 文献講読と議論 (6) メディチのライオン
- 第 8 回 文献講読と議論 (7) 「死にゆくセネカ」
- 第 9 回 文献講読と議論 (8) スピナリオ
- 第 10 回 文献講読と議論 (9) メディチのヴィーナス
- 第 11 回 文献講読と議論 (10) サモトラケのニケ
- 第 12 回 文献講読と議論 (11) ベルヴェデーレのトルソ
- 第 13 回 日本における古代彫刻の受容 (石膏像など)
- 第 14 回 受講者による発表
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- ・文献をあらかじめ読み、担当者の作成したレジュメをもとに議論する。
- ・レジュメと準備の内容、または発表内容について、毎回講評してフィードバックとする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

課題箇所を読み、担当者はレジュメを作成する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度50%・課題の成果50%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『Taste and the Antique』/Francis Haskell and Nicholas Penny/Yale University Press/2010/9780300029130/学内販売無

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『石膏デッサンの100年：石膏像から学ぶ美術教育史』／荒木慎也／アートダイバー／2018／9784908122088

このほか適宜紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

ヨーロッパ社会文化特論

280055N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

青木 加奈子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

デンマーク、スウェーデン、ノルウェー、フィンランド、アイスランドの5か国は、文化的にも歴史的にも互いに非常に良く似ており、北欧文化圏とみなされている。しかしながら個々の社会に目を向けると、欧米諸国との距離や社会政策のスタンスには違いがある。本授業では、国際社会における北欧社会の特異性と相互の相違性について理解するとともに、急速に進むグローバル社会において直面する北欧社会の課題を議論する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) 指定されたテキストを読み内容を理解する。
- 2) 1に加えて、批判的視点でコメントをする。
- 3) 日本社会との比較の視点からも議論できる。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				

創造・発信力				
--------	--	--	--	--

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 比較国家論①: エスピン-アンデルセンの福祉レジーム論
- 第 3 回 比較国家論②: アジア社会の比較
- 第 4 回 北欧諸国の社会政策における連携 (テキスト第6章)
- 第 5 回 北欧モデルにおける普遍主義 (テキスト第7章)
- 第 6 回 貧困と所得分配 (テキスト第8章)
- 第 7 回 ジェンダー (テキスト第9章)
- 第 8 回 家族政策 (テキスト第10章)
- 第 9 回 地方政府の役割 (テキスト第11章)
- 第 10 回 ボランティア (テキスト第12章)
- 第 11 回 北欧の労働市場モデル (テキスト第13章)
- 第 12 回 移民問題 (テキスト第14章)
- 第 13 回 欧州連合とグローバリゼーション (テキスト第15章)
- 第 14 回 北欧モデルの期限・業績・教訓 (テキスト第16章)
- 第 15 回 全体のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する (期末レポート)

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

『北欧福祉国家は持続可能か 多元性と政策強調のゆくえ』(クラウス・ペーターセン他編著, 2017) を輪読し、内容について議論する。課題やレポートはコメントをつけて返却するので、それをもとに振り返りを行うこと。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

報告担当者は、指定された部分の内容をまとめ授業内で報告する。報告担当以外の者も、指定された部分のテキストを読み、内容を理解するだけでなく自身の考えをまとめ、授業での議論に備える。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

期末レポート50%、授業への姿勢50%

〔留意事項 (Other Information)〕

1) 受講生の人数や関心によって、授業の一部や予定している順番を変更することがある。事前に告知するので、教員からの連絡には気をつけること。

2) 受講予定者は、第1回目の授業に必ず出席のこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

クラウス・ペーターセン他編著, 2017, 『北欧福祉国家は持続可能か 多元性と政策強調のゆくえ』 ミネルヴァ書房 (ISBN978-4-623-07535-5) ※学内販売無し

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

必要に応じて紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

女性生涯設計特論

280056N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

大風 薫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

女性活躍やワーク・ライフ・バランスの重要性が社会的に認識される現代にあっても、多くの女性にとって生涯を通じて自律的なキャリア形成を行ったり、経済的な自立を果たすことにはいまだ多くの困難が伴う。また個人化が進行する中において、標準化されたライフコースは過去のものとなりつつあり、男女を問わず主体的な生涯設計が求められている。本特論では、女性が置かれている社会的状況を客観的なデータによって把握した上で、女性たちが自身にとって良き人生をプランニングするための課題や解決策を論じることができることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1)女性のライフコースの現状と課題を客観的なデータをもとに説明することができる
- 2)女性労働やキャリア形成と家庭内役割の現状を理解し、それぞれの領域における課題を提示することができる
- 3)女性労働やキャリア形成、ワーク・ライフ・バランスに関する主要な理論や先行研究をもとに、問題解決の道筋を示すことができる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自己の研究との関連から見る本特論で求める知識・理解力、言語力、思考・解決力、共生・協働力、創造・発信力	女性のライフコースの現状やその課題について、理解できていない	女性のライフコースの現状やその課題について、授業内で示されたことについては理解できている	レベル2に加え、文献やデータを主体的に調べて問題意識を高めたり、新たな仮説を検討することができる	レベル3をもとに、自らの研究計画を作成・精査しながら、実行準備を整えられている

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス：研究計画と特論との関連
- 第 2 回 女性のライフコースの変遷
- 第 3 回 女性労働の現状と課題
- 第 4 回 女性労働に関する文献講読
- 第 5 回 女性のキャリア形成の現状と課題
- 第 6 回 女性のキャリアに関する文献講読

- 第 7 回 女性の家庭内役割とワーク・ライフ・バランスの現状と課題
- 第 8 回 女性の家庭内役割とワーク・ライフ・バランスに関する文献講読
- 第 9 回 ロールモデルへのインタビュー準備
- 第 10 回 ロールモデルへのインタビュー
- 第 11 回 女性の生涯設計における課題のまとめ
- 第 12 回 女性の生涯設計に対する各種施策・支援
- 第 13 回 女性の生涯設計に対する施策・支援に関する文献講読
- 第 14 回 女性の生涯設計に関する考察とディスカッション
- 第 15 回 自身の生涯設計の発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義とゼミ形式を組み合わせる。

ゼミ形式の回については、受講者の報告を中心に授業を運営する。

報告に対しては授業内で教員によるフィードバックに加え、受講生同士で建設的なフィードバックを行う機会を設ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

指定されたデータ、報告書、文献は必ず予習をして授業に臨むこと

授業内で紹介された文献等にも積極的にアクセスし、自身の問題意識や研究テーマへつなげる努力を継続的に行うこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

90

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

①文献講読30%、②インタビュー実施・まとめ・報告40%、③発表20%、④議論への参加度10%

上記①～③の各評価は、成果物の完成度とともに、取り組み姿勢も含めて行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業計画は受講生の人数や関心領域によって変更することがある

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で紹介する

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 女性健康文化特論

280057N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

藤原 智子

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

女性の生涯は、男性の緩やかな変化と異なり、思春期、性成熟期、更年期、老年期に渡ってホルモンの急激な変動にさらされ続け、また「産む性」として心身の状態のみならず社会的にも大きな影響を受け入れている。そこで健康で文化的な生活を営むために必要な女性の包括的生涯健康についての理解を深め、個人的視点と社会的視点から抽出した問題に対して積極的に対峙する力を養い、自ら得た知見を社会へと発信していく姿勢を身につけることを目標とする。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 女性のライフステージ別の身体の変化について正しい知識を修得する。
2. 女性の生涯健康について、個人的視点ならびに社会的視点で考察する力を養う。

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
女性の健康に対する知識と考察	女性のライフステージ別の身体の変化について関心がない	女性のライフステージ別の身体の変化について関心を持ち、正しい知識を得ようとする	女性のライフステージ別の身体の変化について正しい知識を得て、心身の健康を維持増進するために必要な要因について考察できる	女性のライフステージ別の身体の変化についての正しい知識を持ち、心身の健康を維持増進するために必要な要因について自身の考えを他者に明確に伝え、有意義な議論をすることができる

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 女性の一生と健康
- 第 2 回 ライフステージと女性の健康① 思春期
- 第 3 回 月経のメカニズム
- 第 4 回 個人的視点と社会的視点からみた思春期の健康問題
- 第 5 回 ライフステージと女性の健康② 性成熟期
- 第 6 回 妊娠と出産
- 第 7 回 個人的視点と社会的視点からみた性成熟期の健康問題

- 第 8 回 ライフステージと女性の健康③ 更年期と老年期
- 第 9 回 個人的視点と社会的視点からみた更年期の健康問題
- 第 10 回 個人的視点と社会的視点からみた老年期の健康問題
- 第 11 回 女性の健康とストレス
- 第 12 回 個人的視点と社会的視点からみたストレスの影響
- 第 13 回 女性の健康とダイエット
- 第 14 回 個人的視点と社会的視点からみたダイエットの影響
- 第 15 回 まとめ 文化の視点から考える女性の健康

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕  
主に講義形式をとるが、授業の中で予め提示した課題についてはゼミ形式で行い、各テーマごとにレポートを課す。さらにレポートをもとにした質疑応答によって理解度を確認する。

参考文献や資料は授業の中で提示、あるいは配付する。  
〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕  
各授業の終わりに次回までに調べてくる課題を与える。  
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30  
〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕  
評価は、授業参加度 (30%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕  
・対面で実施する。  
・授業内で適宜資料を配付し、参考図書を紹介する。  
〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕  
〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕  
〔参考URL(URL for Reference) 〕  
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## インターンシップ

280061N0J  
大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 集中  
その他  
ー  
60  
岩崎 れい 吉田 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕  
国際組織や国際ビジネスにおいて活躍を志す学生にとって、また図書館や博物館などの文化機関での仕事に従事したいと考えている学生にとって、現場で一定期間を過ごすことは何にものにも換えがたい経験になる。このインタ

ーンシップは、それらの仕事の一部分を体験することで、その仕事の概容を知ること、また他の職種をふくめたさまざまなビジネスシーンや文化活動を理解するため、開講される。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕  
たとえば、多国籍企業や国際機関などに特有の文化に接し、国際組織での公用文書の作成の実態に触れたりすること。そうした仕事についての認識を確かなものとする。図書館や美術館といった文化機関の所蔵資料・文物を十全に理解すること。それら資料・文物を利用して、閲覧者や観覧者に対する資料提供や展覧のための技術に触れてみる

こと。  
〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	実習先について、基本的な知識がない。	実習先についての基本的な知識がある。	実習先の業務について一通りの知識がある。	実習先の業務について十分な知識がある。
共生・協働する力	指導者の指示を受けて、的確に業務をすることができない。	指導者の指示通りに業務をすることができ	指導者の指示を的確に把握し、その上で職員や他の実習生と協力して業務を行うことができる。	周囲の状況を見たり、指導者の指示を確認したりしながら、主体的に業務をすることができる。

〔授業計画〕  
※実習先によって、授業計画が変わってきます。

博物館での実習を希望する場合の担当者は、吉田朋子、図書館及び国際機関での実習を希望する場合の担当者は、岩崎れいです。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕  
インターンシップの実施先としては、国連広報センター、大阪府立図書館、博物館・美術館などの文化機関を予定している。

事前・事後指導にも必ず出席すること。実習内容等に関するフィードバックは事後指導において行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕  
1. 基本的な知識・技術を身につけておく。  
2. インターンシップ先の概要、業務内容等について、あらかじめ知っておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕  
30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕  
インターンシップ先の評価および体験したインターンシップについてのレポートによって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

吉田朋子：兵庫県立美術館で学芸員として勤務

岩崎れい：国立国会図書館で非常勤調査員として勤務

読書支援プログラム演習

280117NOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

火曜1限

ー

60

選択必修

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この演習では、子どもたちに対する読書支援として、どのようなプログラムが実施されているかを知り、その特徴や課題について考察することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 日本・米国・英国を中心に、子どもへの読書支援のために現在実施されている国の施策や民間の取組について学ぶ。
2. 図書館を中心に行われている子どもたちへの読書支援のプログラムについて学ぶ。
3. 国語科教育と読書支援との関連性について学び、考察する。
4. 子どもたちへの読書支援の取組が、現在抱えている課題について考察する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	子どもの読書に関する基本的な知識がない。	子どもの読書に関する基本的な知識がある。	子どもの読書の背景にある社会状況について理解している。	子どもの読書について、社会背景や教育と結び付けて考察することができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 1. 日本における読書支援プログラムの現状と課題  
(1) 法律と行政施策
- 第 2 回 1. 日本における読書支援プログラムの現状と課題

- (2) 学校での取り組み
- 第 3 回 1. 日本における読書支援プログラムの現状と課題  
(3) 地域社会の取り組み
- 第 4 回 1. 日本における読書支援プログラムの現状と課題  
(4) 発表・問題提起
- 第 5 回 2. 諸外国における読書支援プログラムの現状と課題  
(1) 社会背景と行政施策
- 第 6 回 2. 諸外国における読書支援プログラムの現状と課題  
(2) 家族支援の意義
- 第 7 回 2. 諸外国における読書支援プログラムの現状と課題  
(3) 貧困家庭・少数民族の子どもたちへの支援
- 第 8 回 2. 諸外国における読書支援プログラムの現状と課題  
(4) 発表・問題提起
- 第 9 回 3. 英国におけるブックスタート  
(1) 行政施策とブックスタート
- 第 10 回 3. 英国におけるブックスタート  
(2) ハンディキャップを持つ子どもたちへの支援
- 第 11 回 3. 英国におけるブックスタート  
(3) 学力向上政策との関わり
- 第 12 回 3. 英国におけるブックスタート  
(4) 発表・問題提起
- 第 13 回 4. 図書館における読書支援プログラムの現状と課題
- 第 14 回 国語科教育と読書支援の関連性とその課題
- 第 15 回 まとめ
- 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない
- 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕
1. 基本的な事項や事例を文献等で学ぶ。
  2. 各自が関心を持った読書支援プログラムについて、法律・施策・取組事例及びその研究について調べ、その特徴と課題について考察する。
  3. 提出物に対するフィードバックは、口頭および提出物へのコメント記入によって行う。
- 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕
1. 法律やニュース報道などに、日頃から関心を持つ。
  2. 文献をできるだけ多く読む。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕
- 60
- 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕
- 平常点及び授業中の課題発表50%、学期末レポート50%で評価する。
- 〔留意事項 (Other Information)〕
- フィールドワークやゲスト講師による授業を行うこともある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配布

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》

京都市、福知山市、大阪府などの自治体において、委員長または委員として、子ども読書活動推進計画の策定に携わった経験がある。

## 日中言語交流史演習

280119N0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 後期

木曜1限

ー

60

選択必修

朱 鳳

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

中国では宣教師たちの尽力によって、早くから辞書の編纂と聖書の翻訳が手がけられた。これらの成果は当然日本の英学及び西洋知識の学習に影響を与えた。この科目は幕末と明治初期の和英字典と翻訳書づくりにおける英華字典の影響について研究し、多文化理解における漢語と漢字の重要性を明らかにしたい。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 和英字典と華英字典の語彙比較とお互いの影響に関する文献を講読する。
2. 和製漢語作りにおける日本人の漢語力とその役割を把握する。
3. 授業の最終回において、レポートを返却し、振り返り学習をする。

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	日中間の漢字語彙交流について全く理解していない。	日中間の漢字語彙交流について少し理解出来る。発表にも参加する。	日中間の漢字語彙交流について理解し、発表にも参加する。その上、議論にも積極的に参加する。	日中間の漢字語彙交流について理解し、議論にも積極的に参加する。質の高い発表ができる。

### 〔授業計画〕

第 1 回 インTRODクシヨン

第 2 回 日中言語交流における宣教師の役割

第 3 回 宣教師の翻訳と漢語の役割ーRobert Morrisonと「華英・英華字典」(1815-1823)

第 4 回 モリソン (Robert Morrison)「華英・英華字典」(1815-1823)の日本への影響ー唐通事の場合

第 5 回 モリソン (Robert Morrison)「華英・英華字典」(1815-1823)の日本への影響ー蘭通詞の場合

第 6 回 ロブシャイト (W. Lobscheid)『英華字典』(1866-1869)の日本への影響

第 7 回 発表1ー日本の西書伝来と在華宣教師の関係について

第 8 回 福沢諭吉の『増訂華英通話』(1860)

第 9 回 堀達之助と『英和对訳袖珍辞書』(1862)

第 10 回 中村敬字と『英華和訳字典』(1879)

第 11 回 発表2ー幕末明治期の日本人と洋学

第 12 回 英華字典、英和字典を通して、日中共通語彙について考察

第 13 回 英華字典、英和字典を通して、宣教師と日中共通語彙について考察

第 14 回 発表3ー宣教師と洋学者の交流について、レポート提出

第 15 回 まとめ。レポート返却、振り返り学習

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

資料の講読を中心とするが、受講生の発表も重視する。また、発表後に提出されたレポートに対する意見と評価は、最終回のまとめで行う。

### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 日中近代語彙に関する文献と論文を丁寧に読む。
2. 関連する研究会に参加することを推奨する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

### 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (発表を含む、15%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

### 〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業毎にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『近代日中学術用語の形成と伝播 地理学用語を中心に』/荒川清秀/白帝社/ 1997年/

『近代日中新語の創出と交流』/朱京偉/白帝社/ 2003年/

『モリソンの「華英・英華字典」と東西文化交流』/朱鳳/白帝社/2009年/

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

日本文学演習

280120NOJ  
 大学院  
 人間文化研究科 > 人間文化専攻  
 2単位 後期  
 木曜 4限  
 ー  
 60  
 選択必修  
 河野 有時

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

私たちが文学作品に対するとき、私たちは何らかの立場や見方によって解釈を行っている。私たちは多くの場合そのことを意識して読書しないが、この授業ではそういう立場や見方に自覚的なことを目標とする。それにより、文学研究における多様な立場や見方としての方法や理論への理解を深めることを目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 文学研究の方法を理解する。
2. 文学研究に用いられる術語の意味を理解する。
3. 読書行為と作品の関係性を理解する。
4. 文学研究の方法や術語について解説し、課題を論述する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に主体的に取り組もうとすることができていない。	課題に主体的に取り組んでいる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展させることができる。	課題に主体的に取り組む、課題を発展的に考察することができる。
文学研究に関する知識	文学研究に用いられている術語について理解できていない。	文学研究に用いられている術語について理解している。	文学研究に用いられている術語について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	文学研究に用いられている術語について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。
文学研究に対する理解力	文学研究の方法について理解することができていない。	文学研究の方法について理解している。	文学研究の方法について理解し、他の文献や術語を調べることができる。	文学研究の方法について理解し、他の文献や述語とのかかわりから背景を理解できている。

課題について発表する力	課題を整理し解説することができない。	課題を整理し解説することができる。	課題を整理し解説し、問題点を見つけることができる。	課題を整理し解説し、問題点を論述することができる。
-------------	--------------------	-------------------	---------------------------	---------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 批評理論の展開
- 第 3 回 作家と作者
- 第 4 回 作者と読者
- 第 5 回 作品とテキスト
- 第 6 回 語りと語り手
- 第 7 回 フェミニズム批評
- 第 8 回 都市と文学
- 第 9 回 図像と文学
- 第 10 回 詩と散文
- 第 11 回 文学史とは
- 第 12 回 出版とメディア
- 第 13 回 文学研究とサブカルチャー
- 第 14 回 国語教育と文学研究
- 第 15 回 まとめと今後の課題

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 授業は演習形式で行う。
2. 担当者は発表にあたって資料を収集し準備する。
3. 準備した資料に即して発表し、他の受講者と議論する。
4. 授業の終了時に発表内容にかかわる感想、意見を提出する。
4. 議論によって明らかになった課題について次回に補足説明する。
5. 最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 担当箇所に出てくる術語の意味を調べる。
2. 担当箇所に関連する参考文献や資料を読み、自分の考えをまとめておく。
3. 担当箇所を分かりやすく解説するためにはどのように表現すべきか検討する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (40%) と発表内容 (60%) とに基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

テーマは履修者の関心に合わせて変更することがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

プリントを配付する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

漢文学特論

280151NOJ

大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 前期

木曜3限

ー

60

朱 鳳

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は明治初期に発行された『明六雑誌』を資料にし、和漢混淆文で書かれた西洋文化に関する啓蒙的な論文を数編ピックアップし精読する。西学の受容という歴史的な背景を踏まえた上、日本の独特な文語文の一種である和漢混淆文の読み方、文法などを把握していく。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 和漢混淆文の論文を精読する。
2. 歴史背景と内容を理解した上で、和漢混淆文のスタイルと文法をマスターする。
3. 授業の最終回において、提出された課題を返却し、振り返り学習をする。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	授業で学習した和漢混淆文の論文についてほとんど理解していない。	授業で学習した和漢混淆文の論文についてある程度理解している。	授業で学習した和漢混淆文の論文についてほぼ理解した上で、自分なりの解釈、分析もできる。	授業で学習した和漢混淆文の論文について独自の解釈、分析力を持っている。さらに、他の文語文にも興味を示し、積極的に読解しようと努力している。

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン
- 第 2 回 西周 「洋字を以て国語を書するの論」の前半を読む
- 第 3 回 西周 「洋字を以て国語を書するの論」の後半を読む
- 第 4 回 杉亨二 「北亜米利加合衆国の自立」の前半を読む
- 第 5 回

杉亨二 「北亜米利加合衆国の自立」の後半を読む

- 第 6 回 中村正直 「西学一斑」の前半を読む
- 第 7 回 中村正直 「西学一斑」の後半を読む
- 第 8 回 発表
- 第 9 回 津田真道 「新聞紙論」の前半を読む
- 第 10 回 津田真道 「新聞紙論」の後半を読む
- 第 11 回 中村正直 「人民の性質を改革する論」の前半を読む
- 第 12 回 中村正直 「人民の性質を改革する論」の後半を読む
- 第 13 回 西村茂樹 「西語十二解」の前半を読む
- 第 14 回 1. 西村茂樹 「西語十二解」の後半を読む  
2. 課題提出
- 第 15 回 まとめ。提出された課題を返却、振り返り学習。  
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

日本の文語文への理解においては、繰り返し読解することが基本である。明治初期に書かれた西洋文化に関する文語文を熟読した上で、歴史背景や文法、漢字語の読み方などを学習していく。その内容を深く読解でき、明治初期に西洋文化の導入における漢文の役割について独自の解釈、分析力を持つことを最終目標とする。また、提出された課題に対する意見と評価は、最終回のまとめで行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 指示に従って予習復習する。
  2. 授業の内容と関連する論文を数編読む。分析力を養う。
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業参加度 (15%)、予習復習成果 (発表を含む、15%)、レポート (70%) に基づいて総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

授業毎にプリントを配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『「明六雑誌」とその周辺 西洋文化の受容・思想と言語』  
／中川大学人文学研究所編／

御茶ノ水書房 2004

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究 I

280161A0J  
大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 前期  
水曜1限  
ー  
必修  
岩崎 れい

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 研究計画の策定 1  
修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 研究計画の策定 2  
修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 テーマの設定 1  
修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 テーマの設定 2  
修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究方法 1  
研究の方法について (文献調査法)
- 第 7 回 研究方法 2  
研究の方法について (アンケート調査法)
- 第 8 回 情報の収集  
文献調査・情報収集の方法 (図書館・データベースの利用)
- 第 9 回 情報の管理  
文献調査・情報収集の方法 (文献目録の作成)
- 第 10 回 情報の整理  
文献調査・情報収集の方法 (ノートの作成)
- 第 11 回 先行研究 1  
先行研究を知ることの意義
- 第 12 回 先行研究 2  
先行研究と論文テーマとの関連を考察する
- 第 13 回 先行研究 3  
先行研究の応用について
- 第 14 回 引用  
よい論文のための適切な引用のあり方
- 第 15 回 研究倫理  
研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

### 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

4 月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

### 〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究 I

280161B0J  
大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 前期  
金曜1限  
ー  
必修  
鎌田 均

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 研究計画の策定 1  
修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 研究計画の策定 2  
修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 テーマの設定 1  
修士論文における論文テーマの設定

- 第 5 回 テーマの設定 2  
修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究方法 1  
研究の方法について（文献調査法）
- 第 7 回 研究方法 2  
研究の方法について（アンケート調査法）
- 第 8 回 情報の収集  
文献調査・情報収集の方法（図書館・データベースの利用）
- 第 9 回 情報の管理  
文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
- 第 10 回 情報の整理  
文献調査・情報収集の方法（ノートの作成）
- 第 11 回 先行研究 1  
先行研究を知ることの意義
- 第 12 回 先行研究 2  
先行研究と論文テーマとの関連を考察する
- 第 13 回 先行研究 3  
先行研究の応用について
- 第 14 回 引用  
よい論文のための適切な引用のあり方
- 第 15 回 研究倫理  
研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

4月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究 I

280161C0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

月曜1限

一

必修

朱 鳳

### 〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

### 〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
研究力	大学院での研究について理解できていない。	大学院での研究について少し理解できているが、研究方法はあまり把握していない。	自らの研究力がある。研究方法も一定程度把握している。	自らの研究力がある。研究課題と研究方法をしっかりと把握している。

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 研究計画の策定 1  
修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 研究計画の策定 2  
修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 テーマの設定 1  
修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 テーマの設定 2  
修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究方法 1  
研究の方法について（文献調査法）
- 第 7 回 研究方法 2  
研究の方法について（アンケート調査法）
- 第 8 回 情報の収集  
文献調査・情報収集の方法（図書館・データベースの利用）
- 第 9 回 情報の管理  
文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
- 第 10 回 情報の整理  
文献調査・情報収集の方法（ノートの作成）
- 第 11 回 先行研究 1

先行研究を知ることの意義

第 12 回 先行研究 2  
先行研究と論文テーマとの関連を考察する

第 13 回 先行研究 3  
先行研究の応用について

第 14 回 引用  
よい論文のための適切な引用のあり方

第 15 回 研究倫理  
研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕  
各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕  
4 月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕  
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕  
授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究 I

280161E0J  
大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 前期  
水曜 1限  
ー  
中里 郁子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕  
修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション  
研究事始め：大学院における研究とは

第 2 回 研究計画の策定 1  
修士論文の意義：卒業論文の発展形として

第 3 回 研究計画の策定 2  
修士論文の意義：大学院での研究の収斂として

第 4 回 テーマの設定 1  
修士論文における論文テーマの設定

第 5 回 テーマの設定 2  
修士論文における論文テーマの修正と設定

第 6 回 研究方法 1  
研究の方法について (文献調査法)

第 7 回 研究方法 2  
研究の方法について (アンケート調査法)

第 8 回 情報の収集  
文献調査・情報収集の方法 (図書館・データベースの利用)

第 9 回 情報の管理  
文献調査・情報収集の方法 (文献目録の作成)

第 10 回 情報の整理  
文献調査・情報収集の方法 (ノートの作成)

第 11 回 先行研究 1  
先行研究を知ることの意義

第 12 回 先行研究 2  
先行研究と論文テーマとの関連を考察する

第 13 回 先行研究 3  
先行研究の応用について

第 14 回 引用  
よい論文のための適切な引用のあり方

第 15 回 研究倫理  
研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕  
各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕  
4 月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕  
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究 I

280161FOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 研究計画の策定 1  
修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 研究計画の策定 2  
修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 テーマの設定 1  
修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 テーマの設定 2  
修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究方法 1  
研究の方法について (文献調査法)
- 第 7 回 研究方法 2  
研究の方法について (アンケート調査法)
- 第 8 回 情報の収集  
文献調査・情報収集の方法 (図書館・データベースの利用)
- 第 9 回 情報の管理  
文献調査・情報収集の方法 (文献目録の作成)
- 第 10 回 情報の整理  
文献調査・情報収集の方法 (ノートの作成)
- 第 11 回 先行研究 1  
先行研究を知ることの意義
- 第 12 回 先行研究 2  
先行研究と論文テーマとの関連を考察する
- 第 13 回 先行研究 3  
先行研究の応用について
- 第 14 回 引用  
よい論文のための適切な引用のあり方
- 第 15 回 研究倫理

研究倫理について一剽窃のことなど

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

4月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究 I

280161HOJ

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

木曜 1限

—

必修

石川 裕之

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 研究計画の策定 1  
修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 研究計画の策定 2  
修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 テーマの設定 1

- 修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 テーマの設定 2  
修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究方法 1  
研究の方法について (文献調査法)
- 第 7 回 研究方法 2  
研究の方法について (アンケート調査法)
- 第 8 回 情報の収集  
文献調査・情報収集の方法 (図書館・データベースの利用)
- 第 9 回 情報の管理  
文献調査・情報収集の方法 (文献目録の作成)
- 第 10 回 情報の整理  
文献調査・情報収集の方法 (ノートの作成)
- 第 11 回 先行研究 1  
先行研究を知ることの意義
- 第 12 回 先行研究 2  
先行研究と論文テーマとの関連を考察する
- 第 13 回 先行研究 3  
先行研究の応用について
- 第 14 回 引用  
よい論文のための適切な引用のあり方
- 第 15 回 研究倫理  
研究倫理について - 剽窃のことなど

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

4 月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究 I

280161I0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

月曜1限

ー

必修

吉田 朋子

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 修士論文の意義について理解する
2. 修士論文のテーマを決定する
3. 研究方法を決定する
4. 研究倫理について理解する
5. 研究計画を策定する

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	修士論文の意義を意識していない	修士論文の意義を理解し、具体的に目標設定できている	修士論文執筆について現実的な作業計画をたてている	修士論文について自律的に進行管理できている
知識・理解力	卒業論文の振り返りができていない	論文執筆に必要な基本的な知識が身につけている	様々な研究方法を理解している	自分のテーマに適切な研究方法を判断し実践している
言語力	論文にふさわしい文章力が身につけていない	基本的な文章力が身につけている	論理的でわかりやすい文章を執筆できる	効果的な章構成が組み立てられる
思考・解決力	自分のテーマを決めることができていない	多様な視点から検討して、テーマを決めている	多様な視点から検討して、研究方法を決めている	状況に応じて研究方法を調整できる
共生・協働する力	他人の研究を意識していない	先行研究の意義を理解している	自分の研究を先行研究と関連づけることができる	他の大学院生と学問的なレベルで議論することができる
創造・発信力	自分の研究の独自性を意識していない	自分の研究の独自性を挙げることができる	自分の研究の独自性・意義を学問的に解説できる	他の研究者に対して自分の独自性を主張することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 研究計画の策定 1  
修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 研究計画の策定 2  
修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 テーマの設定 1  
修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 テーマの設定 2  
修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究方法 1  
研究の方法について（文献調査法）
- 第 7 回 研究方法 2  
研究の方法について（アンケート調査法）
- 第 8 回 情報の収集  
文献調査・情報収集の方法（図書館・データベースの利用）
- 第 9 回 情報の管理  
文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
- 第 10 回 情報の整理  
文献調査・情報収集の方法（ノートの作成）
- 第 11 回 先行研究 1  
先行研究を知ることの意義
- 第 12 回 先行研究 2  
先行研究と論文テーマとの関連を考察する
- 第 13 回 先行研究 3  
先行研究の応用について
- 第 14 回 引用  
よい論文のための適切な引用のあり方
- 第 15 回 研究倫理  
研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- 1. 文献読解
- 2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

4月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 I

280161J0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期

火曜 2限

河野 有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文作成のために必要な基本的事項を理解し、研究課題・計画を早期に策定する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- 1. 修士論文の意義について理解する
- 2. 修士論文のテーマを決定する
- 3. 研究方法を決定する
- 4. 研究倫理について理解する
- 5. 研究計画を策定する

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
研究事始め：大学院における研究とは
- 第 2 回 研究計画の策定 1  
修士論文の意義：卒業論文の発展形として
- 第 3 回 研究計画の策定 2  
修士論文の意義：大学院での研究の収斂として
- 第 4 回 テーマの設定 1  
修士論文における論文テーマの設定
- 第 5 回 テーマの設定 2  
修士論文における論文テーマの修正と設定
- 第 6 回 研究方法 1  
研究の方法について（文献調査法）
- 第 7 回 研究方法 2  
研究の方法について（アンケート調査法）
- 第 8 回 情報の収集  
文献調査・情報収集の方法（図書館・データベースの利用）
- 第 9 回 情報の管理  
文献調査・情報収集の方法（文献目録の作成）
- 第 10 回 情報の整理  
文献調査・情報収集の方法（ノートの作成）
- 第 11 回 先行研究 1  
先行研究を知ることの意義
- 第 12 回 先行研究 2  
先行研究と論文テーマとの関連を考察する
- 第 13 回 先行研究 3  
先行研究の応用について
- 第 14 回 引用  
よい論文のための適切な引用のあり方

第 15 回 研究倫理

研究倫理について－剽窃のことなど

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

4 月末に提出する研究計画書とその達成状況により、評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162A0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

木曜 1限

ー

必修

岩崎 れい

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

〔授業計画〕

- 第 1 回 テーマの確認  
論文テーマと論文作成の手順について
- 第 2 回 構成  
論文の構成
- 第 3 回 序論  
序論の役割

第 4 回 体裁の確認

論文の体裁

第 5 回 先行研究 1

先行研究についてまとめる

第 6 回 先行研究 2

先行研究について発表する

第 7 回 先行研究 3

先行研究について批評する

第 8 回 文章表現 1

論文の文章 (文体と表記)

第 9 回 文章表現 2

論文の文章 (表記と用語)

第 10 回 論述方法 1

論文にふさわしい論述形式

第 11 回 論述方法 2

論述の学術性とはなにか

第 12 回 注記について 1

論文の注 (注記の原則)

第 13 回 注記について 2

論文の注 (注の形式)

第 14 回 注記について 3

論文の注 (欧文・和文の注)

第 15 回 まとめ

修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162B0J  
 大学院  
 人間文化研究科 > 人間文化専攻  
 2単位 後期  
 金曜1限  
 ー  
 必修  
 鎌田 均

【科目の教育目標 (Course Description)】

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

【授業計画】

- 第 1 回 テーマの確認  
論文テーマと論文作成の手順について
- 第 2 回 構成  
論文の構成
- 第 3 回 序論  
序論の役割
- 第 4 回 体裁の確認  
論文の体裁
- 第 5 回 先行研究 1  
先行研究についてまとめる
- 第 6 回 先行研究 2  
先行研究について発表する
- 第 7 回 先行研究 3  
先行研究について批評する
- 第 8 回 文章表現 1  
論文の文章 (文体と表記)
- 第 9 回 文章表現 2  
論文の文章 (表記と用語)
- 第 10 回 論述方法 1  
論文にふさわしい論述形式
- 第 11 回 論述方法 2  
論述の学術性とはなにか
- 第 12 回 注記について 1  
論文の注 (注記の原則)
- 第 13 回 注記について 2  
論文の注 (注の形式)
- 第 14 回 注記について 3  
論文の注 (欧文・和文の注)
- 第 15 回 まとめ  
修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

各指導教員から個別に指導を受ける。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

【留意事項 (Other Information)】

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

担当の教員の指示による。

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

授業の中で随時紹介する。

【参考URL(URL for Reference)】

【実務経験のある教員による実践的科目】

特別研究 II

280162C0J  
 大学院  
 人間文化研究科 > 人間文化専攻  
 2単位 後期  
 月曜1限  
 ー  
 必修  
 朱 鳳

【科目の教育目標 (Course Description)】

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	研究テーマについて全く考えていない	研究テーマについて考えているが、文献調査は不十分である。	研究テーマについて考えている。文献調査もほぼ出来ている。	ユニークな研究テーマを考えることができ、文献調査も十分に出来ている。

【授業計画】

- 第 1 回 テーマの確認

論文テーマと論文作成の手順について

第 2 回 構成  
論文の構成

第 3 回 序論  
序論の役割

第 4 回 体裁の確認  
論文の体裁

第 5 回 先行研究 1  
先行研究についてまとめる

第 6 回 先行研究 2  
先行研究について発表する

第 7 回 先行研究 3  
先行研究について批評する

第 8 回 文章表現 1  
論文の文章（文体と表記）

第 9 回 文章表現 2  
論文の文章（表記と用語）

第 10 回 論述方法 1  
論文にふさわしい論述形式

第 11 回 論述方法 2  
論述の学術性とはなにか

第 12 回 注記について 1  
論文の注（注記の原則）

第 13 回 注記について 2  
論文の注（注の形式）

第 14 回 注記について 3  
論文の注（欧文・和文の注）

第 15 回 まとめ  
修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕  
各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕  
1. 文献読解  
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕  
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕  
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（A4、900字×5枚）によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕  
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕  
担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕  
授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕  
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究 II

280162E0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

木曜1限

中里 郁子

### 〔科目の教育目標（Course Description）〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

### 〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

### 〔授業計画〕

第 1 回 テーマの確認  
論文テーマと論文作成の手順について

第 2 回 構成  
論文の構成

第 3 回 序論  
序論の役割

第 4 回 体裁の確認  
論文の体裁

第 5 回 先行研究 1  
先行研究についてまとめる

第 6 回 先行研究 2  
先行研究について発表する

第 7 回 先行研究 3  
先行研究について批評する

第 8 回 文章表現 1  
論文の文章（文体と表記）

第 9 回 文章表現 2  
論文の文章（表記と用語）

第 10 回 論述方法 1  
論文にふさわしい論述形式

第 11 回 論述方法 2  
論述の学術性とはなにか

第 12 回 注記について 1  
論文の注（注記の原則）

第 13 回 注記について 2  
論文の注（注の形式）

第 14 回 注記について 3  
論文の注（欧文・和文の注）

第 15 回 まとめ  
修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究 II

280162F0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期

蜂矢 真弓

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

〔授業計画〕

- 第 1 回 テーマの確認  
論文テーマと論文作成の手順について
- 第 2 回 構成  
論文の構成
- 第 3 回 序論  
序論の役割
- 第 4 回 体裁の確認  
論文の体裁
- 第 5 回 先行研究 1  
先行研究についてまとめる
- 第 6 回 先行研究 2  
先行研究について発表する
- 第 7 回 先行研究 3

先行研究について批評する

- 第 8 回 文章表現 1  
論文の文章 (文体と表記)
- 第 9 回 文章表現 2  
論文の文章 (表記と用語)
- 第 10 回 論述方法 1  
論文にふさわしい論述形式
- 第 11 回 論述方法 2  
論述の学術性とはなにか
- 第 12 回 注記について 1  
論文の注 (注記の原則)
- 第 13 回 注記について 2  
論文の注 (注の形式)
- 第 14 回 注記について 3  
論文の注 (欧文・和文の注)
- 第 15 回 まとめ  
修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究Ⅱ

280162H0J  
 大学院  
 人間文化研究科 > 人間文化専攻  
 2単位 後期  
 月曜1限  
 ー  
 必修  
 吉田 朋子

【科目の教育目標 (Course Description)】

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	論文執筆に関して見通しがたっていない	論文執筆に関して具体的な目標をたてることができる	現実的な作業計画をたてることができる	論文執筆を自立的に進行管理することができる
知識・理解力	先行研究の把握が不十分である	先行研究を十分に把握している	先行研究を批判的にとらえることができる	先行研究を自分の研究に生かすことができる
言語力	論文にふさわしい論述方法を知らない	論文にふさわしい論述方法を知っている	専門用語を使用して論理的に論述できる	学術的な論述方法で執筆することができる
思考・解決力	自分のテーマをしばりこめていない	自分のテーマを明確にできている	研究方法や調査範囲を決定できている	不測の事態が起こっても軌道修正できる
共生・協働する力	学術論文に形式があることの意義が理解できていない	学術論文の形式を遵守する意義が理解できている	自分の学問分野の特色を理解し、他の研究者の活動に興味を持っている	他の大学院生と学問的な議論ができる
創造・発信力	自分の研究の独自性を意識していない	自分の研究の独自性を挙げることができる	自分の研究の独自性・意義を学問的に解説できる	他の研究者に対して自分の独自性を主張することができる

【授業計画】

- 第 1 回 テーマの確認  
論文テーマと論文作成の手順について
- 第 2 回 構成  
論文の構成
- 第 3 回 序論  
序論の役割
- 第 4 回 体裁の確認  
論文の体裁
- 第 5 回 先行研究 1  
先行研究についてまとめる
- 第 6 回 先行研究 2  
先行研究について発表する
- 第 7 回 先行研究 3  
先行研究について批評する
- 第 8 回 文章表現 1  
論文の文章 (文体と表記)
- 第 9 回 文章表現 2  
論文の文章 (表記と用語)
- 第 10 回 論述方法 1  
論文にふさわしい論述形式
- 第 11 回 論述方法 2  
論述の学術性とはなにか
- 第 12 回 注記について 1  
論文の注 (注記の原則)
- 第 13 回 注記について 2  
論文の注 (注の形式)
- 第 14 回 注記について 3  
論文の注 (欧文・和文の注)
- 第 15 回 まとめ  
修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ

【定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート】

実施しない

【教育・学習の方法 (Course Methods)】

各指導教員から個別に指導を受ける。

【準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)】

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

【準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))】

30

【評価方法・評価基準 (Evaluation)】

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

【留意事項 (Other Information)】

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

【テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)】

担当の教員の指示による。

【参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)】

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕  
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究 II

280162IOJ  
大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 後期  
火曜 2限  
ー  
必修  
河野 有時

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

### 〔授業計画〕

- |        |                             |
|--------|-----------------------------|
| 第 1 回  | テーマの確認<br>論文テーマと論文作成の手順について |
| 第 2 回  | 構成<br>論文の構成                 |
| 第 3 回  | 序論<br>序論の役割                 |
| 第 4 回  | 体裁の確認<br>論文の体裁              |
| 第 5 回  | 先行研究 1<br>先行研究についてまとめる      |
| 第 6 回  | 先行研究 2<br>先行研究について発表する      |
| 第 7 回  | 先行研究 3<br>先行研究について批評する      |
| 第 8 回  | 文章表現 1<br>論文の文章 (文体と表記)     |
| 第 9 回  | 文章表現 2<br>論文の文章 (表記と用語)     |
| 第 10 回 | 論述方法 1<br>論文にふさわしい論述形式      |
| 第 11 回 | 論述方法 2<br>論述の学術性とはなにか       |
| 第 12 回 | 注記について 1<br>論文の注 (注記の原則)    |
| 第 13 回 | 注記について 2<br>論文の注 (注の形式)     |
| 第 14 回 | 注記について 3<br>論文の注 (欧文・和文の注)  |
| 第 15 回 | まとめ<br>修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ  |

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

1. 文献読解
2. 読解した文献の整理

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

### 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書 (A4、900字×5枚) によって評価する。

### 〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究 II

280162JOJ  
大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 後期  
木曜 1限  
ー  
石川 裕之

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

研究計画に従って先行研究にあたり、設定したテーマに関する研究の到達水準を把握し、自身の研究が担うべき課題を明らかにする。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 先行研究についてまとめる
2. データや情報を収集する
3. 論文の構想を決定する
4. 論文のフォーマットについて把握する

### 〔授業計画〕

- |       |                             |
|-------|-----------------------------|
| 第 1 回 | テーマの確認<br>論文テーマと論文作成の手順について |
| 第 2 回 | 構成<br>論文の構成                 |
| 第 3 回 | 序論<br>序論の役割                 |
| 第 4 回 | 体裁の確認<br>論文の体裁              |
| 第 5 回 | 先行研究 1                      |

- 先行研究についてまとめる
- 第 6 回 先行研究 2  
先行研究について発表する
- 第 7 回 先行研究 3  
先行研究について批評する
- 第 8 回 文章表現 1  
論文の文章（文体と表記）
- 第 9 回 文章表現 2  
論文の文章（表記と用語）
- 第 10 回 論述方法 1  
論文にふさわしい論述形式
- 第 11 回 論述方法 2  
論述の学術性とはなにか
- 第 12 回 注記について 1  
論文の注（注記の原則）
- 第 13 回 注記について 2  
論文の注（注の形式）
- 第 14 回 注記について 3  
論文の注（欧文・和文の注）
- 第 15 回 まとめ  
修士論文作成に向けた論文構成法のまとめ
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない
- 〔教育・学習の方法（Course Methods）〕  
各指導教員から個別に指導を受ける。
- 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕
1. 文献読解
  2. 読解した文献の整理
- 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕  
30
- 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕  
研究計画の達成状況および学期末に提出する研究経過報告書（A4、900字×5枚）によって評価する。
- 〔留意事項（Other Information）〕  
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。
- 〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕  
担当の教員の指示による。
- 〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕  
授業の中で随時紹介する。
- 〔参考URL(URL for Reference)〕  
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究Ⅲ

280163A0J  
大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 前期集中  
その他  
ー  
必修  
岩崎 れい

### 〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

### 〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
修士論文作成事始め：「特別研究Ⅰ～Ⅱ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 テーマの調整  
論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 計画の確認  
論文作成の手順の確認
- 第 4 回 構成  
論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究 1  
先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究 2  
先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報 1  
書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報 2  
書誌情報の整理
- 第 9 回 論述方法 1  
論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第 10 回 論述方法 2  
論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
- 第 11 回 論述方法 3  
論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
- 第 12 回 論述方法 4  
論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
- 第 13 回 論述方法 5  
論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
- 第 14 回 論述方法 6

論証の方法としての客観的論述（まとめ）

第 15 回 まとめ  
中間発表

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

### 特別研究III

280163B0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

鎌田 均

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

修士論文作成事始め：「特別研究I~II」の学習内容を振り返る

第 2 回 テーマの調整

論文テーマの明確な設定

第 3 回 計画の確認

論文作成の手順の確認

第 4 回 構成

論文構成の確認

第 5 回 先行研究 1

先行研究の文献資料収集

第 6 回 先行研究 2

先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認

第 7 回 書誌情報 1

書誌情報の分析

第 8 回 書誌情報 2

書誌情報の整理

第 9 回 論述方法 1

論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える

第 10 回 論述方法 2

論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）

第 11 回 論述方法 3

論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）

第 12 回 論述方法 4

論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）

第 13 回 論述方法 5

論証の方法としての客観的論述（定義づけ）

第 14 回 論述方法 6

論証の方法としての客観的論述（まとめ）

第 15 回 まとめ

中間発表

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

### 特別研究III

280163C0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期集中

その他

一

必修

朱 鳳

#### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

#### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

#### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
創造・発信力	中間発表に向けての文献調査、論文執筆の意欲がまったくない。	中間発表に向けての文献調査、論文執筆の意欲はあるが、創造力、発信力は不十分である。	中間発表に向けて文献調査、論文執筆の意欲がある。中間発表もほぼできている。	中間発表に向けて文献調査、論文執筆の意欲がある。質の高い中間発表ができる。

#### 〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 テーマの調整  
論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 計画の確認  
論文作成の手順の確認
- 第 4 回 構成  
論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究 1  
先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究 2  
先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報 1  
書誌情報の分析

第 8 回 書誌情報 2

書誌情報の整理

第 9 回 論述方法 1

論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える

第 10 回 論述方法 2

論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）

第 11 回 論述方法 3

論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）

第 12 回 論述方法 4

論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）

第 13 回 論述方法 5

論証の方法としての客観的論述（定義づけ）

第 14 回 論述方法 6

論証の方法としての客観的論述（まとめ）

第 15 回 まとめ

中間発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

#### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

#### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

#### 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。

#### 〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究Ⅲ

280163E0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期集中

その他

ー

中里 郁子

### 【科目の教育目標 (Course Description)】

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

### 【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

### 【授業計画】

- 第 1 回 インTRODクシヨン  
修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 テーマの調整  
論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 計画の確認  
論文作成の手順の確認
- 第 4 回 構成  
論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究 1  
先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究 2  
先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報 1  
書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報 2  
書誌情報の整理
- 第 9 回 論述方法 1  
論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第 10 回 論述方法 2  
論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
- 第 11 回 論述方法 3  
論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
- 第 12 回 論述方法 4  
論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
- 第 13 回 論述方法 5  
論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
- 第 14 回 論述方法 6  
論証の方法としての客観的論述（まとめ）

## 第 15 回 まとめ

中間発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究Ⅲ

280163H0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 前期集中

その他

ー

必修

吉田 朋子

### 【科目の教育目標 (Course Description)】

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

### 【教育・学習の個別課題 (Course Objectives)】

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

### 【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現実的な執筆計画がた	自分の状況を客観的に把握して具	現実的な計画をたてている	自立的に無理なく進行

	てられていない	体的に目標設定できている		管理できている
知識・理解力	先行研究の分析が不十分である	先行研究を十分に収集できている	自分の研究を先行研究と関係づけることができる	自分の研究の意義を学問分野全体で説明できる
言語力	客観的な論述ができていない	客観的な論述が相当達成できている	ほぼ完全に客観的な論述ができています	客観的であるうえにわかりやすく効果的な論述ができています
思考・解決力	テーマについての考察が不十分である	テーマについて様々な観点から考察している	テーマについて発表などのアウトプットを行い、検討を深めている	テーマについてほかの研究者と専門的な議論ができる
共生・協働する力	研究内容についてほかの人に話したことがない	研究内容について発表し、質疑応答を行った経験がある	他の人の研究発表についても理解し質問することができる	他の研究者と学問的な議論をすることができる
創造・発信力	自分の研究の独自性を意識していない	自分の研究の独自性を挙げることができる	自分の研究の独自性・意義を学問的に解説できる	他の研究者に対して自分の独自性を主張することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン  
修士論文作成事始め：「特別研究I～II」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 テーマの調整  
論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 計画の確認  
論文作成の手順の確認
- 第 4 回 構成  
論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究 1  
先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究 2  
先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報 1  
書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報 2  
書誌情報の整理
- 第 9 回 論述方法 1  
論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える

- 第 10 回 論述方法 2  
論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
- 第 11 回 論述方法 3  
論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
- 第 12 回 論述方法 4  
論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
- 第 13 回 論述方法 5  
論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
- 第 14 回 論述方法 6  
論証の方法としての客観的論述（まとめ）
- 第 15 回 まとめ  
中間発表

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究Ⅲ

280163IOJ  
大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 前期集中  
その他  
一  
必修  
河野 有時

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
修士論文作成事始め：「特別研究Ⅰ～Ⅱ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 テーマの調整  
論文テーマの明確な設定
- 第 3 回 計画の確認  
論文作成の手順の確認
- 第 4 回 構成  
論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究 1  
先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究 2  
先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報 1  
書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報 2  
書誌情報の整理
- 第 9 回 論述方法 1  
論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第 10 回 論述方法 2  
論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
- 第 11 回 論述方法 3  
論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
- 第 12 回 論述方法 4  
論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
- 第 13 回 論述方法 5  
論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
- 第 14 回 論述方法 6

論証の方法としての客観的論述（まとめ）

## 第 15 回 まとめ

中間発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究Ⅲ

280163JOJ  
大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 前期  
水曜 3限  
一  
石川 裕之

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文の執筆を進め、必要な情報やデータをまとめて、中間発表を行う。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 論文の章段構成を決定し、執筆を開始する
2. 文献引用、フィールドワーク、インタビュー調査などについて計画する
3. 中間発表を行い、残された期間の研究計画について再確認する

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
修士論文作成事始め：「特別研究Ⅰ～Ⅱ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 テーマの調整  
論文テーマの明確な設定

- 第 3 回 計画の確認  
論文作成の手順の確認
- 第 4 回 構成  
論文構成の確認
- 第 5 回 先行研究 1  
先行研究の文献資料収集
- 第 6 回 先行研究 2  
先行研究の文献資料収集：先行研究と論文テーマの関連の確認
- 第 7 回 書誌情報 1  
書誌情報の分析
- 第 8 回 書誌情報 2  
書誌情報の整理
- 第 9 回 論述方法 1  
論文テーマに適合した論述方法とは：客観的論述を考える
- 第 10 回 論述方法 2  
論証の方法としての客観的論述（論文の目的の明確化）
- 第 11 回 論述方法 3  
論証の方法としての客観的論述（概念と定義の重要性）
- 第 12 回 論述方法 4  
論証の方法としての客観的論述（概念化の重要性）
- 第 13 回 論述方法 5  
論証の方法としての客観的論述（定義づけ）
- 第 14 回 論述方法 6  
論証の方法としての客観的論述（まとめ）
- 第 15 回 まとめ  
中間発表

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

論文執筆に必要な文献の収集と読解を行い、客観的論述の技術を学習する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

研究計画の達成状況および学期末に実施する中間発表（30分...口頭発表25分+質疑5分）の成績によって評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究Ⅳ

280164A0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

岩崎 れい

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
修士論文作成に向けて「特別研究Ⅰ～Ⅲ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 中間確認  
論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第 3 回 先行研究  
先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第 4 回 全体構成  
論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
- 第 5 回 章・節の構成  
論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
- 第 6 回 全体の流れの確認  
論文の論述と内容の確認（起承転結）
- 第 7 回 引用の確認  
論文の論述と内容の確認（引用の表示）
- 第 8 回 注記  
論文の論述と内容の確認（注の表示）
- 第 9 回 文献リスト  
論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
- 第 10 回 図表の確認  
論文の論述と内容の確認（図表の表示）
- 第 11 回 研究倫理  
論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
- 第 12 回 最終確認 1  
本論の文章・内容についての確認
- 第 13 回 最終確認 2  
序論・結論の文章・内容についての確認
- 第 14 回 最終確認 3  
書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
- 第 15 回 まとめ

## 成果発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

執筆の最終段階に入った論文を繰り返し確認しながら議論を精緻なものにする。論文の構成を含め、全体を点検して、論文を完成させる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究Ⅳ

280164B0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

鎌田 均

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション

修士論文作成に向けて「特別研究Ⅰ～Ⅲ」の学習内容を振り返る

第 2 回 中間確認

論文テーマとこれまでの論術内容の確認

第 3 回 先行研究

先行研究と論文テーマとの関連の再確認

第 4 回 全体構成

論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成)

第 5 回 章・節の構成

論文の論述と内容の確認 (章・節の構成)

第 6 回 全体の流れの確認

論文の論述と内容の確認 (起承転結)

第 7 回 引用の確認

論文の論述と内容の確認 (引用の表示)

第 8 回 注記

論文の論述と内容の確認 (注の表示)

第 9 回 文献リスト

論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献)

第 10 回 図表の確認

論文の論述と内容の確認 (図表の表示)

第 11 回 研究倫理

論文の論述と内容の確認 (剽窃等の有無)

第 12 回 最終確認 1

本論の文章・内容についての確認

第 13 回 最終確認 2

序論・結論の文章・内容についての確認

第 14 回 最終確認 3

書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化

第 15 回 まとめ

成果発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

執筆の最終段階に入った論文を繰り返し確認しながら議論を精緻なものにする。論文の構成を含め、全体を点検して、論文を完成させる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究Ⅳ

280164C0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

朱 鳳

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
修士論文の完成度	修士論文を完成できない。	文献調査、論文執筆に取り込んでいるが、修士論文の完成度が低い。	積極的に文献調査、論文執筆に取り込んで、一定レベルの修士論文が完成できる。	積極的に文献調査、論文執筆に取り込んで、質の高い修士論文が完成できる。

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン  
修士論文作成に向けて「特別研究Ⅰ～Ⅲ」の学習内容を振り返る
- 第 2 回 中間確認  
論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第 3 回 先行研究  
先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第 4 回 全体構成  
論文の論述と内容の確認 (論文全体の構成)
- 第 5 回 章・節の構成  
論文の論述と内容の確認 (章・節の構成)
- 第 6 回 全体の流れの確認  
論文の論述と内容の確認 (起承転結)
- 第 7 回 引用の確認  
論文の論述と内容の確認 (引用の表示)
- 第 8 回 注記  
論文の論述と内容の確認 (注の表示)
- 第 9 回 文献リスト  
論文の論述と内容の確認 (引用文献と参考文献)
- 第 10 回 図表の確認  
論文の論述と内容の確認 (図表の表示)
- 第 11 回 研究倫理  
論文の論述と内容の確認 (剽窃等の有無)
- 第 12 回 最終確認 1

本論の文章・内容についての確認

第 13 回 最終確認 2

序論・結論の文章・内容についての確認

第 14 回 最終確認 3

書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化

第 15 回 まとめ

成果発表

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

執筆の最終段階に入った論文を繰り返し確認しながら議論を精緻なものにする。論文の構成を含め、全体を点検して、論文を完成させる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

### 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

提出された論文に対し、主査および副査の計 3 名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

### 〔留意事項 (Other Information)〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究Ⅳ

280164E0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

中里 郁子

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 インTRODクシヨン

修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習内容を振り返る

第 2 回 中間確認  
論文テーマとこれまでの論術内容の確認

第 3 回 先行研究  
先行研究と論文テーマとの関連の再確認

第 4 回 全体構成  
論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）

第 5 回 章・節の構成  
論文の論述と内容の確認（章・節の構成）

第 6 回 全体の流れの確認  
論文の論述と内容の確認（起承転結）

第 7 回 引用の確認  
論文の論述と内容の確認（引用の表示）

第 8 回 注記  
論文の論述と内容の確認（注の表示）

第 9 回 文献リスト  
論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）

第 10 回 図表の確認  
論文の論述と内容の確認（図表の表示）

第 11 回 研究倫理  
論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）

第 12 回 最終確認 1  
本論の文章・内容についての確認

第 13 回 最終確認 2  
序論・結論の文章・内容についての確認

第 14 回 最終確認 3  
書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化

第 15 回 まとめ  
成果発表

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕  
各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕  
執筆の最終段階に入った論文を繰り返し確認しながら議論を精緻なものにする。論文の構成を含め、全体を点検して、論文を完成させる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕  
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕  
提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項（Other Information）〕  
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕  
担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

#### 特別研究IV

280164H0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

吉田 朋子

#### 〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

#### 〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

#### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	現実的な執筆計画がたてられていない	自分の状況を客観的に把握して具体的に目標設定している	体調管理も念頭に置いて現実的な計画をたてている	自立的に無理なく進捗管理できている
知識・理解力	調査が不十分である	先行研究・関連分野を十分に調査している	自分の研究を先行研究と関係づけることができている	自分の研究の意義を学問分野全体の中で説明できる
言語力	文章の推敲が不十分である	文章を十分に推敲している	指導を受け、論理的で読みやすい文章に仕上がっている	論文としての体裁も完全で、なおかつ
思考・解決力	論述について検討が不十分である	論述内容について十分に時間をかけて検討している	論述内容について発表や議論を通じて多面的に検討している	論述内容について他の研究者と学問的な議論ができる
共生・協働する力	研究内容について発表した経験がない	研究内容について発表し、質疑応答した経験がある	他の人の研究発表についても理解し質問をする	他の研究者と学問的な議論をすることができる

			ることがで きる	
<b>創造・発信 力</b>	自分の研究 の独自性を 意識してい ない	自分の研究 の独自性を 挙げるこ とができる	自分の研究 の独自性・ 意義を学問 的に解説で きる	他の研究者 に対して自 分の独自性 を主張でき る

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習  
内容を振り返る
- 第 2 回 中間確認  
論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第 3 回 先行研究  
先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第 4 回 全体構成  
論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
- 第 5 回 章・節の構成  
論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
- 第 6 回 全体の流れの確認  
論文の論述と内容の確認（起承転結）
- 第 7 回 引用の確認  
論文の論述と内容の確認（引用の表示）
- 第 8 回 注記  
論文の論述と内容の確認（注の表示）
- 第 9 回 文献リスト  
論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
- 第 10 回 図表の確認  
論文の論述と内容の確認（図表の表示）
- 第 11 回 研究倫理  
論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）
- 第 12 回 最終確認 1  
本論の文章・内容についての確認
- 第 13 回 最終確認 2  
序論・結論の文章・内容についての確認
- 第 14 回 最終確認 3  
書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化
- 第 15 回 まとめ  
成果発表

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

執筆の最終段階に入った論文を繰り返し確認しながら議論を精緻なものにする。論文の構成を含め、全体を点検して、論文を完成させる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

提出された論文に対し、主査および副査の計3名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項（Other Information）〕

授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究IV

280164I0J

大学院

人間文化研究科 > 人間文化専攻

2単位 後期集中

その他

一

必修

河野 有時

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する
2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する
3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション  
修士論文作成に向けて「特別研究I～III」の学習  
内容を振り返る
- 第 2 回 中間確認  
論文テーマとこれまでの論術内容の確認
- 第 3 回 先行研究  
先行研究と論文テーマとの関連の再確認
- 第 4 回 全体構成  
論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）
- 第 5 回 章・節の構成  
論文の論述と内容の確認（章・節の構成）
- 第 6 回 全体の流れの確認  
論文の論述と内容の確認（起承転結）
- 第 7 回 引用の確認  
論文の論述と内容の確認（引用の表示）
- 第 8 回 注記  
論文の論述と内容の確認（注の表示）
- 第 9 回 文献リスト  
論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）
- 第 10 回 図表の確認

論文の論述と内容の確認（図表の表示）

第 11 回 研究倫理  
論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）

第 12 回 最終確認 1  
本論の文章・内容についての確認

第 13 回 最終確認 2  
序論・結論の文章・内容についての確認

第 14 回 最終確認 3  
書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化

第 15 回 まとめ  
成果発表

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕  
各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕  
執筆の最終段階に入った論文を繰り返し確認しながら議論を精緻なものにする。論文の構成を含め、全体を点検して、論文を完成させる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕  
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕  
提出された論文に対し、主査および副査の計 3 名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項（Other Information）〕  
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕  
担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕  
授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference) 〕  
〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 特別研究Ⅳ

280164J0J  
大学院  
人間文化研究科 > 人間文化専攻  
2単位 後期  
火曜 3限  
ー  
石川 裕之

〔科目の教育目標（Course Description）〕  
修士論文を完成し、成果発表を行う。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕  
1. フォーマット、字句、章段構成、引用方法、書誌情報、図表・数値のデータ等、形式面の遺漏がないか留意する

2. 剽窃等、研究倫理上の問題がないか確認する

3. 修士論文を完成し、成果発表を行う

〔授業計画〕

第 1 回 イントロダクション  
修士論文作成に向けて「特別研究Ⅰ～Ⅲ」の学習内容を振り返る

第 2 回 中間確認  
論文テーマとこれまでの論術内容の確認

第 3 回 先行研究  
先行研究と論文テーマとの関連の再確認

第 4 回 全体構成  
論文の論述と内容の確認（論文全体の構成）

第 5 回 章・節の構成  
論文の論述と内容の確認（章・節の構成）

第 6 回 全体の流れの確認  
論文の論述と内容の確認（起承転結）

第 7 回 引用の確認  
論文の論述と内容の確認（引用の表示）

第 8 回 注記  
論文の論述と内容の確認（注の表示）

第 9 回 文献リスト  
論文の論述と内容の確認（引用文献と参考文献）

第 10 回 図表の確認  
論文の論述と内容の確認（図表の表示）

第 11 回 研究倫理  
論文の論述と内容の確認（剽窃等の有無）

第 12 回 最終確認 1  
本論の文章・内容についての確認

第 13 回 最終確認 2  
序論・結論の文章・内容についての確認

第 14 回 最終確認 3  
書誌情報の整理と論文フォーマットの適正化

第 15 回 まとめ  
成果発表

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕  
各指導教員から個別に指導を受ける。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕  
執筆の最終段階に入った論文を繰り返し確認しながら議論を精緻なものにする。論文の構成を含め、全体を点検して、論文を完成させる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕  
30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕  
提出された論文に対し、主査および副査の計 3 名による口頭試問を実施し、その判定をもとに、専攻会議にて最終評価を行なう。

〔留意事項（Other Information）〕  
授業で学外フィールドワークへ出かけることもある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

担当の教員の指示による。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業の中で随時紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 認知心理学特論

270016N0J  
大学院  
心理学研究科  
2単位 前期  
木曜2限  
菊野 雄一郎

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

人間の認知のメカニズムを科学的に分析し、その過程を理解するには、心理学のみならず、幅広い学問を含んだ学際的な研究に触れることが必要である。特に、認知神経科学の研究は以前は仮説構成体でしかなかった認知モジュールの神経基盤を解明しつつある。本特論では、認知心理学だけでなく、認知神経科学の最近の知見に触れ、現実場面における人間の認知のメカニズム (例えば、目撃記憶、認知の個人差等) についての理解を深めることを目標とする。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 認知過程の神経基盤についての理解
2. 知覚・記憶などの基礎的認知メカニズムについての理解
3. 言語・思考などの高次の認知過程についての理解

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	人の認知メカニズムに関する概念・知識を理解し、説明することができない。	人の認知メカニズムに関する概念・知識を理解し、説明することができる。	レベル2に加えて、その概念・知識の応用を理解し、説明することができる。	レベル3に加えて、その概念・知識を活用して問題解決をすることができる。

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 認知機構の神経基盤
- 第 3 回 視覚
- 第 4 回 聴覚
- 第 5 回 認知
- 第 6 回 記憶
- 第 7 回 学習
- 第 8 回 知識
- 第 9 回 言語
- 第 10 回 意識
- 第 11 回 感情
- 第 12 回 概念
- 第 13 回 意思決定
- 第 14 回 問題解決
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

主として演習形式で授業を進める。受講生にあらかじめ決められたテーマに関する国内外の文献を読んでもらい、議論を行う。授業中の発問に対して適宜口頭でフィードバックを行う。

### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

予習用の文献を指定するので、それを授業前に読んでおくことが求められる。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

45

### 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

テストは実施せず、授業参加度(100%)により評価を行う。

### 〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 心理統計学特論

270017N0J  
大学院  
心理学研究科  
2単位 後期  
金曜 5限  
森下 正修

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現代の多くの心理学研究は数量的研究です。研究テーマに沿った実験や調査をおこない、得られたデータを分析して、自説を検証するための材料を得ます。したがって、研究者は自分のデータにふさわしい統計手法を選び、使うことができなければなりません。これは、心理学の研究者だけでなく、実証データをカウンセリングに生かそうという臨床家や、生徒のデータなどから適切な教育評価をしようという教育者にとっても欠かせないスキルといえます。

本講義では、こうした統計手法の理論的背景を学ぶとともに、サンプルデータに対して実際にコンピュータで分析をおこないます。こうした実習を通じて、分析の手順や留意点に関して体験的に理解することをめざします。

統計ソフトとしては主にSPSSとJASPを使用しますが、分析に応じて他のソフトも随時取り上げて使い方を説明します。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

記述統計全般と、相関分析 (積率相関係数、順位相関係数)、t検定、1要因～3要因分散分析、度数データの分析といった推測統計、さらに多変量解析 (因子分析、重回帰分析、構造方程式モデリング、クラスター分析) について、理論的枠組を理解しコンピュータ上で実施する際の手順を身につけること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理統計に関する全体的理解	心理統計の基礎的な概念がわからない	心理統計で示される結果の意味がある程度わかる	心理統計の手法まで含めてある程度度のことわかる	自身や先行研究のデータに適した統計手法がわかる
統計前のデータ処理	実験・調査で得たローデータの処理がわからない	ローデータを統計ソフトに入力・管理することができる	ローデータを統計にかけられるようにある程度処理できる	ローデータを統計に適した形に処理しておくことができる
記述統計全般の知識・スキル	記述統計の意味がよくわからない	記述統計で示される結果がある程度わかる	記述統計の様々な指標の意味がわかる	自身のデータに対し必要な記述統計を実施できる
推測統計全般の知識・スキル	推測統計の意味がよくわからない	推測統計で示される結果がある程度わかる	推測統計の結果がきちんと理解できる	自身のデータに対し必要な推測統計を実施できる
多変量解析の知識・スキル	多変量解析の意味がよくわからない	多変量解析で示される結果がある程度わかる	多変量解析の結果がきちんと理解できる	自身の質的データに対し必要な多変量解析を実施できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、イントロダクション  
本講義の進め方、評価方法と、統計全般に関わる説明事項（2つの統計、統計的仮説検定、尺度、効果量など）について説明します
- 第 2 回 統計前の処理、SPSSの基本操作  
実験、調査データを得て統計に入る前に必要なデータ整理の基礎と、本講義で最もよく使用するSPSSの操作や機能全般について解説・実習します
- 第 3 回 記述統計  
度数分布、代表値、散布度、データの標準化に関して、概念も踏まえつつ統計の方法を実習します
- 第 4 回 相関分析① 積率相関係数  
ピアソンの積率相関係数と無相関検定について解説・実習します
- 第 5 回 相関分析② 順位相関係数、偏相関係数  
順位相関係数と偏相関係数について解説し、分析手順を実習します
- 第 6 回 t検定 対応のある場合、対応のない場合、1サンプルのt検定  
様々なケースでのt検定について解説・実習します。
- 第 7 回 分散分析① 1 要因分散分析（対応のある場合、ない場合）

- 1 要因の分散分析の流れを説明し、対応のある場合とない場合の分析手順を実習します
- 第 8 回 分散分析② 2 要因分散分析（分析の流れ）  
2 要因分散分析の考え方、分析の流れに関して解説し、分析手順を実習します
- 第 9 回 分散分析③ 3 要因分散分析  
3 要因分散分析について解説・実習します
- 第 10 回 度数データの分析  
度数データの分析のうち、基本となるカイ二乗検定とコクランのQ検定について解説・実習します
- 第 11 回 多変量解析  
多変量解析の基礎的な理論について説明します
- 第 12 回 探索的因子分析、主成分分析  
分類型の多変量解析である、探索的因子分析と主成分分析について解説・実習します
- 第 13 回 重回帰分析  
予測型の多変量解析である、重回帰分析について解説・実習します
- 第 14 回 構造方程式モデリング  
構造方程式モデリングによる、多変量データをもとにした分析について解説・実習します
- 第 15 回 クラスタ分析  
クラスタ分析による群分けについて解説・実習します

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

期末に、自身の研究計画に即した模擬データを作成し、それに対して必要な分析をおこない、レポートにまとめてもらいます。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

独自に作成した講義プリントを配布します。また、サンプルデータを配布し、その分析手順を実演するとともに、受講生にも自分でコンピュータ上での分析を実習してもらいます。

・レポートに対するフィードバック：メール提出されたレポートに対し、個別にコメントを返しますので、今後の参考にして下さい

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

自分が普段から読んでいる論文でどのような分析手法が使われているかを意識し、自分がその理論や手法をどの程度知っているかを確認しておいてください。また、自身の研究にとくに必要になりそうな手法を意識して受講してください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は授業参加度（30%）、レポート（70%）の比率とします。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]  
[参考URL(URL for Reference)]  
[実務経験のある教員による実践的科目]

## 特別研究

270153B0J  
大学院  
心理学研究科  
4単位 集中  
その他  
向山 泰代

### [科目の教育目標 (Course Description)]

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

### [教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

### [授業計画]

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

### [教育・学習の方法 (Course Methods)]

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

### [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

—

### [評価方法・評価基準 (Evaluation)]

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

### [留意事項 (Other Information)]

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

[参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]  
[参考URL(URL for Reference)]  
[実務経験のある教員による実践的科目]

## 特別研究

270153E0J  
大学院  
心理学研究科  
4単位 集中  
その他  
中藤 信哉

### [科目の教育目標 (Course Description)]

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

### [教育・学習の個別課題 (Course Objectives)]

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

### [授業計画]

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

[定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]

実施しない

### [教育・学習の方法 (Course Methods)]

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

### [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

[準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]

—

### [評価方法・評価基準 (Evaluation)]

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

### [留意事項 (Other Information)]

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

[テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理実践実習（学内）Ⅰ

270438NOJ

大学院

心理学研究科

5単位 前期集中

その他

鶴田 薫 福山 幸子 伊藤 一美 三好 智子 佐

藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中藤 信哉 空

間 美智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は、「心理相談の基本」と「心理相談の実践」の2つから成る。

「心理相談の基本」では、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の習得を目的とし、個人面接を軸とした心理相談を実施している学内実習施設「心理臨床センター」での業務を行う上での基本的事項を学ぶ。

その上で「心理相談の実践」として、心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。その際、心理臨床センターの運営（受付対応、インテーク面接への陪席、相談室やプレイルーム設えの整備など）に携わり、心理相談を行う上での基本的な事項を踏まえてそれらを実践する。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

「心理相談の基本」では、以下を課題とする。

- 1) 心理相談における基本的マナーやふるまいなどコミュニケーション技術を習得する。
- 2) 心理アセスメントの実施・運用に関する基本的知識を習得する。
- 3) 心理相談面接における基本的な応答技法を習得する。
- 4) 心理相談への来談者のニーズを知り、アセスメントやケース運営について学ぶ。
- 5) 地域支援を視野に、心理臨床センターの社会的位置づけを理解し、多職種連携および地域連携を視野にいたした社会的資源等に関する知識を習得する。
- 6) 心理相談を開始するための、受付・受理からインテーク面接、治療契約から面接開始までの一連の流れについて理解する。
- 7) 心理相談の運営を成り立たせるための治療構造の理解とその運用について理解する。
- 8) 心理的支援における公認心理師の職業倫理及び法的義務について学習・理解する。

また、「心理相談の実践」においては、本学附設の心理臨床センターの特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の習得

2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成

3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践

4. 多職種連携および地域連携の理解と実践

5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点を持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：空間・村松・向山・三好・佐藤・伊藤・中藤・鶴田・福山

（ケース担当については、各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

「心理相談の基本」として、大学に附設されている「心理臨床センター」におけるケース担当のための基本的事項を学

ぶため、実習担当教員および心理臨床センターの実習指導者のもと、前期・後期各30時間（60時間）の実習を行う。具体的には、受付業務などの相談室運営業務を実践したり、仮想事例等についてワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。実習内容は「実習記録ノート」に記載し、実習担当教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。課題に対するフィードバックの方法としては、実習中の発問に対し適宜口頭でフィードバックするとともに、「実習記録ノート」に個別にコメントして返却する。

また、「心理相談の実践」については、本学附設の心理臨床センターにおける「担当ケースに関わる実習」として、100時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。

1. インテーク面接に関する陪席・報告
2. ケース（心理相談）担当とそれに伴う準備・事後対応（記録など）
3. ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応（所見作成など）
4. 心理検査担当（フィードバック面接を含む）とそれに伴う準備・事後対応
5. 心理臨床センターカンファレンス等での発表
6. 担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席

実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理臨床センターのカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。

#### 〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

ケース運営に関する継続的な経験を通じて、社会常識的な知識やふるまい等について自分自身を振り返ったり、他の受講生の言動を見聞きしたりして、自身の課題を整理し、心理的支援の実践に必要な知識や態度について考えること。また、担当ケースに関わる実習においては、「心理相談の基本」での学びに基づき、社会常識的な知識やふるまいについて、教員・指導者や他の受講生とのディスカッションを通じて、自己省察し自身の課題を整理しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

50

#### 〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

実習課題の遂行（ディスカッションやワークへの参加度など）（70点）、その他提出物・実習ノートなど（30点）によって、総合的に評価する。

#### 〔留意事項（Other Information）〕

本科目での取り組み状況から、実習の進め方について個別に相談し、学習計画の見直しを行うことがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

## 心理実践実習（学内）Ⅱ

270439N0J

大学院

心理学研究科

4単位 前期集中

その他

鶴田 薫 福山 幸子 伊藤 一美 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中藤 信哉 空間 美智子

### 〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は「心理実践実習（学内）Ⅰ」の上に成り立ち、「心理相談の展開」と「心理相談の実践」の2つから成る。

「心理相談の展開」では、カンファレンスやケース検討会で、カウンセリング、心理療法、心理検査、心理臨床家としての基本的態度や倫理などについて指導を受ける。

「心理相談の実践」では、1年次に引き続き、心理的支援を実践するための基本的な事項を踏まえてより高度な知識と技能を修得し、本学附設の心理臨床センターの来談者に対し、受講者自身が心理相談や心理検査等の実践を行う。また、心理相談を成り立たせる受付対応やインテーク面接への陪席、センター内設えの整備などにも携わる。さらには、それまでの実践を踏まえ、自身が担当するケースについて、個々のクライアントへのより深い理解、また関係機関や他スタッフとの連携も視野に入れて支援計画を練ったり、実践と連動して個別のケースについての事例研究を深めていくことを目指す。

### 〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

「心理相談の展開」では、「心理実践実習（学内）Ⅰ」での体験学習を踏まえて、それらをさらに発展させることを目的として、以下を課題とする。

- 1) 心理相談における基本的マナーやふるまいなどコミュニケーション技術を習得する。
- 2) 心理アセスメントの実施・運用に関する基本的知識を習得する。
- 3) 心理相談面接における基本的な応答技法を習得する。
- 4) 心理相談への来談者のニーズを知り、アセスメントやケース運営について学ぶ。
- 5) 地域支援を視野に、心理臨床センターの社会的位置づけを理解し、多職種連携および地域連携を視野にいれた社会的資源等に関する知識を習得する。
- 6) 心理相談を開始するための、受付・受理からインテーク面接、治療契約から面接開始までの一連の流れについて理解する。
- 7) 心理相談の運営を成り立たせるための治療構造の理解とその運用について理解する。
- 8) 心理的支援における公認心理師の職業倫理及び法的義

務について学習・理解する。

また、「心理相談の実践」においては、本学附設の心理臨床センターの特徴および特殊性と関連づけて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の習得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチの理解と実践
4. 多職種連携および地域連携の理解と実践
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解  
〔ループリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：向山・三好・空間・村松・伊藤・佐藤・中藤・鶴田・福山

(ケース担当については、各実習生にスーパーバイザーを配置し、そのほか実習課題に応じて指導担当を調整する)  
〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

「心理相談の展開」として、大学に附設されている「心理臨床センター」での実践と連動して、担当ケースのより深い理解と実践、さらには事例研究法を学ぶため、実習担当教員および心理臨床センターの実習指導者のもと、45時間の実習を行う。具体的には、個別事例に関するケース検討会およびカンファレンス、より高度な実践に必要な知識や技術の習得のため、ワークやグループディスカッションを用いながらの検討等を行う。実習内容は「実習記録ノート」に記載し、実習担当教員や実習指導者（心理臨床センター専門相談員を含む）の指導を受ける。課題に対するフィードバックの方法としては、実習中の発問に対し適宜口頭でフィードバックするとともに、「実習記録ノート」に個別にコメントして返却する。

また、「心理相談の実践」については、本学附設の心理臨床センターにおける「担当ケースに関わる実習」として、80時間以上の実習を行う。具体的内容は以下のとおり。

1. インテーク面接に関する陪席・報告
2. ケース（心理相談）担当とそれに伴う準備・事後対応（記録など）
3. ケース担当に伴うスーパービジョンとそれに伴う準備・事後対応（所見作成など）
4. 心理検査担当（フィードバック面接を含む）とそれに伴う準備・事後対応
5. 心理臨床センターカンファレンス等での発表
6. 担当ケースに関する関係機関とのカンファレンス等への陪席

実践内容は「実習記録ノート」に記載、担当ケースについては心理臨床センターのカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習指導者および実習担当教員の指導を受けること。

フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心理臨床センターの運営に主体的に関わる中で、それぞれの事例について幅広い視点から理解する。インテーク陪席や事例検討会等の資料作成においては、事例に関連する文献を参照することで専門的知識を深めながら、担当する事例を振り返り、分りやすい報告となるよう準備すること。

センターが連携する他の専門機関に関する情報（沿革、理念、概要、利用者、スタッフの職種等）について、公開されている情報や学外実習での経験を共有しながら理解を深めておく。

担当ケースに関わる実習においては、M1での実践経験を踏まえ、社会常識的なふるまいや専門家としての倫理的態度が身につけているかを振り返り、心理支援における基本

的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行 (60点)、実習施設 (実習指導者) による評価 (15点)、実習担当教員による評価 (15点)、その他提出物・実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり。公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

## 心理学研究法特論

270015N0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期

金曜 5限

ー

60

森下 正修

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

現在、心理学の研究法には、実験、調査、検査や面接などがあります。手法は様々ですが、多くの研究に共通しているのは、科学的な態度です。すなわち、実証性や客観性をできる限りそなえ、過去の知見を統合的に説明し、なおかつ新しい成果を得ようとするのが、現代の心理学研究には必須です。

そうした研究を自分で行うためには、事前計画の段階で、自説の論理構成を検討することと、データの収集方法を最適化することが大事になります。たとえば実験室実験において、妨害となる要素を可能な限り排除し、適切な実験方法を考えるにはどうすればよいか。大学の授業やオンラインで調査を行う場合、妥当性と信頼性のあるデータをどのように集めればよいか。臨床場面においてクライアントを対象とした研究を行う際に、研究計画や倫理の面でどのようなことに気をつけなければいけないか。事前計画の段階でいろいろなことに気を配らねばなりません。

さらに、データを得た後では、自説と照らし合わせて検証を行い、論文等にまとめることも必要です。論理的で説得的な実証研究論文を執筆するには、こういった点に留意すべきでしょうか。

本講義では、これらの問題に共通する理論的、実践的な

ポイントについて、実際の研究・論文の例をもとに解説していきます。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文を見ずえて、心理学研究における実験・調査に必要な基礎的知識とスキルを身につけ、実験室での実験や、学校・教育現場、臨床場面での調査において活用できる研究計画を立てられるようになること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 ガイダンス、イントロダクション  
本講義の進め方、評価方法と、全体の内容について説明します
- 第 2 回 心理学研究における科学性と倫理  
心理学研究が科学研究としておこなわれるために必要とされる要素、および研究上の倫理を説明します
- 第 3 回 研究計画の基礎① 独立変数と従属変数  
研究計画上の根幹をなす 2 つの変数について解説します
- 第 4 回 研究計画の基礎② 参加者間計画と参加者内計画  
研究計画における参加者間計画と参加者内計画の違いを解説します
- 第 5 回 研究計画の基礎③ 統制  
参加者間、参加者内計画の場合に必要な剰余変数の統制について説明します
- 第 6 回 研究・統計の批判的検討① 統制の不備、論理的矛盾  
先行研究の方法上の不備や論理的な矛盾について検討しながら、自分の研究計画を考えるやり方について説明します
- 第 7 回 研究・統計の批判的検討② 構成要素の置換、新規要素の追加  
先行研究の構成要素を抽出し、その置換や追加を検討しながら、自分の研究計画を考えるやり方について説明します
- 第 8 回 クリティカル・リーディング

これまでに説明した批判的検討の姿勢をもとに、実際の論文を読む練習をします

- 第 9 回 研究論文の執筆法① 「問題」の構成  
研究論文の執筆に関し、まず「問題」をどのように構成していくのか、実例をもとにしながら解説します
- 第 10 回 研究論文の執筆法② 「方法」～「考察」の構成  
研究論文の執筆に関し、「方法」「結果」「考察」「引用文献」の項で必要となる要素について解説します
- 第 11 回 研究実践① 実験法  
実験研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。
- 第 12 回 研究実践② 質問紙調査法  
質問紙による調査研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。
- 第 13 回 研究実践③ 質的研究法  
面接や観察による質的研究を実施する際に具体的に留意すべき点について解説します。
- 第 14 回 レポート発表① 先行研究に対する批判的検討の報告  
出席者が自分の研究のベースとなる先行研究を批判的に検討した結果を発表してもらい、討議します
- 第 15 回 レポート発表② 先行研究に対する批判的検討についての評価  
出席者が自分の研究のベースとなる先行研究を批判的に検討した結果を発表してもらい、討議します

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

第14回、第15回にレポート発表があります。各自がクリティカルリーディングをおこなった結果を発表してもらい、その内容によって成績を評価します。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

独自に作成した講義プリントを配布します。実際の論文の読み方・まとめ方を指導するクリティカル・リーディングなどの実習も行います。

受講生の皆さんと対話しながら授業を進めていきます。

・レポート発表に対するフィードバック：その場で教員も含めて討論をしますので、今後の研究の参考にして下さい。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

自分自身の研究テーマに関し、どのような先行研究があるのか、わかっていないことは何か、どのような方法でそれを解明すればよいか、代表的な研究論文はどのような構成で書かれているかなどを普段から意識して学ぶようにしてください。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義内容を踏まえ、先行研究に対して批判的検討を加えたレポート発表を行ってまいります。評価の比率は、授業参加度 (30%)、レポート発表 (70%) です。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 発達心理学特論

270032N0J

大学院  
心理学研究科  
2単位 後期  
金曜 4限

ー

60

発達・学校心理学専攻は必修

高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

ピアジェ、ボウルビィ、ヴィゴツキーなどの発達の基本的理論、および昨今の重要な研究テーマについて紹介する。また、子どもを対象とした発達検査の成り立ちや方法について、学ぶ。そして、発達に問題が生じている子ども、障害のある子どもの発達過程や個人差について理解し、福祉や教育の現場でどのような支援を行うことができるか、考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

以下に示す個別課題をふまえて授業を進める。

- ・発達の基本的理論の今日的意義
- ・発達アセスメントの意義と実際
- ・発達に障害がある幼児・児童に対しての支援的関わり

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持たない。	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持っている。	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持ち、積極的に学んでいる。	発達心理学の理論を発達臨床に活かそうとする動機を持ち、さらに学びの成果を発達臨床に活かそうとしている。
知識・理解力	発達心理学の基礎知識・理解力がない。	発達心理学の基礎知識・理解力をわずかに	発達心理学の基礎知識・理解力	発達心理学の基礎知識・理解力

		持っている。	を持っている。	をかなり持っている。
言語力	発達心理学の課題について、言語化できない。	発達心理学の課題について、わずかに言語化できる。	発達心理学の課題について、言語化できる。	発達心理学の課題について、かなり言語化できる。
思考・解決力	実践研究の問題について考えることができない。	実践研究の問題について、わずかに考えることができる。	実践研究の問題について、考えることができる。	実践研究の問題について、かなり考えることができる。
共生・協働する力	発達心理学の知識と子どもとの関りを結びつけることができない。	発達心理学で学んだことを子どもとの関りに結び付けることがわずかに可能である。	発達心理学で学んだことを子どもとの関りに結び付けることが可能である。	発達心理学で学んだことを子どもとの関りに結び付けることがかなり可能である。
創造・発信力	文献をまとめ発表することができない。	文献をまとめ発表することが、ある程度できる。	文献をまとめ発表することが、十分できる。	文献をまとめ発表することが、かなり高いレベルでできる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 発達の要因の理解  
発達心理学の歴史と発達の要因の理解、および遺伝と環境の相互作用について
- 第 2 回 発達の障害の理解  
ダウン症、自閉症スペクトラム、ADHD、愛着障害など
- 第 3 回 社会性の発達  
精神分析理論とアタッチメント理論など
- 第 4 回 認知発達  
ピアジェの発達段階説
- 第 5 回 発達段階と発達検査の理解  
発達検査からみた発達段階のとらえ方について学ぶ。  
特にピアジェ理論と新版K式発達検査との関係について理解する。
- 第 6 回 発達検査のロールプレイ①  
発達検査のロールプレイを行い、検査方法のポイントを理解する。
- 第 7 回 発達検査のロールプレイ②  
発達アセスメントから、発達の多面的理解の方法について学ぶ。
- 第 8 回 知能の発達  
知能検査の歴史や知能の理論について学ぶ。
- 第 9 回 個体発生と系統発生

なぜ、どのようにして、進化の過程で、ヒトは、高度な道具を使用したり、言葉を獲得したりしてきたのか、辿っていく。

- 第 10 回 脳機能の発達  
個体発生の過程で、ヒトはどのようにして、脳機能を発達させてきたのか、辿っていく。
- 第 11 回 言語・思考の発達  
言語発達の要因やヴィゴツキーの理論について解説する。
- 第 12 回 発達支援の方法  
言語発達支援や、発達障害児を対象とした支援技法について、紹介する。
- 第 13 回 実践研究の発表①  
受講生による文献発表を通して、最新の臨床発達のトピックスを知る。
- 第 14 回 実践研究の発表②  
受講生による文献発表を通して、発達の理論と実践との関係について学ぶ。
- 第 15 回 実践研究の発表③  
受講生による文献発表を通して、発達支援の具体的な方法や支援を行う際の倫理的配慮について学ぶ。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

発達心理学の基本的理論、およびいくつかの重要な研究について、詳細に理解する。発達に障害のある場合の発達についても学び、支援の仕方について、事例を通して具体的に学ぶ。さらには、臨床発達の現場で行われているアセスメントについて、ロールプレイも導入して、理解する。また、各受講生には最低1回は、文献発表を行ってもらう。

課題レポートについてのフィードバックは、提出後に個別にフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

基礎的な発達理論について、復習をしておくこと。学部時代の学びが不十分であると感じた場合は、参考文献を紹介するので、その旨申し出てほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業中の文献発表を30%、課題レポートを70%として、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

順番は変わることがある。また受講生の数によって、研究発表の授業回数が変わることがある。発達検査のロールプレイは、導入する予定であるが、検査から、発達の過程を理解することが主な目的であるため、アセスメントに習熟するための実践的な訓練は、本授業内では行わない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

青年心理学特論

270034NOJ  
大学院  
心理学研究科  
2単位 後期  
火曜 3限  
ー  
60  
尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

青年期は、子どもから大人への移行期である。第二の誕生の時期ともいわれ、心身の両面において重要な変容を遂げる。

本科目では、青年期における心身の発達の諸相、発達課題、自己の形成と確立、対人関係（友人関係・恋愛関係）、適応・不適応、進路選択・進路意識などについて論じる。青年期は、自己が質的に変化し再構成される時期であり、自分自身が一つの課題となる時期であるので、自己に関わる諸問題についても考察する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 青年期の発達の諸相について理解を深める。
2. 青年期に生じる諸問題を考察する。
3. 現代青年における諸問題に関して理解を深める。
4. 青年期に関する各自の問題意識を啓発する。
5. 青年を対象とした研究法について理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についている。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	青年心理学の知識や研究法に関する知識が身につけていない。	ある程度、青年心理学の知識や研究法に関する知識を身につけている。	おおむね青年心理学の知識や研究法に関する知識を身につけている。	青年心理学の知識や研究法に関する知識を十分身につけている。

言語力	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が身につけていない。	ある程度、学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が身につけている。	おおむね学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が身につけている。	学んだ内容を自分の言葉で言語化したり、先行研究を適切に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が身につけていない。	ある程度、青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が身につけている。	おおむね青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が身につけている。	青年期に生じる諸問題について、心理学の知識や方法で解決したり考察したりする力が十分身につけている。
共生・協働する力	学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身につけていない。	ある程度、学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身につけている。	おおむね学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身につけている。	学習者とディスカッションしたり、協働しながら問題解決しようとするスキルが身につけている。
創造・発信力	学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力が身につけていない。	ある程度、学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力を身につけている。	おおむね学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力を身につけている。	学習したことを他者に説明したり、実生活に活かせる力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 青年期と現代青年における課題
- 第 2 回 青年期における身体と心およびジェンダー、セクシュアリティ
- 第 3 回 論文講読発表と討論（青年期における身体と心およびジェンダー、セクシュアリティに関して）
- 第 4 回 青年期における自己形成（自我の発達・アイデンティティ形成）
- 第 5 回 論文講読発表と討論（青年期における自己形成に関して）
- 第 6 回 青年期における対人関係①（親子関係）
- 第 7 回 青年期における対人関係②（友人関係・恋愛関係）
- 第 8 回 論文講読発表と討論（青年期における対人関係に関して）
- 第 9 回 青年期とメディアの関わり

- 第 10 回 論文講読発表と討論（青年期とメディアとの関わりに関して）  
 第 11 回 青年期における適応・不適応  
 第 12 回 論文講読発表と討論（青年期における適応・不適応に関して）  
 第 13 回 青年期における進路・キャリア選択  
 第 14 回 論文講読発表と討論（青年期における進路・キャリア選択に関して）  
 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 講義形式と演習形式（論文講読）を並行して授業を進める。
2. 講義では、教科書は使用せず、必要に応じてレジュメを配布する。
3. 演習（論文講読）では、受講者各自が専門論文を講読し、概要と考察を発表して討論を行う。
4. ただ知識を得るだけでなく、自分なりに問題意識をもって考察を深め、研究を発展させる態度が望まれる。
5. 授業中の発問に対する受講生の回答に対して、適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

manabaに掲載する資料に事前に目を通しておくこと。  
 発表に際しては、論文を精読し、発表用スライド（レジュメ）を作成すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

レポート（40%）、発表と討論参加（60%）を総合して評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 教育・心理検査特論

270054N0J  
 大学院  
 心理学研究科  
 2単位 前期集中  
 その他  
 ー  
 60  
 松島 るみ

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目では、臨床発達心理学的、心理・教育的アセスメントについて理解を深め、多様なアセスメントの方法を学ぶのと同時に、心理検査についての実施や採点、解釈や支援の方法について学ぶことを目的とする。また、発達の視点にもとづく支援について、フォーマルアセスメント（面接、行動観察、検査、成績など）および家庭環境や家族関係、人間関係などに見られるインフォーマルアセスメントを理解し、検査結果の支援への活用について学ぶ。心理検査は、人間の心的諸側面の個人差を測定するために作成された心理学的手法を用いた測定手段である。検査者は、心理検査を活用する明確な目的を持ち、使用する検査の実施方法や理論的な背景等を習得することが必要である。心理検査の中には、幼児・児童・生徒の発達に対する理解や学級づくり、教育相談等、教育活動を効果的に行うことを目的に開発されたものもある。この科目においては、心理検査や教育評価の理解を深めるとともに、臨床発達や学校教育場面で使用される心理検査の理解と基本的な技術の習得を目指す。なお、本科目は、臨床発達心理士指定科目の「臨床発達心理学の基礎に関する科目」の6、7、9を含む。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・臨床発達心理学的、心理・教育的アセスメントの目的や方法、アセスメントから支援の方法について理解すること。
- ・教育・心理検査や教育評価に関する基礎的な知識を習得すること。
- ・教育・心理検査の基本的な技術を習得すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的な学習態度が身についていない。	ある程度、自律的で積極的な学習態度を身につけている。	おおむね自律的で積極的な学習態度を身につけている。	自律的で積極的な学習態度を十分身につけている。
知識・理解力	心理・教育的アセスメントに関する知識や方法についていない。	ある程度、心理・教育的アセスメントに関する知識や方法について身につけている。	おおむね心理・教育的アセスメントに関する知識や方法について身につけている。	心理・教育的アセスメントに関する知識や方法について十分身につけている。

言語力	心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が身につけていない。	ある程度、心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が身につけている。	おおむね心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が身につけている。	心理アセスメントの結果について適切に言語化できる力が十分身につけている。
思考・解決力	分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルが身につけていない。	ある程度、分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルを身につけている。	おおむね分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルを身につけている。	分析結果にもとづき、考察したり、問題解決出来るスキルを十分身につけている。
共生・協働する力	学習者と協働しながら、問題解決しようとする力が身につけていない。	ある程度、学習者と協働しながら、問題解決しようとする力を身につけている。	おおむね学習者と協働しながら、問題解決しようとする力を十分身につけている。	学習者と協働しながら、問題解決しようとする力を十分身につけている。
創造・発信力	学習したことを自身の研究や実習に活せる力が身につけていない。	ある程度、学習したことを自身の研究や実習に活せる力を身につけている。	おおむね学習したことを自身の研究や実習に活せる力を身につけている。	学習したことを自身の研究や実習に活せる力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 臨床発達支援の基本的視点と心理・教育的アセスメント
- 第 2 回 臨床発達心理学および心理・教育的アセスメントの方法
- 第 3 回 心理検査の活用
- 第 4 回 学級・学校アセスメント
- 第 5 回 教育評価
- 第 6 回 個別知能検査(ウェクスラー式知能検査:WISC-IVを中心に)の概要/フォーマルアセスメントとインフォーマルアセスメント
- 第 7 回 VCI検査の実施方法
- 第 8 回 PRI検査実施の実施方法
- 第 9 回 WMI検査の実施方法
- 第 10 回 PSI検査の実施方法
- 第 11 回 WISC-IV結果の処理(基礎)および心理検査の統計基礎知識
- 第 12 回 WISC-IV結果の処理(応用)
- 第 13 回 支援活動の展開(検査結果による指導計画への発展)
- 第 14 回 その他の個別知能検査(K-ABC II等)の実施
- 第 15 回 その他の個別知能検査(K-ABC II等)の解釈

〔定期試験(Final Exam)または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法(Course Methods)〕

心理検査の実習を中心に、受講生による発表やディスカッションをしながら授業を進める。

〔準備学習の具体的な方法(Class Preparation)〕

・授業で扱う個別知能検査に関して発表に関して事前に概要を調べたり、知能検査の歴史や背景について自身で調べておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計)(Standard Prep Study hours(Total))〕

30

〔評価方法・評価基準(Evaluation)〕

発表やディスカッションへの参加状況から総合的に評価する。

〔留意事項(Other Information)〕

〔テキスト(Textbook)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学特論 I

270072N0J

大学院  
心理学研究科  
2単位 前期  
月曜 4限

60  
伊藤 一美

〔科目の教育目標(Course Description)〕

本科目は、臨床心理学的な人間理解について、パラダイムという観点から整理しつつ、心理学全般や対人援助における心理臨床の位置づけについて学ぶことを目的とする。それに加えて、臨床心理学的な研究方法と倫理についても学ぶ。

〔教育・学習の個別課題(Course Objectives)〕

(1) こころの問題における「異常」とは何かについて理解と想像力を習得する。

(2) 臨床心理学的なアセスメントについて、さまざまな立場や視点を学ぶ。

(3) 臨床心理学的介入について、数多い心理療法の技法を「パラダイム」という観点からまとめ直し、その共通点や相違点を理解する。

(4) 臨床心理学的な研究方法とそれに伴う倫理的問題について学ぶ。

(5) 自身の臨床心理に関する実習体験と本科目で学んだ理論や知見との関連を実感をもって学ぶ。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	課題に必要な知識を理解できない	課題に必要な知識を理解できる	?課題に必要な知識を理解し、問題意識をもって課題に取り組む	?課題に必要な知識を理解し、積極的に問題意識と批判的視点を持って課題に取り組む
言語・思考・解決力	課題に取り組まない	課題に取り組む、考えを表現する	課題に取り組む、自分の考えを練り、表現する	課題に対して自分の考えに他者の多様な考えも取り入れながら問題解決する
創造・発信力	課題に取り組まない	課題に取り組む、発信する	課題に取り組む、自分の考えに他者の多様な考えを取り入れる	自分の考えに他者の多様な考えを取り入れ、さらに創造的発想で発信する

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 異常とはなにか
- 第 3 回 臨床心理学的アセスメントの考え方
- 第 4 回 臨床心理学的介入（1）人間学・実存主義パラダイム
- 第 5 回 臨床心理学的介入（2）精神分析的パラダイム
- 第 6 回 臨床心理学的介入（3）学習理論パラダイム
- 第 7 回 臨床心理学的介入（4）認知理論パラダイム
- 第 8 回 臨床心理学的介入（5）生物学パラダイム
- 第 9 回 臨床心理学的介入（6）集団への介入
- 第 10 回 臨床心理学的介入（7）コミュニティ心理学
- 第 11 回 臨床心理学的介入（8）統合的アプローチ
- 第 12 回 臨床心理学における研究方法
- 第 13 回 臨床心理学研究における倫理の問題
- 第 14 回 各自の心理臨床実践から考える
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

期末レポート課題を実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

上記参考文献や授業中に指定するテキストを用いての講義と、受講生が分担しての発表によって構成する。

講義・発表いずれにおいても、できるだけ討論を重視する。授業中の発表やディスカッションについては、適宜口頭でフィードバックを行う。期末レポート課題については、後日コメントおよび適宜口頭でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

指定テキストのみならず、心理療法の各種理論について、日ごろから文献で学び、加えて「臨床心理基礎実習Ⅰ」での事例検討会での内容と照らし合わせての省察を常に怠らないこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

分担発表や討論を含む授業参加度（80%）、期末レポート課題（20%）から総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『テキスト臨床心理学1「理論と方法」』/デビソンG.C.ほか/誠信書房/2007/4414413419

『テキスト臨床心理学2「研究と倫理」』/デビソンG.C.ほか/誠信書房/2007/4414413427

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫／臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

心理療法特論

270073N0J

大学院

心理学研究科

2単位 集中

その他

—

60

杉原 保史

〔科目の教育目標（Course Description）〕

心理療法の入門書は、主要な学派の概要のバラバラで並列的な記述であるか、いずれか1つの学派についての体系的な記述であるか、そのいずれかであることが多い。そこでは入門者はいずれか1つの学派を選択し、もっぱら排他的にその学派を学んでいくことが暗黙の前提となっている。この講義は、この前提に挑戦するものである。受講生が、異なる様々の学派間の隠れた共通性や両立可能性についての認識を深めること、ならびに、実践の中で複数の学派の知恵を調和的に活用できるための準備性を整えること、を目標とする。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

心理療法が多くの学派によって成り立っていることを理解し考察する／学派というものが持つ機能や性質について検討する／学派についての自らの姿勢を振り返る／学派を超えて共通する治療要因について学ぶ／統合的なアプローチについて理論的に学ぶ／ロールプレイなどの実習を行い体験的に学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	心理療法統合について知識がない	心理療法統合について部分的な知識がある	心理療法統合について基本的な知識がある	心理療法統合について基本的な知識を体系的に用いる
思考・解決力	心理療法について統合的な視点から考えることができない	心理療法についての考えに統合的な視点からの影響が少しは認められる	心理療法についての考えに統合的な視点からの影響が明確に見られる	心理療法について統合的な視点から考えることができる
共生・協働する力	グループ活動やロールプレイングの場面で協働的な作業ができない	グループ活動やロールプレイングの場面で受け身のながら協働作業ができる	グループ活動やロールプレイングの場面で積極的に協働作業ができる	グループ活動やロールプレイングの場面でリーダーシップをとって協働作業を促進できる
創造・発信力	心理療法統合について自分の言葉で意見を述べるができない	心理療法統合について素朴な感想を述べるができる	心理療法統合について自分の言葉で意見を述べるができる	心理療法統合について独創的な意見を述べるができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 統合的アプローチとは  
統合的アプローチの大枠について学ぶ。
- 第 2 回 学派とは何か  
統合的アプローチとは学派の統合を推し進める立場である。統合の基礎にある学派とは何なのかを理解する。
- 第 3 回 学派を超えて共通する治療要因  
どのような学派に基づく実践を行うセラピストでも、有能なセラピストが面接で行うことには共通するところがある。共通要因と呼ばれるそうした治療要素について学ぶ。
- 第 4 回 カウンセラーの話の聴き方について  
どのような学派のセラピストも、クライアントの話の共感的に受容的に傾聴するスキルは必要である。学派を超えて共通の治療スキルとしての傾聴スキルについて学ぶ。
- 第 5 回 カウンセリングのデモンストレーション  
傾聴スキルについて、単に知的に学ぶだけでなく、教員のデモンストレーション（実演）を見ることによって、モデル学習を推進する。
- 第 6 回 循環的心理力動論（概論）  
ポール・ワクテルの循環的心理力動論について概説する。
- 第 7 回 エクスపోージャーについて

ポール・ワクテルの循環的心理力動論で重視されているエクスపోージャーの技術とその適用について学ぶ。

- 第 8 回 トゥー・パーソンの視点  
ポールワクテルの循環的心理力動論で重視されているトゥー・パーソンの視点について学ぶ
- 第 9 回 ロールプレイ実習（実技）  
ロールプレイを通して体験的に学びを深める。
- 第 10 回 ロールプレイ実習（振り返り）  
ロールプレイを振り返り、多面的に討議することを通して、実践的な学びを深める。
- 第 11 回 感情体験を深める技術の理解  
感情に焦点づけ、感情を深めるための話の聴き方の基礎技術、スローダウン、トラッキング、アチューンメントといった技術について学ぶ
- 第 12 回 肯定的なものに焦点を当てる技術の実習  
アファメーション、自己開示などによって、クライアントを肯定・承認する技術について学ぶ
- 第 13 回 カウンセラーの言葉の技術（概説）  
どのような学派の実践をするにせよ、言葉を治療的に用いるスキルは必須である。言葉の技術の必要性と治療的意義について概説する。
- 第 14 回 カウンセラーの言葉の技術（さまざまな工夫）  
カウンセラーがクライアントに効果的に治療的メッセージを届けるための言葉の工夫について例を挙げながら紹介する。
- 第 15 回 カウンセラーの言葉の技術（集団的討議）  
臨床場面のいくつかの例を取り上げ、そこでどのようにクライアントに言葉をかけるかについて、グループ討議によって検討し、言葉の技術についての実践的な理解を深める。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義、論文やテキストの講読、質疑、討議、実習。レポート課題に対するフィードバックは、採点后、電子メール等により行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

テキストの購読、配布資料の精読。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

10

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、質疑や討議や実習への参加の様子を50%、レポートを50%として行う。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『技芸としてのカウンセリング入門』/杉原保史/創元社/2012/4422115464/学内販売予定

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心理療法統合ハンドブック』/杉原・福島編著/誠信書房/9784414416787

『心理療法の統合を求めて』/ワクテルP/金剛出版/2002/477240726X

『心理療法家の言葉の技術』/ワクテルP/金剛出版/2004/4772408290

『説得と治療』/フランクとフランク/金剛出版/2007/4772409912

『統合的アプローチによる心理援助』/杉原保史/金剛出版/2009/4772410694

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

臨床心理士として、大学での心理的支援（学生相談）の勤務経験あり。その他にも、精神病院での臨床心理士としての（嘱託）勤務経験あり。

## 臨床心理面接特論Ⅱ

270075N0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期

金曜 2限

ー

60

空間 美智子

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理臨床実践は理論のみでは成り立たず、体験を通して実際の関わり姿勢を身につけることが求められる。これらを身につける過程では、自分自身のものとのとらえ方、感じ方、反応の仕方等について理解すること、そして、それぞれに異なる特性を備えた個々が、自らの実感をさぐり、それと慎重に照らし合わせながら、自らに適した「いまここ」における関わり方を探求することが大切である。「臨床心理面接特論Ⅱ」では、「臨床心理面接特論Ⅰ」に引き続き、文献の講読やディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。クライアントと治療者の関係性構築のあり方について、実習を通して体験的理解を深める。また、臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 事例論文や面接技法について述べた文献を講読し、それに関するディスカッションを通して、臨床心理面接における基本姿勢について理解する。
- (2) 傾聴や共感的理解といった臨床心理面接における基本姿勢や、クライアントと治療者の関係性構築のあり方について、体験的理解を深める。
- (3) 臨床心理面接で用いられる具体的な技法について、体験的に学ぶ。

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 面接に関わる文献講読（面接技法の歴史と理論）
- 第 3 回 ロールプレイと振り返り（面接技法の歴史と理論）
- 第 4 回 面接に関わる文献講読（面接の基本姿勢）
- 第 5 回 ロールプレイと振り返り（面接の基本姿勢）
- 第 6 回 面接に関わる文献講読（傾聴、関係性構築）
- 第 7 回 ロールプレイと振り返り（傾聴、関係性構築）
- 第 8 回 面接に関わる文献講読（アセスメントとフィードバック）
- 第 9 回 ロールプレイと振り返り（アセスメントとフィードバック）
- 第 10 回 技法の実習（機能的アセスメント）
- 第 11 回 技法の実習（セルフモニタリング）
- 第 12 回 技法の実習（動機づけ面接）
- 第 13 回 技法の実習（社会的スキル訓練：個人）
- 第 14 回 技法の実習（社会的スキル訓練：集団）
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

- (1) 事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読の上、ディスカッションを行う（使用する文献については、授業時間中に指示する）。
- (2) 体験実習では、体験の後にディスカッションを行い、各自振り返りのレポートを作成する。
- (3) 授業中の発問に対して適宜口頭でフィードバックする。
- (4) レポートには適宜個別にコメントし、その講評や解説を授業中に行う。さらに、解説や参考資料をmanabaで公開する。

### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

- (1) 事例論文や文献の講読については、各自指定の文献を事前に熟読し、ディスカッションしたい点を明確にしておく。
- (2) 臨床心理面接で用いられる技法の基盤となる、心理学

の各領域の理論を説明できるよう、これまでに習得した専門的知識を復習しておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

体験実習や発表、ディスカッションにおける準備や取り組みの姿勢(70%)、レポートの内容(30%)から、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫(臨床心理士として教育、医療機関での勤務経験あり)。

児童精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開b)

270103NOJ

大学院

心理学研究科

2単位 後期

水曜 6限

ー

60

久保田 泰考

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

児童精神医学領域の主要な精神疾患について学び、思春期の精神病理についても広く学習する。精神科医としての実務経験をもとに臨床的な観点を解説するほか、さらに神経科学の知識も必要に応じて講義し、神経科学と精神分析の双方向的視野に立脚するニューロサイコアナリシスの観点から、精神・神経発達障害の実像を理解することを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

古典的な精神病理学：神経症・精神病概念の整理

子どもの神経症・不安障害：精神分析理論と社会・情動発達モデルの関連

脳の発達と精神障害：OCD、AD/HD、トゥレット障害などの神経学的基盤

子どもの精神疾患：うつ病、統合失調症、双極性障害

自閉スペクトラム症：自閉症、アスペルガー症候群、特定不能型

子どもの精神療法：精神分析モデル、トラウマ論、無意識の概念化

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力	うつをはじめとする精神障害について基本的な病像を説明できる	子どものうつなどの精神障害について、大人の病像との違いを説明できる	臨床的なマテリアルについて、子どものうつなどの精神障害の概念を活用して議論することができる	子どものうつなどの精神障害の概念形成についての社会的・歴史的影響・制約を理解し、今日の社会環境において子どものうつがどのように捉えられているかを多面的、批判的観点から理解することができる。
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション：児童精神医学とはどんな学問か
- 第 2 回 神経症 1：古典的な神経症論、精神病圏との病態水準の違い、今日の診断基準について
- 第 3 回 神経症 2：愛着理論から神経症概念を見直す、社会・情動アセスメントの考え方と実際
- 第 4 回 精神病論：統合失調症の精神病理、自閉症との関係
- 第 5 回 症例検討 1：面接法による思春期・青年期の危機のアセスメント
- 第 6 回 自閉スペクトラム症：自閉症の概念、自閉スペクトラム症 (ASD) について
- 第 7 回 症例検討 2：ASDの社会・情動発達の支援、ケース報告とフィードバックのすすめ方
- 第 8 回 感情障害：うつ病、躁うつ病、児童における特性
- 第 9 回 PTSD：トラウマへの対応、社会・情動発達の観点からの具体的支援のすすめ方
- 第 10 回 強迫性障害：強迫性障害、トゥレット症候群、その他児童における関連障害について
- 第 11 回 境界型パーソナリティ障害：ボーダーラインの概念、治療について
- 第 12 回 臨床精神薬理：児童精神医学における薬物療法の理論・実際
- 第 13 回 臨床心理学 (4) 学校における児童生徒の問題

第 14 回 臨床心理学（5）心理臨床などの専門家と専門機関

第 15 回 症例検討 3：関係の障害、情動の失調への介入の考え方、特に古典症例から学ぶ（関係性の病理と支援）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

レポート課題を実施する。

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

Covid-19パンデミックの影響を鑑み、オンライン授業ブレンド型とします。オンライン授業は偶数回の授業、奇数回の授業は対面方式の予定で、感染状況に応じて変更する。短時間のライブとオンデマンドをミックスする。毎回PDF形式資料を配布し、動画リンクを提供する予定であり、オンデマンド部分のみ受講でも後からのフィードバックに応答することで十分履修が可能となるように配慮する。症例検討も必要に応じて行う。課題レポートに対するフィードバックは、授業中に解説する他、個別にWebシステムを通じて行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

日常生活から生まれる人間の精神活動についての素朴な疑問、あるいは実習などの活動から生じた臨床的な問題意識を折に触れて整理しておくことが求められる。特に専門的な知識の予習は全く必要ない。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加度、特に積極的な質問や問題提起（30%）、レポート2回（70%）に基づいて総合的に行う。

〔留意事項（Other Information）〕

映画や小説、マンガなどで精神障害を扱った作品を各自積極的に鑑賞しておくことが求められます。『ニューロラカン: 脳とフロイトの無意識のリアル』でもいくつかの作品を取り上げているので参考にしてください。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ニューロサイコアナリシスへの招待』/岸本寛史編/誠信書房/2015/9784414400984

『ニューロラカン: 脳とフロイトの無意識のリアル』/久保田泰考/誠信書房/2017/9784414416305

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

〈実践的科目〉 精神科医師および臨床心理士として医療機関、専門相談施設での勤務経験あり。

## 臨床心理学特論 II

270108NOJ  
大学院  
心理学研究科  
2単位 後期  
火曜2限  
ー  
60  
佐藤 睦子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

この講義は、臨床心理学特論 I の講義を踏まえて、臨床心理学をより深く学ぶことを目標とする。また、各論としての様々な理論、心理治療で用いられる各種技法、地域連携など、心理職として現場で生きる知識を得ることも目標である。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ① 心理治療を行うための臨床心理学的理論を広く学ぶ
- ② 心理治療のプロセスにおいて生じる意識的・無意識的な心理力動を理解する
- ③ 心理治療で用いる技法について理論と実践を通じて学ぶ
- ④ 心理職の地域連携について学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	課題に取り組む意欲がない	課題に取り組む	意欲的に課題に取り組む	将来の目標のために自らの課題を見つけて取り組む
知識・理解力	準備学習を行わない	準備学習を行う	意欲的に準備学習を行う	専門家となるために必要な準備学習も行う
言語力	自分の意見を表明しない	自分の意見を表明する	意欲的に自分の意見を表明する	心理職を目指すために自分の意見を伝える方法を考える
思考・解決力	課題を提出しない	課題を提出する	意欲的に課題を提出する	将来の研究を考え、そのために必要な課題を見つける
共生・協働する力	ディスカッションを行わない	ディスカッションに参加する	意欲的にディスカッションに参加する	心理職として、どのように意見を伝えたら良いのか考える

創造・発信力	発表しない	発表する	意欲的に発表する	専門家として理解しやすい発表の工夫をする
--------	-------	------	----------	----------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション  
そもそも臨床心理学とはどのような学問であるか考える
- 第 2 回 無意識の発見  
フロイトの精神分析を学ぶ
- 第 3 回 無意識の応用  
ユングの分析心理学を学ぶ
- 第 4 回 防衛機制  
アンナフロイトの理論を学ぶ
- 第 5 回 対象関係論  
メラニークラインを中心に理論を学ぶ
- 第 6 回 クライアント中心療法  
ロジャースの理論を学ぶ
- 第 7 回 フォーカシングとゲシュタルト  
ジェンドリンとパールズを中心に理論を学ぶ
- 第 8 回 認知行動療法  
エリスとベックを中心に理論を学ぶ
- 第 9 回 遊戯療法  
アクスラインの理論を学ぶ。担当事例があれば、検討を行うこともある。
- 第 10 回 箱庭療法  
実際の事例を提示しつつ、実践につながる理論を学ぶ
- 第 11 回 芸術療法  
言語を用いない技法とその表現の解釈について学ぶ
- 第 12 回 心理職の役割①  
医療現場、産業現場での心理職のあり方を学ぶ
- 第 13 回 心理職の役割②  
教育現場、福祉現場、司法現場での心理職のあり方を学ぶ
- 第 14 回 心理職と地域連携  
心理職の地域連携について、現場の状況を学ぶ
- 第 15 回 まとめ  
これまで学んだ知識を振り返る

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

配布する資料を用いての講義と受講生の分担発表により構成される。

講義・発表のどちらにおいても受講生相互の討論を重視する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

初回オリエンテーション時に、それぞれの講義に対応した文献を提示する。講義までに読了の上、レポートを提出すること。理論を実践に活かすための方法を日々模索すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

分担発表や討論を含む授業参加度、期末レポート課題から総合的に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

感染症の蔓延状況を見て、オンライン授業となる可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

臨床心理学特論Ⅱなどの科目について

実務経験等：公認心理師・臨床心理士として精神科クリニックでの勤務経験あり。

臨床心理査定演習Ⅱ

270120N0J  
大学院  
心理学研究科  
2単位 後期  
火曜 5限  
ー  
60  
薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理臨床現場でアセスメントツールとして活用されている心理検査の理論と方法を学ぶ。また、演習により検査の実施および結果の解釈について議論し、公認心理師等の心理専門職が行う相談・助言・指導等の支援に活用する観点を実践的に学ぶ。主に発達検査、知能検査、心理・教育アセスメントなど発達・教育支援に必要な検査についての演習を行うが、それとともに、テスト倫理や情報の扱い方についても理解を深める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 各種検査についての理論と方法について理解する。
- (2) テスト倫理や検査における配慮・留意すべきことを理解する。
- (3) 検査結果の解釈および活用の方法を実践的に学ぶ。
- (4) 検査結果を相談、助言、指導に活用する心理専門職としての役割や意義を理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
----	-------------	------	------	------

自分を育てる力	事前事後の学習を踏まえて、演習に参加できていない。	事前準備、事後課題への取組ができていない。	演習で取り組む検査について、自主学習でマニュアルや実施における留意点を学習したうえで授業に臨んでいる。	アセスメントにおいて、主体学習による研鑽が、対象者に有益となる意味について、理解できる。
知識・理解力	心理アセスメントに関する用語、基礎知識が身につけていない。	心理アセスメントに関する用語、基礎知識が身につけ、アセスメントの意義が理解できている。また、学習する検査を一通り実施できる。	心理アセスメントの種類、基本となる理論の理解を有し、実施した検査結果の解釈ができる。また対象に合わせたテストバッテリーが必要なことを理解できる。	対象に合わせたテストバッテリーを考え、アセスメントを組み立てることができる。実施した検査について適切な解釈および支援助言に基づく所見作成ができる。
思考・解決力	演習で取り組む検査について、基本理論を理解できていない。	演習で取り組む検査に関する、基本理論にや多面的な分析に基づき、検査結果を読む必要があることを理解できる。	演習で取り組む検査に関する、文献や事例により、結果の読み方や解釈、支援について情報収集ができる。	演習で取り組む検査やそれ以外の検査についての情報収集をし、有機的にそれらを活用してアセスメントのあり方を理解できる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 生涯発達における支援の意義と使用されるアセスメントツールの概説
- 第 2 回 知能検査（1）ビネー検査の概説
- 第 3 回 知能検査（2）WISC知能検査（実施）
- 第 4 回 知能検査（3）WISC知能検査（結果解釈と所見の書き方）
- 第 5 回 知能検査（4）WISC知能検査（事例検討）
- 第 6 回 心理・教育アセスメント（1）KABC II の概説
- 第 7 回 心理・教育アセスメント（2）KABC II（事例の結果解釈）
- 第 8 回 心理・教育アセスメント（3）KABC II（検査バッテリーと支援）
- 第 9 回 発達・教育支援に活用される検査バッテリーの概説と事例検討
- 第 10 回 発達理論と発達検査の概説
- 第 11 回 発達検査（1）新版K式発達検査（項目の概説とデモンストレーション）

第 12 回 発達検査（2）新版K式発達検査（実施とスコアリングの方法）

第 13 回 発達検査（3）新版K式発達検査（結果解釈と所見の書き方）

第 14 回 （4）新版K式発達検査（事例検討）

第 15 回 テスト倫理と結果の活用まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

理論の学習と検査の実践的学習を組み合わせた演習形式で実施する。事前学習で各検査の成り立ちや理論についてまとめて発表する。その後、受講生同士で実施し、スコアリングを体験する。また、結果の読み方・解釈を学び、仮想事例の結果についてディスカッションを行う。必要なテストバッテリーについても検討し、相談、助言、支援に活用できるように所見にまとめる。期末レポートでは、検査結果の所見をまとめることを課題とする。課題については、添削・講評とともにフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

検査の背景にある理論は、検査実施者として必須の知識である。また、心理検査の実施マニュアルに書かれている手続等も、各自で事前学習をして臨むこと。

検査実施後のスコアリングについては、次の講時までには終えているように復習しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

検査に関する理論等の事前学習発表（30%）、ディスカッション内容・参加度（30%）、報告書作成課題（40%）

〔留意事項（Other Information）〕

受講生の理解度等によって、実施内容を変更することがある。また、状況に応じて、遠隔授業を行うこともある。心理検査については、実施方法や解釈の「講義」を受けるだけでは十分に身につくとは言えない。検査項目が意味すること（理論）と対象者のニーズや状態像とを、主体的に結びつけて考える姿勢が必要になるため、ヒトの発達過程や障害・疾病の特性なども積極的に学習しておくことが望ましい。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

なし

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業で適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関、教育機関で臨床心理士としての勤務経験あり。

## 臨床心理基礎実習Ⅰ

270133N0J  
 大学院  
 心理学研究科  
 1単位 前期  
 木曜3限 木曜4限  
 ー  
 15  
 (週4時間+外部実習)  
 伊藤 一美 佐藤 睦子 村松 朋子 中藤 信哉 空  
 間 美智子

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、本学付設の心理臨床センターにおいて教員が行うインターク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、本実習内で行われるケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1)インターク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。
- (2)ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。
- (3)本学付設の心理臨床センターにおいて、さまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。
- (4)期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。

思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	臨床心理士の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

### 〔授業計画〕

第1回目にオリエンテーション、第15回目に期末試験を含む。それ以外の内容は、授業中に指示する。

各回の担当者 前半1 講時目:中藤、伊藤、佐藤、空間、村松  
 後半2 講時目:中藤、伊藤

### 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本学付設の心理臨床センターにおける担当事例に関するケース検討会や新規の受理ケースに関する発表や参加、それに基づきカンファレンス・ディスカッションを行い、内容についての報告・検討を行う。また、ケースを担当する上で必要となる知識や技能などについての実践実習を行う。なお、ケースカンファレンスは、臨床心理学専攻教員のうち心理臨床センターの相談員を兼任する教員および心理臨床センタースタッフ全員が参加して行う。フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で適宜口頭によりなされる。

### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心理臨床センターのシステムについて慣れ、自身もその運営に関わる中で、どのように事例が抱えられているのかを理解すること。そのうえで、周辺の知識を習得し、またよりわかりやすく簡潔なプレゼンテーションとなるように準備をすること。

### 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

### 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ケース検討会への出席および授業内の提出課題40%、発表や討論参加40%・期末の記述課題20%を目安に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

本学付設の心理臨床センターにおける実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理臨床センターの開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり。公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

臨床心理基礎実習 II

270134NOJ

大学院

心理学研究科

1単位 後期

木曜 3限 木曜 4限

ー

15

(週4時間+外部実習)

伊藤 一美 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理臨床の場で来談者に接する際、状態像を把握してその病態水準を推測し、その上で予後を見通し、どのような援助が可能であるか検討することが必要である。受講生は、「臨床心理基礎実習 I」での体験学習を踏まえ、本学付設の心理臨床センターにおいて教員が行うインテーク面接に陪席して記録を担当し、初回面接のあり方について学ぶ。また、ケースカンファレンスに参加することによって、情報の検討方法や相談方針の確立など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学んでいく。これらの体験学習を積んだうえで、本学付設の心理臨床センターにおいて電話受付を行ったり、実際の事例を担当してゆくことになる。また、臨床心理士資格のみを目指す学生は、この科目において学外施設での実習を通じて実際の現場において実践的な心理臨床的関わりや援助について経験的に学ぶ。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)インテーク面接の陪席とその記録を担当することを通して、初回面接のあり方や見立て・面接方針の立て方について学ぶ。

(2)ケース検討会と小グループでの討論、小レポート作成などの実習を通して、情報の検討や相談方針の確立、面接技法の理解など、事例を扱っていく上での基本的な事柄について学ぶ。

(3)本学付設の心理臨床センター、学外の実習先において、さまざまな臨床経験を積み、実践的な感覚を養う。

(4)期末におけるまとめの試験において、自分の学んだことをまとめる力を培う。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	臨床心理士の職業倫理を理解できず、不適切なふるまいが見られる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

第1回目にオリエンテーション、第15回目に期末試験を含む。それ以外の内容は、授業中に指示する。

各回の担当者 前半 1 講時目：佐藤、伊藤、向山、三好、中藤  
後半 2 講時目：佐藤、伊藤

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学内実習では、本学付設の心理臨床センターにおいて、インテーク面接の陪席とその記録を行ったり、実際の事例を担当してその経過をまとめ、ケースカンファレンスで発表する。電話受付などの相談室の周辺業務についても学ぶ。週4時間の授業時間には、これらインテークケース、継続ケースについてのカンファレンスを行い、内容について報告・検討を行う。

臨床心理士資格のみを目指す学生については、学外での実習が教育機関・医療機関等で行われ、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他職種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行う。

なお、ケースカンファレンスは、臨床心理学専攻の教員および心理臨床センターの相談員を兼任するおよび心理臨床センタースタッフ全員が参加して行う。

フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で適宜口頭によりなされる。

#### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学内実習においては、心理臨床センターのシステムに慣れ、自身もその運営に関わる中で、どのように事例が抱えられているのかを理解すること。そのうえで、周辺の知識を習得し、またよりわかりやすく簡潔なプレゼンテーションとなるように準備をすること。

学外実習に関しては、配属先の実習期間に関する情報（沿革・理念・概要・利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。

また、前期実習において学んでいる基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

#### 〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

#### 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ケース検討会への出席40%・発表30%・討論10%・小レポート作成10%、期末に行われる記述式の試験10%を目安に評価を行う。

#### 〔留意事項 (Other Information)〕

本学付設の心理臨床センターにおける実習とケースカンファレンスは授業期間に限らず、心理臨床センターの開室期間内であれば長期休暇中にも適宜行われる。受講者は各自、心理専門職を目指すものとしての自覚と責任をもって臨むこと。

学外実習は、週1日実施されるが、実習先の状況に応じて長期休暇中も行われることがある。そのため実習生は、外部機関に身を置いて勉強していることを自覚して、社会人として、また実習生として責任ある行動をとることが求められる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

## 臨床心理実習 I

270135N0J

大学院

心理学研究科

1単位 前期

月曜日

—

15

(週4時間+外部実習) 「臨床心理基礎実習I」を修得済みであること。

伊藤 一美 薦田 未央 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中藤 信哉 空間 美智子

#### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、「臨床心理基礎実習I・II」での体験学習の上に成り立っており、大学院での専門的学習のまとめの意味も持つ。

臨床心理学の専門家としては、実践力だけでなく、科学的な素養も必要である。心理臨床家としての営みを他職種にもわかりやすく明確に説明する力を身につけることを目標とする。

#### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

学内実習においては、本学心理臨床センターでのケース担当を通じ、臨床家としての責任ある関わり方、態度、倫理について体験的に学ぶ。

具体的には、心理療法の技法、心理検査の施行や解釈について、知識や技術を習得し、ケース検討会を通して自分や他の実習者のケースの流れの見方や治療関係の見方などについて学ぶ。また、「事例研究レポート」を作成したり、その内容を推敲したり、といった課題を通して、担当する個別事例に関して事例研究の視点を持って考察し、心理臨床実践に活かす。

学外実習においては、医療・教育・福祉等の専門機関が持つ機能と、その中での臨床心理士の視点、役割等について学びつつ、他の専門職との連携、協調、臨床心理士の専門性の特徴などについて実践を通じて考察する。また、実習記録の扱いや職業倫理についても学ぶ。なお、実習で困ったこと、悩んだことなどについて個別に学内の担当教員とともに考える時間を持ち、指導を受けることで実習での経験を意味のあるものにする。

学内外の実践内容は「実習記録」に記載し、担当ケースについては心理臨床センターのカルテ管理ルールに則り、記録作成および保管を行う。それら実習ノートおよび記録に基づき、実習担当教員、実習指導者、スーパーバイザーやセンタースタッフの指導を受けること。

フィードバックは、担当ケース運営の指導の中で、個別あるいはディスカッションの形式で、適宜口頭や記述コメントにより行われる。

#### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキル	心理支援に要する基本的知識・ス	心理支援に要する知識・スキル	心理支援に要する知識・スキル

	が理解できず、習得できていない。	キルを理解・習得している。	を理解・習得し、場面に応じて活用できる。	を理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
<b>思考力・主体性</b>	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点を持ちながら専門性をもって行動できる。
<b>職業倫理</b>	臨床心理士の職業倫理を理解できず、不適切なふるまいが見られる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、基本的なふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

第1回目にオリエンテーション、第15回目に期末試験を含む。それ以外の内容は、授業中に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学内実習では、本学付設の心理臨床センターにおいて、実際の事例を担当する。担当ケースについてのカンファレンスを週2講時分行い、内容について報告・検討を行う。学外実習は、教育機関・医療機関・福祉機関等で行われるが、それぞれの機関における対象者への関わりを通じて、心理臨床的援助の意義や他業種との連携について学ぶ。また、毎回、実習記録を作成することによって実習内容の検討を行うほか、各機関での実習内容について全体での報告会を行う。

なお、ケースカンファレンスは、臨床心理学専攻教員のうち心理臨床センターの相談員を兼任する教員、および心理臨床センタースタッフ全員が参加して行う。

フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心理臨床センターの運営に主体的に関わる中で、それぞれの事例について幅広い視点から理解する。インテーク陪

席や事例検討会等の資料作成においては、事例に関連する文献を参照することで専門的知識を深めながら、担当する事例を振り返り、分かりやすい報告となるよう準備すること。

学外実習に関しては、配属先の実習機関に関する情報(沿革、理念、概要、利用者等)について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。

また、前期の実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

ケース検討会への出席および授業内の提出課題40%、発表や討論参加40%・期末の記述課題20%を目安に評価を行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

学内実習におけるケース担当(およびカンファレンス)は、基本的に長期休暇にかかわらず継続して行われる。ケースを担当するということについての、臨床家として自覚が求められる。

学外実習は、週1日実施されるが、実習先の状況に応じて長期休暇中も行われることがある。そのため実習生は、外部機関に身を置いて勉強していることを自覚して、社会人として、また実習生として責任ある行動をとることが求められる。

※「心理実践実習(学内)Ⅱ」、および「心理実践実習(学外)ⅠB」もしくは「心理実践実習(学外)ⅡB」を履修している者は、本科目を加えて履修する必要はない。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり。公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

## 臨床心理実習 II

270136NOJ

大学院  
心理学研究科  
1単位 後期  
月曜 5限 月曜 6限

ー  
15

(週4時間+外部実習) 「臨床心理基礎実習II」を修得済みであること。

伊藤 一美 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中藤 信哉 空間 美智子

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、「臨床心理基礎実習 I・II」ならびに「臨床心理実習 I」での体験学習の上に成り立っており、大学院での専門的学習のまとめの意味も持つ。

臨床心理学の専門家としては、実践力だけでなく、科学的な素養も必要である。心理臨床家としての営みを他職種にもわかりやすく明確に説明する力を身につけることを目標とする。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1)臨床心理学的な諸現象を論理的かつ合理的に説明できる。  
(2) 本学附設の心理臨床センターにおいて、担当ケースに関する心理臨床実践を行う。

(3)心理面接における技法を習得しつつ、ケース検討や小グループでの討論などの実習を通じて、問題点を振り返りながら、積極的に討論に参加し、臨床的視点を養う。

(4)担当ケースに関して、論理的な視点を持って考察し、まとめることができる。

(3)臨床心理の専門家としての職業倫理を修得、理解する。

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。

思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的に思考・判断し、問題解決に向けて行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	臨床心理士の職業倫理を理解できておらず、不適切な振る舞いが見られる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、基本的振る舞いができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切な振る舞いができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切な振る舞いをし、自己研鑽に努めている。

### 〔授業計画〕

第1回目にオリエンテーション、第15回目に期末試験を含む。それ以外の内容は、授業中に指示する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

事例論文や事例報告から、クライアントに関する

1) コミュニケーション、心理検査、心理面接、地域支援などの知識及び技能

2) 支援ニーズの把握と支援計画の作成

について、2年次前期までの通常のカンファレンスや個別指導に加え、より高度な心理臨床的支援を目指して多様なスーパーヴィジョンの形態において学ぶ。

なお、通常のカンファレンスにも参加する。また、そのカンファレンスには、心理臨床センターのスタッフ全員が参加して行う。

フィードバックは、発表時のコメント、グループディスカッション、個別指導の中で、適宜口頭によりなされる。

### 〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

さまざまな事例について幅広い視点から理解するために、関連する分野について心理臨床学研究などの学術論文を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

### 〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

カンファレンスでの発表・討論などを含む参加態度、さらには本科目の特色である多様なスーパーヴィジョンにおける発表や討論 (20%) を通して、事例検討の理解度 (60%)、期末の記述課題 (20%) によって評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

進行状況を見ながら、授業日程については別途調整する可能性がある。なお、長期休暇期間や土曜日等を実施される場合がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

事例研究の考え方と戦略：心理臨床実践の省察的アプローチ 山本力 著 創元社

初心者のための臨床心理学研究実践マニュアル 津川律子・遠藤裕乃 著 金剛出版

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり

臨床心理士、公認心理師として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

---

特別研究

270153A0J  
大学院  
心理学研究科  
4単位 集中  
その他  
—  
必修  
伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別

指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

---

特別研究

270153C0J  
大学院  
心理学研究科  
4単位 集中  
その他  
—  
必修  
尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153D0J  
大学院  
心理学研究科  
4単位 集中  
その他  
—  
必修  
下田 麻衣

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153G0J  
大学院  
心理学研究科  
4単位 集中  
その他  
—  
必修  
薦田 未央

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153H0J  
大学院  
心理学研究科  
4単位 集中  
その他  
—  
必修  
佐藤 睦子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153I0J  
大学院  
心理学研究科  
4単位 集中  
その他  
—  
必修  
空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

---

特別研究

270153J0J  
大学院  
心理学研究科  
4単位 集中  
その他  
—  
必修  
高井 直美

---

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握し

ていること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

---

特別研究

270153M0J  
大学院  
心理学研究科  
4単位 集中  
その他  
—  
必修  
松島 るみ

---

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の

適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

27015300J

大学院

心理学研究科

4単位 集中

その他

—

必修

三好 智子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否

② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること

③ データ処理の適否

④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否

⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

—

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

特別研究

270153POJ  
 大学院  
 心理学研究科  
 2単位 集中  
 その他  
 DP5：共生・協働する力  
 村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

修士論文作成のための指導科目である。「専門演習」との対応を図りつつ、指導教員の個別指導を中心とする。指導担当者は、院生の研究テーマに応じて定められる。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

修士論文は以下の観点を中心とした指導を行っていく。

- ① 研究の枠組みの妥当性：目的と方法の対応、仮説の適否
- ② 文献収集の実績：新しい文献や最新の議論を把握していること
- ③ データ処理の適否
- ④ 解釈と構成：データの意味の解釈の適否、表現の適否
- ⑤ 独創性：独創的なアイデアや指摘が含まれていること

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

〔授業計画〕

授業の進行および指導方法は、個々の研究内容にしたがって、指導教員によって示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

院生の研究テーマに基づき、主指導教員1名と副指導教員による個別指導を行う。また、指導の過程で討議された内容は、「専門演習」において発表され、それはさらに個別指導に生かされることになる。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

先行研究の整理など授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

120

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

修士論文への取り組み方、修士論文発表会での発表、および完成された修士論文をもとに、総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

具体的な内容と進行および指導方法については、指導教員によって示される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理士、公認心理師として医療機関、教育機関で実務経験あり。

臨床心理事例研究法演習 I

270200NOJ

大学院

心理学研究科

2単位 前期集中

その他

—

60

伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

臨床心理士を目指す受講者は、学内実習施設である心理臨床センターでの事例担当と並行して、スーパービジョンを受ける。事例担当者は心理相談や心理検査等を実習するにあたって、来談者の抱える問題を把握することをはじめ、来談者と担当者との間に信頼関係ができていいるか、どのように面接を展開するとよいか等を心理相談の経過に沿って全体的に捉える必要がある。毎回の面接についてまとめたり、振り返ったりする作業を通じて治療過程についての理解とこれを表現する力を養う。さらにスーパービジョンを受けることにより、事例についての一層の理解と面接や検査等に関する知識や技能を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 実習事例を丁寧にまとめ、スーパービジョンを担当する教員に詳しく報告する。
- (2) 教員への報告を通じて自分自身の面接を冷静に振り返る。
- (3) 個別スーパービジョンあるいは少人数での集団スーパービジョンを経験し、事例の理解と面接技能を高め、実践力を養う。
- (4) スーパービジョンでの経験をケース検討会での発表、事例研究論文執筆に活かし、来談者への心理臨床実践に還元する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。

思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。
職業倫理	臨床心理士の職業倫理を理解できず、不適切なふるまいが見られる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。

〔授業計画〕

事例の担当状況に応じて、進めていく。  
日程、授業計画は、授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

本科目では、定期的に事例の経過をスーパービジョン担当教員に報告し、事例の理解や心理相談の進め方などに関して指導を受ける。

フィードバックは、個別指導の中で、口頭および文章指導などの形で、適宜実施される。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

担当事例の逐語録の作成のほか、適宜、担当教員より指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

スーパービジョンでの報告内容 (50%)、事例運営における意欲 (50%) が評価の対象となる。

〔留意事項 (Other Information)〕

定期的かつ事例の実情に応じて、随時、事例運営についてのスーパービジョンを受ける。

学内心理臨床センターでの実習は長期休暇中にも行われるため、それに従ってスーパービジョンも適宜行われる。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

臨床心理事例研究法演習 II

270201N0J  
大学院  
心理学研究科  
2単位 後期集中  
その他  
ー  
60  
伊藤 一美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

受講者は、学内実習施設である心理臨床センターでの事例担当と並行して、スーパービジョンを受ける。事例担当者は心理相談や心理検査等を実習するにあたって、来談者の抱える問題を把握することをはじめ、来談者と担当者との間に信頼関係ができていくか、どのように面接を展開するとよいか等を心理相談の経過に沿って全体的に捉える必要がある。毎回の面接についてまとめたり、振り返ったりする作業を通じて治療過程についての理解とこれを表現する力を養う。さらにスーパービジョンを受けることにより、事例についての一層の理解と面接や検査等に関する知識や技能を高める。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1) 実習事例を丁寧にまとめ、スーパービジョンを担当する教員に詳しく報告する。
- (2) 教員への報告を通じて自分自身の面接を冷静に振り返る。
- (3) 個別スーパービジョンあるいは少人数での集団スーパービジョンを経験し、事例の理解と面接技能を高め、実践力を養う。
- (4) スーパービジョンでの経験をケース検討会での発表、事例研究論文執筆に活かし、来談者への心理臨床実践に還元する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。

<p><b>思考力・主体性</b></p>	<p>心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。</p>	<p>心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。</p>	<p>心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。</p>	<p>心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。</p>
<p><b>職業倫理</b></p>	<p>臨床心理士の職業倫理を理解できず、不適切なふるまいが見られる。</p>	<p>臨床心理士の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。</p>	<p>臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。</p>	<p>臨床心理士の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。</p>

**〔授業計画〕**

事例の担当状況に応じて、進めていく。  
 日程、授業計画は、授業中に指示する。

第1回目を含む各回の担当者：伊藤

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない。

**〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕**

本科目では、定期的に事例の経過をスーパービジョン担当教員に報告し、事例の理解や心理相談の進め方などに関して指導を受ける。

学期末には、全担当事例についてブリーフレポートを作成する。

さらに、心理相談に関する先行文献も参照しながら、担当事例に関する事例研究レポート執筆に取り組む。

フィードバックは、個別指導の中で、口頭および文章指導などの形で、適宜実施される。

**〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕**

担当事例の逐語録の作成のほか、適宜、担当教員より指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

**〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕**

スーパービジョンでの報告内容 (30%)、事例運営の意欲 (30%)、全担当事例についてのブリーフレポート作成 (20%)、担当事例に関する事例研究レポート等 (20%) が評価の対象となる。

**〔留意事項 (Other Information)〕**

定期的かつ事例の実情に応じて、随時、事例運営についてのスーパービジョンを受ける。学内心理臨床センターでの実習は長期休暇中にも行われるため、それに 応じてスーパービジョンも適宜行われる。

担当事例についてのブリーフレポートは継続、終結、中断等の全ての担当事例について提出を求める。事例研究論文はスーパービジョン担当教員の指導のもとで作成し、臨床心理学専攻専任教員による倫理面でのチェックを受けたのち、提出する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり。

**臨床心理学専門演習 I**

270235A0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期

水曜 2限

ー

60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 菊野 雄一郎 薦田 未央  
 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中  
 藤 信哉 松島 るみ 下田 麻衣 空間 美智子 高  
 井 直美

**〔科目の教育目標 (Course Description)〕**

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

**〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕**

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

**〔ルーブリック表〕**

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身につ	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身

	いていな い。	力が身につ いている。	についてい る。	についてい る。
<b>知識・理解力</b>	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
<b>言語力</b>	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
<b>思考・解決力</b>	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
<b>共生・協働する力</b>	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
<b>創造・発信力</b>	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (担当教員全員)
- 第 2 回 研究発表に向けて (担当教員全員)
- 第 3 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 14 回 研究計画発表 (担当教員全員)

第 15 回 まとめ (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習 I

270235B0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期

金曜 6限

一

60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 菊野 雄一郎 薦田 未央  
三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中  
藤 信哉 松島 るみ 下田 麻衣 空間 美智子 高  
井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼ

ンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。

創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。
--------	-------------------------	-----------------------------	----------------------------	--------------------------

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (担当教員全員)
- 第 2 回 研究発表に向けて (担当教員全員)
- 第 3 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 14 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 15 回 まとめ (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。

評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 臨床心理学専門演習 II

270236A0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期

水曜 2限

ー

60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 菊野 雄一郎 薦田 未央  
三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中  
藤 信哉 松島 るみ 下田 麻衣 空間 美智子 高  
井 直美

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。

2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。

3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。

言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 14 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 15 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習 II

270236BOJ

大学院

心理学研究科

2単位 後期

金曜 6限

ー

60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 菊野 雄一郎 薦田 未央  
三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中  
藤 信哉 松島 るみ 下田 麻衣 空間 美智子 高  
井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。

2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。

3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 14 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 15 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習Ⅲ

270237A0J

大学院  
心理学研究科  
2単位 前期  
水曜2限  
ー  
60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 菊野 雄一郎 薦田 未央  
三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中  
藤 信哉 松島 るみ 下田 麻衣 空間 美智子 高  
井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論	ある程度、心理学の知	おおむね心理学の知識	心理学の知識や方法論

	を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身につかない。	識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
<b>共生・協働する力</b>	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
<b>創造・発信力</b>	研究結果を他者に発信する力が身につけていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (担当教員全員)
- 第 2 回 研究発表に向けて (担当教員全員)
- 第 3 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 14 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 15 回 まとめ (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。

評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理学専門演習Ⅲ

270237B0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期

金曜 6限

ー

60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 菊野 雄一郎 薦田 未央  
三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中  
藤 信哉 松島 るみ 下田 麻衣 空間 美智子 高  
井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
<b>自分を育てる力</b>	自律的で積極的に研究に取り組む	ある程度、自律的で積極的に研究	おおむね自律的で積極的に研究に	自律的で積極的に研究に取り組む

	力が身につけていない。	に取り組む力が身につけている。	取り組む十分な力が身につけている。	力が十分身につけている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身につけていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身につけている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身につけている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身につけている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身につけていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身につけている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身につけている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身につけている。
思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身につけていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身につけている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身につけている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身につけている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身につけていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身につけていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (担当教員全員)
- 第 2 回 研究発表に向けて (担当教員全員)
- 第 3 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 文献発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 研究計画発表 (担当教員全員)

第 13 回 研究計画発表 (担当教員全員)  
 第 14 回 研究計画発表 (担当教員全員)  
 第 15 回 まとめ (担当教員全員)  
 [定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート]  
 実施しない  
 [教育・学習の方法 (Course Methods)]  
 専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。  
 [準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)]  
 関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。  
 [準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))]  
 60  
 [評価方法・評価基準 (Evaluation)]  
 授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。  
 [留意事項 (Other Information)]  
 [テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)]  
 [参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)]  
 [参考URL(URL for Reference)]  
 [実務経験のある教員による実践的科目]

臨床心理学専門演習Ⅳ

270238A0J

大学院  
心理学研究科  
2単位 後期  
水曜2限

60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 菊野 雄一郎 薦田 未央  
三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中  
藤 信哉 松島 るみ 下田 麻衣 空間 美智子 高  
井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
知識・理解力	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
言語力	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。

思考・解決力	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
共生・協働する力	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
創造・発信力	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

〔授業計画〕

- 第 1 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 14 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 15 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。

評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

**〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕**

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。  
〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

**〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕**

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表（プレゼンテーション）の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

**〔留意事項 (Other Information)〕**

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

**臨床心理学専門演習Ⅳ**

270238BOJ

大学院

心理学研究科

2単位 後期

金曜 6限

ー

60

臨床心理学専攻必修

尾崎 仁美 伊藤 一美 菊野 雄一郎 薦田 未央  
三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 村松 朋子 中  
藤 信哉 松島 るみ 下田 麻衣 空間 美智子 高  
井 直美

**〔科目の教育目標 (Course Description)〕**

この授業は、学生が研究計画や研究経過を発表・報告し、教員や他の学生と討議することを通して研究内容やプレゼンテーションの方法等についての学びを深め、自らの研究の意義や課題を明確にし、独創性・有用性のある研究論文を作成する力を身につけることを目標とする。

**〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕**

- 1.各自の問題意識に沿って先行研究を探索・精読し、臨床心理学的な視点と方法に基づいた研究論文の作成過程や方法、結果の表現法などを学ぶ。
- 2.各自の研究の目的・方法・仮説・データ処理の過程・研究成果などについて論理的にまとめ、分かりやすく表現する。
- 3.発表や討議から学んだことを、研究論文の作成に活かす。

**〔ルーブリック表〕**

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
<b>自分を育てる力</b>	自律的で積極的に研究に取り組む力が身についていない。	ある程度、自律的で積極的に研究に取り組む力が身についている。	おおむね自律的で積極的に研究に取り組む十分な力が身についている。	自律的で積極的に研究に取り組む力が十分身についている。
<b>知識・理解力</b>	専門分野に関する知識や研究法の知識が身についていない。	ある程度、専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	おおむね専門分野に関する知識や研究法の知識が身についている。	専門分野に関する知識や研究法の知識が十分身についている。
<b>言語力</b>	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についていない。	ある程度、研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	おおむね研究結果を言語化したり、他者に説明する力が身についている。	研究結果を言語化したり、他者に説明する力が十分身についている。
<b>思考・解決力</b>	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についていない。	ある程度、心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	おおむね心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が身についている。	心理学の知識や方法論を使って、研究テーマの問題解決を行う力が十分身についている。
<b>共生・協働する力</b>	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲が身についていない。	ある程度、研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	おおむね研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を身につけている。	研究仲間と共生・協働しながら、問題解決しようとする意欲を十分身につけている。
<b>創造・発信力</b>	研究結果を他者に発信する力が身についていない。	ある程度、研究結果を他者に発信する力を身につけている。	おおむね研究結果を他者に発信する力を身につけている。	研究結果を他者に発信する力を十分身につけている。

**〔授業計画〕**

- 第 1 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 2 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 3 回 研究計画および研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 4 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 5 回 研究経過発表 (担当教員全員)
- 第 6 回 研究経過発表 (担当教員全員)

- 第 7 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 8 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 9 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 10 回 研究計画発表 (担当教員全員)
- 第 11 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 12 回 修士論文経過発表 (担当教員全員)
- 第 13 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 14 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)
- 第 15 回 研究成果発表 (M2 修士論文発表会) (担当教員全員)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

専攻に所属する院生と教員が参加し、研究会方式で進める。院生は各自の研究について、テーマや研究計画、データ処理法、結果、考察などを段階ごとに報告し、出席者はそれに関して意見や質問をしたり、情報を提供したりする。発表や質疑応答、討議を通じて、互いの研究への理解を深め、課題や問題意識等を明確にしてゆく。報告担当の院生は、口頭発表と発表に関する資料を事前に準備する。

評価についてのフィードバックは、ディスカッションや個別指導の中で口頭により、あるいはmanabaに提出された発表資料に対するコメントによって、適宜行われる。

なお、必要に応じて遠隔授業も実施する。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関心のある研究領域、テーマについて文献検索を行い、その中から必要な先行研究についてまとめ、研究計画を整理する。それらに基づき、授業の発表資料を作成する。また、発表後には、質疑の内容を振り返り、理解を深めて研究計画および研究内容に反映できるように整理しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度、発表の内容、事前資料の作り方、発表 (プレゼンテーション) の仕方、発表時の質疑応答、授業態度などによって総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理面接特論Ⅰ(心理支援に関する理論と実践)

270402NOJ  
大学院  
心理学研究科  
2単位 前期  
火曜3限  
ー  
60  
三好 智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、力動論、行動論・認知論、その他に基づく心理療法の理論と方法、これら理論や方法の心理に関する相談、助言、指導等への実践的応用、心理に関する支援を要する人の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について学ぶ。本科目の教育目標は以下のとおりである。

- ①力動論、行動論・認知論、その他に基づく心理療法の理論と方法について理解し、概要を説明することができる。
- ②①で学んだ理論や方法の心理に関する相談、助言、指導等への応用について、事例の検討やロールプレイ等の体験を通して学び、実践に役立つスキルを身につける。
- ③心理に関する支援を要する人の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整について、事例の検討やロールプレイ等の体験を通して学び、実践に役立つスキルを身につける。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- (1)各種文献の購読や教材の視聴を通して、各種心理療法の理論と方法を学ぶ。
- (2)(1)を踏まえて全体もしくは小グループでディスカッションを行う。
- (3)事例の検討やロールプレイ等の実践練習を通して、心理に関する相談、助言、指導等や、適切な支援方法の選択・調整に関する実践的なスキルを身につける。
- (3)各テーマに関してレポートを作成し、さらに理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	専門的な心理支援に関する学びを通して自分を育てる動機が十分でない	専門的な心理支援に関する学びを通して自分を育てる動機がある	専門的な心理支援に関する学びを通して自分を育てる動機がかなりある	専門的な心理支援に関する学びを通して自分を育てる動機が非常にある
知識・理解力	専門的な心理支援に必要な知識が十分でない	専門的な心理支援に必要な知識がある	専門的な心理支援に必要な知識がかなりある	専門的な心理支援に必要な知識が非常にある
言語力	専門的な心理支援に必要な言語力が十分でない	専門的な心理支援に必要な言語力がある	専門的な心理支援に必要な言語力がかなりある	専門的な心理支援に必要な言語力が非常にある

思考・解決力	与えられた課題について考える力が十分でない	与えられた課題について考える力がある	与えられた課題について考える力がかなりある	与えられた課題について考える力が非常にある
共生・協働する力	他者と協力して活動する力が十分でない	他者と協力して活動する力がある	他者と協力して活動する力がかなりある	他者と協力して活動する力が非常にある
創造・発信力	自分の考えを表現する力が十分でない	自分の考えを表現する力がある	自分の考えを表現する力がかなりある	自分の考えを表現する力が非常にある

〔授業計画〕

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 心理支援における基礎（様々な業務）
- 第3回 心理支援における基礎（インテーク面接）
- 第4回 心理支援における基礎（見立て）
- 第5回 力動論に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
- 第6回 力動論に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
- 第7回 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
- 第8回 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
- 第9回 その他に基づく心理療法の理論と方法（文献の購読・教材の視聴）
- 第10回 その他に基づく心理療法の理論と方法（事例の検討）
- 第11回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ1）
- 第12回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ2）
- 第13回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ3）
- 第14回 ロールプレイとディスカッション（実践への応用）（グループ4）
- 第15回 心理支援における倫理

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

- (1)各文献の購読、教材の視聴と、それらを踏まえたディスカッション。
  - (2)事例の検討。
  - (3)ロールプレイ等による実践練習。
  - (4)各テーマに関するレポート作成。
- 課題に対するフィードバックの方法としては、適宜、授業内でフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

- ・文献等の資料には必ず目を通してくること。
- ・ロールプレイ等の実践練習については、適宜指示された準備を必ず行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

評価は、授業時の課題（60%）、ロールプレイ・ディスカッションへの参加態度（40%）から、総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

・受講状況によって、適宜、授業予定を変更する可能性がある。

・実践体験や受講者同士のロールプレイや模擬実習には、他の受講生や自らの体験を丁寧に扱う心構えで臨むこと。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業中に適宜、指示する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫ 心理専門職として施設での勤務経験あり。

障害児心理学特論(福祉分野に関する理論と支援の展開 a)

270404N0J

大学院

心理学研究科

2単位 集中

その他

—

90

磯部 美也子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

発達障害や適応上の問題がある子どもの心理を理解し、豊かな生活をすごしていくための子どもへの支援の方法を学ぶ。そのために、支援のための現場でのアセスメントの考え方・方法を学び、障害児と健常児の統合保育の現場や障害児療育の現場における保育者への支援や保護者への支援の内容と支援の具体的な流れについて理解する。さらには子どもを支援する地域社会のネットワークの現状を知り、多職種連携について学ぶ。

これらを通して、障害児に関する現場での心理臨床とその課題を考える。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

「障害」の理解、アセスメント、支援  
 知的障害・ダウン症の心理特性の理解と支援  
 発達障害の心理特性の理解と支援  
 保護者理解・支援  
 障害児療育、保育現場での支援、多職種連携について

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション  
障害に関する基礎知識のチェック
- 第 2 回 障害のとらえ方  
障害についての考え方、国際生活機能分類、障害児者心理学の意義
- 第 3 回 知的障害の心理とその支援  
知的障害の定義、アセスメント、心理特性
- 第 4 回 ダウン症等  
ダウン症児に関する原因、症状、療育について  
出生前診断
- 第 5 回 発達障害  
発達障害の概要  
自閉症スペクトラム障害の歴史と現状、心理特性
- 第 6 回 自閉症スペクトラム障害  
自閉症スペクトラム障害への支援
- 第 7 回 注意欠如・多動症  
ADHD,LDに関する心理とその支援
- 第 8 回 身体障害、重症心身障害  
肢体不自由、重度・重複障害に関する心理とその支援
- 第 9 回 言語障害、情緒障害  
言語障害、情緒障害の心理とその支援
- 第 10 回 障害のアセスメント（1）  
知能検査（ウェクスラー式等）によるアセスメント  
発達検査（主に新版K式発達検査2020）によるアセスメント
- 第 11 回 障害のアセスメント（2）  
質問紙法発達検査、適応行動尺度、社会生活能力検査など よく用いられる諸検査について
- 第 12 回 障害児療育  
障害児療育の意義、システム  
児童発達支援センター、放課後等デイサービスの役割と心理職、多職種連携  
保護者の障害受容、きょうだいの問題など家族支援
- 第 13 回 論文の要旨発表（1）  
各学生による障害関連論文の発表
- 第 14 回 論文の要旨発表（2）  
各学生による障害関連論文の発表
- 第 15 回 論文の要旨発表（3）とまとめ  
各学生による障害関連論文の発表  
まとめと到達度チェック

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

講義とディスカッション（グループ討議）

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

障害児者関係の書籍を何か読んでおいてほしい。授業中にその概要を紹介、もしくは記載してもらいます。授業中の論文発表については、オリエンテーションで説明します。

WISC-IVと新版K式発達検査（主に3,4葉）については、概要とどのような検査項目があるかを事前に学習しておいてほしい。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業への参加状況（約20%）、発表（約30%）、到達度チェック（約50%）などで総合的に評価します。

〔留意事項（Other Information）〕

授業予定は変更することがあります。

〔テキスト(Textbook)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無）〕

授業内で資料を配付する。

〔参考文献(References)（書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN）〕

適宜紹介します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

厚生労働省 障害者福祉 [https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi\\_kaigo/shougaisahukushi/index.html](https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaisahukushi/index.html)

厚生労働省 障害児支援施策 <https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000117218.html>  
文部科学省 特別支援教育

[https://www.mext.go.jp/a\\_menu/01\\_m.htm](https://www.mext.go.jp/a_menu/01_m.htm)

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

児童相談所心理判定、障害児療育施設発達相談・SV、特別支援教育巡回相談などで心理職（臨床心理士等）として勤務経験があります。事例も紹介しますので、現場の実務について理解を深めてほしいと思います。

社会心理学特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)

270408N0J

大学院  
心理学研究科  
2単位 前期  
金曜3限

60  
下田 麻衣

〔科目の教育目標（Course Description）〕

職場における自己（self）の影響について学び、議論する。自己効力感、自尊心感情、自己制御、アイデンティティの

問題などについて、産業組織心理学、組織行動、社会心理学の観点からの最新の研究成果について知識を獲得する。また社会心理学の知識をこれらの分野に応用することの限界について理解を目指す。それらを通じて産業・労働分野に関わる公認心理師として、科学的な証拠に基づいた実践を行うための、基盤となる知識を身につける。産業・労働分野における問題と、各自の研究との接点を見出し、発展に繋がられるよう目指す。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・自己概念の基礎的な理論、知識を理解する。
- ・職場における様々な問題・課題について基礎値的な知識を得る。
- ・社会心理学の知見が職場の問題解決にいかに応用・活用されてきたかを学び、その限界についても理解する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	産業組織心理学・社会心理学の諸概念について理解していない	産業組織心理学・社会心理学の諸概念について理解している	産業組織心理学・社会心理学の諸概念について理解して説明ができる	産業組織心理学・社会心理学の諸概念について理解して論文等を通じて説明ができる
思考・解決力				臨床にかかわる問題について産業組織心理学・社会心理学の諸概念を使って解決ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 職場における自己について
- 第 2 回 自己効力感
- 第 3 回 自尊心感情
- 第 4 回 職場における自己同一視
- 第 5 回 自己高揚動機
- 第 6 回 自己制御
- 第 7 回 自己決定動機
- 第 8 回 職場における罪悪感の役割
- 第 9 回 職場内の社会的地位の影響
- 第 10 回 文化の研究と産業組織の研究の相互作用
- 第 11 回 印象操作
- 第 12 回 自己評価とアルコールの影響
- 第 13 回 フィードバックの影響
- 第 14 回 産業・労働分野に関わる心理士の実践
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

社会・産業組織心理学の新たな動向に関連する教科書を教材とし、各自が担当部分をまとめて報告し、そこに含まれる問題をディスカッションする形で授業を進める。必要に応じて、研究手法や分析手法について講義する。授業中わからない点があれば積極的に質問をし、またオフィスアワー等を利用して解決できるようにすること。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

授業時間に次回以降の課題を指示する。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

15

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業時間中の発表やディスカッションを基に総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

受講生の人数、予備知識に応じて、授業内容、講義形式は柔軟に変更する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

『The Self at Work: Fundamental Theory and Research』/D. L. Ferris, R. E. Johnson, and C. Sedikides/Taylor & Francis Group/2017/9781138648234/学内販売をしない予定  
授業内で教材を配布する。

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内で適宜、紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

精神医学特論(保健医療分野に関する理論と支援の展開 a)

270410N0J  
大学院  
心理学研究科  
2単位 前期  
金曜 2限  
—  
60  
河瀬 雅紀

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

精神医療の現場では、患者が示すさまざまな心と行動の問題に直面することになる。そこで本科目では、

- ①精神医学的な診断の枠組みを事例の見立てに応用することができる
- ②精神症状を呈する事例を読み取り、精神医学的診断及び治療と関連づけて支援の具体的なプランを立てることができる
- ③種々の臨床心理学的介入法から事例に適したものを選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる
- ④リエゾン精神医学について説明することができる
- ⑤他職種との連携、社会資源の活用のあるり方を説明することができる

⑥精神科薬物療法の基本的な事項について説明できることを目標とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 不安・抑うつなど主な病態について、事例に適した心理学的介入法を選択し、精神医学的診断及び治療と関連づけて具体的な支援計画を立てることができる

(2) 抗精神病薬・抗うつ薬・抗不安薬などの作用機序・副作用などについて説明できる

(3) 身体科治療中に生じる精神医学的問題 (症状性精神障害、適応障害など) について説明できる

(4) リエゾン精神医学の概念・アプローチについて説明できる

(5) 緩和医療・グリーフケアについて説明できる

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
精神医学的診断の枠組みについて	精神医学的アセスメントの基本的事項の知識がない	精神医学的アセスメントの基本的事項について、資料を用いて説明できる	精神医学的アセスメントの基本的事項について、自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる	精神医学的アセスメントの基本的事項について、事例に即して説明できる
不安・抑うつなどの病態について	知識がない	事例のなかで、不安・抑うつなどの病態を同定できる	事例のなかで、不安・抑うつなどの病態について説明できる	事例のなかで、不安・抑うつなどの病態について、支援の計画を立てることができる
リエゾン精神医学について	知識がない	リエゾン精神医学の概念・アプローチについて、知識がある	リエゾン精神医学の概念・アプローチについて、資料を用いて説明できる	事例のなかで、リエゾン精神医学のアプローチについて説明できる
身体科治療中に生じる精神医学的問題について	知識がない	身体科治療中に生じる精神医学的問題についての知識がある	身体科治療中に生じる精神医学的問題について、資料を用いて説明できる	事例のなかで、身体科治療中に生じる精神医学的問題について説明できる

チームアプローチについて	知識がない	チームアプローチについて、知識がある	チームアプローチについて、自ら発展的に調べた知識も応用し、要点をまとめて説明できる	緩和医療などを題材に、チームアプローチについて、説明できる
向精神薬について	向精神薬について、知識がない	主な向精神薬の作用機序について、知識がある	主な向精神薬の作用機序と副作用について、資料を用いて説明できる	事例のなかで、主な向精神薬の意義と位置づけを説明できる

〔授業計画〕

- 第 1 回 事例に対する精神医学的アセスメントの基本的事項について (概論) (オンライン授業予定)
- 第 2 回 事例に対する心理学的アセスメントの基本的事項 (精神医学的視点から) (オンライン授業予定)
- 第 3 回 うつ理解の原則について (オンライン授業予定)
- 第 4 回 精神科薬物療法の基礎 (概論、抗精神病薬)
- 第 5 回 精神科薬物療法の基礎 (抗うつ薬など)
- 第 6 回 事例検討 (精神疾患を中心に)
- 第 7 回 精神医療の現場で必要となる症状評価を学ぶ (実習までに身につけること)
  - 認知症関連 —
- 第 8 回 精神科薬物療法の基礎 (抗不安薬その他) (オンライン授業予定)
- 第 9 回 総合病院におけるリエゾン精神医学 (概論、せん妄など) (オンライン授業予定)
- 第 10 回 リエゾン精神医学からみたチーム医療と心理学的介入 (オンライン授業予定)
- 第 11 回 精神医療と法律、福祉制度、社会資源について (オンライン授業予定)
- 第 12 回 事例検討 (地域支援を中心に)

第 13 回

リエゾン精神医学：がん医療と心理的ケア

第 14 回

喪失・悲嘆と心のケア（緩和医療・グリーフケア）

第 15 回

事例検討（ひきこもりを中心に）

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

プリント資料、スライド、視聴覚教材などを用いて、質疑・討論を行い、理解を深める。

すなわち、授業中には重要事項について発問し、学生の回答に対して適宜口頭でフィードバックすることにより理解を深める。

事例を用いての討論を多く取り入れる。

なお、講義は対面授業とオンライン授業（オンデマンド）を合わせて実施する。

オンライン授業は、第 1、2、3、8、9、10、11 回目を予定している。

毎回の講義後、配布資料および参考文献などにより復習をすること。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

精神医学の教科書（精神医学（MINOR TEXTBOOK）, 金芳堂など）から、統合失調症、気分障害、不安障害、ストレス関連障害、発達障害の項目を読んでおくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

質疑・討議の参加状況を30%、課題の提出・発表を70%として、総合的に評価を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

学部で学習した精神医学の基礎を身につけていることを前提に講義は進められる。そのため、受講にあたっては精神医学の基礎知識の再確認をしておくこと。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『うつ病 知る・治す・防ぐ』/福居顯二/金芳堂//

『DSM-V 精神疾患の診断・統計マニュアル』/高橋三郎他(訳) /医学書院//

『精神医学 (MINOR TEXTBOOK)第12版』/加藤伸勝/金芳堂/2013/

『僕のこころを病名で呼ばないで』/青木省三/ちくま文庫//

『若者の「うつ」』/傳田健三/ちくまプリマー新書//

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 精神科医として医療機関等での勤務経験あり。

学校カウンセリング特論(教育分野に関する理論と支援の展開)

270416N0J

大学院

心理学研究科

2単位 前期

金曜 4限

ー

90

福山 幸子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

学校カウンセリングは、現在、急速にその守備範囲を拡げてきている。学校現場では、児童生徒自身の問題はもとより、学校の抱える問題、家庭（保護者）の問題、社会・地域の問題などが互いに関連して表面化する。いじめ、学級崩壊、校内暴力、不登校、家庭内暴力、ひきこもり、児童虐待も大きな問題である。また、特別支援教育として、発達障害の児童生徒への支援も注目されている。本講義においては、学校カウンセリングに必要な種々の技法の実習を行い、その習得を目指す。また、受講生の事例発表なども通して、学校カウンセリングのあり方についての理解を深めていきたい。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

- ・学校カウンセリングとは何かを学ぶ
- ・学校における心理師（士）の存在意義について学ぶ
- ・学校カウンセリングにおいて使用できる各種療法に関して、実習を通じて学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 学校心理士（スクールカウンセラー）とは何か
- 第 2 回 学校心理士（スクールカウンセラー）が行う仕事を学ぶ
- 第 3 回 学校におけるカウンセリングについて（小学校）
- 第 4 回 学校におけるカウンセリングについて（中学校・高校）
- 第 5 回 学校におけるコンサルテーションについて
- 第 6 回 チーム学校
- 第 7 回 地域連携

- 第 8 回 学校における危機対応について
- 第 9 回 査定と見立て
- 第 10 回 学校における心理支援
- 第 11 回 心理教育
- 第 12 回 学校で施行する技法
- 第 13 回 事例研究①
- 第 14 回 事例研究②
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

学校とは、独特な場である。学校で働く心理師 (士) は、学校で出会うクライアントを理解する前に学校文化を理解する必要がある。本講義では、学校における心理師 (士) のあり方を探索していきたい。

講義・実習を行うごとにレポートの提出を求める。最終授業で全体に対するフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学校心理士とは何かについて、文献検索・熟読の後、講義に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

講義への参加度 (授業内でのディスカッション参加態度を含む) 40%・課されたレポートの内容60%の評価とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理査定演習Ⅰ (心理的アセスメントに関する理論と実践)

270418N0J  
大学院  
心理学研究科  
2単位 前期前半  
火曜 4限 火曜 5限  
—  
60  
2コマ連続  
向山 泰代

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本演習では、心理臨床の現場で活用されている代表的な心理検査について、アセスメント理論と方法を学ぶ。授業では個別式の知能検査等の実習を通じて、主として人の認知的側面のアセスメントについて学ぶが、情意的側面のアセスメントも実習の一部に加える。また、テスト・バッテリーの組み方、検査実施にあたっての倫理的配慮、結果の有

効な活用等に関する学習を通して、公認心理師等の心理専門職が実践する心理的アセスメントの意義について理解する。さらに、アセスメントに関するこれらの知識や技能を、どのように心理に関する相談、助言、指導等に活用して行くかについて考える。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 心理アセスメントの理論と方法を実践的に学ぶ。(2) 各種の心理検査の有効性と限界について知る。(3) 検査者としての基本的態度と倫理を学ぶ。(4) 公認心理師等の心理専門職による心理相談、助言、指導等の実践活動において意義あるアセスメントについて考える。(5) 検査結果をいかに個人の統合的理解に結びつけて行くかを考える。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心理アセスメントに関する知識と理解	心理アセスメントの知識がなく、理論方法について理解していない。	心理アセスメントの知識や心理アセスメントの理論・方法について、部分的に習得し理解している。	心理アセスメントの知識を習得し、心理アセスメントの理論や方法について理解している。	心理アセスメントの知識を習得し、心理アセスメントの理論・方法について理解し、心理に関する相談、助言、指導等の実践活動と結びつけて考えることができる。
心理アセスメントの技術	心理アセスメントの技術を習得していない。	心理アセスメントの技術を部分的に習得している。	心理アセスメントの技術を習得している。	心理アセスメントの技術を習得し、場面・状況・対象等に応じて技術を活用できる。
心理アセスメントにおける倫理	心理アセスメントに関して、公認心理師等の心理専門職としての基本的態度や倫理を習得していない。	心理アセスメントに関して、公認心理師等の心理専門職としての基本的態度や倫理を部分的に理解している。	心理アセスメントに関して、公認心理師等の心理専門職としての基本的態度や倫理を理解している。	心理アセスメントに関して、公認心理師等の心理専門職としての基本的態度や倫理を理解した上で、心理に関する相談、助言、指導等の実践活動と結びつけて考えることができる。

主体性・積極性	演習時間内外での課題に主体的・積極的に取り組んでいる。	演習時間内外での課題の一部には主体的・積極的に取り組んでいる。	演習時間内外での課題に主体的・積極的に取り組んでいる。	演習時間内外での課題に主体的・積極的に取り組むと共に、自らの興味・関心に沿って自主的に学び、自己研鑽に努めている。
---------	-----------------------------	---------------------------------	-----------------------------	---

〔授業計画〕

- 第 1 回 心理アセスメント概説
- 第 2 回 性格検査（1）：性格検査概説
- 第 3 回 性格検査（2）：特性論にもとづく検査
- 第 4 回 性格検査（3）：連想にもとづく検査
- 第 5 回 知能検査（1）：WAISの実習（検査1～4）
- 第 6 回 知能検査（2）：WAISの実習（検査5～8）
- 第 7 回 知能検査（3）：WAISの実習（9～補助検査）
- 第 8 回 知能検査（4）：WAISのスコアリングと結果の解釈
- 第 9 回 知能検査（5）：模擬事例を用いたディスカッション
- 第 10 回 知能検査（6）：まとめと振り返り
- 第 11 回 神経心理学的検査（1）：神経心理学的検査概説
- 第 12 回 神経心理学的検査（2）：遂行機能のアセスメント
- 第 13 回 神経心理学的検査（3）：記憶のアセスメント
- 第 14 回 アセスメントにおける倫理
- 第 15 回 アセスメント結果の心理相談等への活用

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

受講生が互いに検査者と被検者となって心理検査を体験したり、模擬事例等を素材として心理検査のスコアリングや解釈等について検討し、ディスカッションを行う。これら実習と並行して、受講生は各検査が開発された背景や依拠する理論、特徴や実施方法等についてまとめ、発表する。個々の心理検査についての理解を深めた後には、複数のテストによりバッテリーを組み、検査結果の所見を報告書の形でまとめる。テスト所見を報告書としてまとめたりレポートには、授業期間内に全体に対して講評をフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

受講生はオリエンテーション時に配布されるスケジュールを確認し、各自が事前に学習・準備した上で演習に臨むこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

(1) 心理検査に関する理論や各検査の特徴についてのまとめと発表。(2) テスト・バッテリーを組み、所見を報告書としてまとめるレポート。(3) ディスカッション等への参加度や課題への取り組み等の学習態度。以上の3点から総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

受講生の知識や理解度に応じて、実習の順序や実習の内容を変更することがある。本演習で取り上げる心理検査以外にも、多くの検査が開発されている。様々な心理検査について、受講生による自主的な学習が期待される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

授業内容や進行状況に応じて、文献等を適宜紹介する。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

《実践的科目》 臨床心理士・公認心理師として教育機関等の相談室における実務経験あり。

犯罪心理学特論(司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開)

270420NOJ

大学院

心理学研究科

2単位 前期

火曜2限

ー

60

藤川 洋子

〔科目の教育目標（Course Description）〕

犯罪を扱う司法機関は、それぞれの機関の役割が法律によって厳密に規定されている。法制度の概要とその理念を理解することにより人権感覚を養っておくことは、公認心理師や臨床心理士にとって不可欠なことと言える。一方、加害者・被害者の司法臨床場面において、臨床心理学や発達心理学の視点の必要性は増すばかりである。特に精神鑑定、心理鑑定においては、治療機関とは異なる面接方法（司法面接）が用いられ、事実をどう分析するか、が大きな課題となる。公認心理師、臨床心理士の資格取得を視野に、法制度の理解とともにアセスメントや司法面接テクニックの修得をめざす。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

司法機関の仕組みと役割を理解し、司法領域で経験するテーマにつき、学生が自ら掘り下げてまとめ、発表する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分を育てようとしていない	自分の能力を伸ばそうとする	自分の過去現在を客観的に分析し、目標を	自身の成長を実感し、さらに成長

			立てて努力する	しようと努力を重ねる
知識・理解力	与えられた課題を理解しない	社会制度に関心を持つ	法制度と人間心理の関係を理解する	知識をもとに複雑な事例の分析ができる
言語力	必要な言語力を持たない	基本的な語彙力を持つ	専門用語を正確に理解する	専門用語を駆使して適切な表現ができる
思考・解決力	与えられた課題を理解しない	課題を理解し、努力する	解決に向けて課題を整理して考える	複雑な要因を分析して解決に向けて立案や提言ができる
共生・協働する力	共生・協働ができない	協力し合うことができる	よい協働関係を築くことができる	協働関係のなかでリーダーシップをとることができる
創造・発信力	与えられた課題をしない	課題としての創造や発信をする	自ら新たな経験に挑戦する	実践や創造を他者に向けて発信することができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 司法領域における犯罪心理学の役割と課題
  - 第 2 回 司法機関について—少年事件の流れと処遇機関の役割
  - 第 3 回 司法機関について—成人事件の流れと処遇機関の役割
  - 第 4 回 法律の目的と犯罪心理学—少年法 児童福祉法 児童虐待防止法
  - 第 5 回 法律の目的と犯罪心理学—少年鑑別所法、少年院法
  - 第 6 回 法律の目的と犯罪心理学—刑法、刑事訴訟法
  - 第 7 回 法律の目的と犯罪心理学—心神喪失者等医療観察法 発達障害者支援法など
  - 第 8 回 法律の目的と犯罪心理学—いじめ防止対策推進法 ストーカー規制法 DV防止法など
  - 第 9 回 精神鑑定・心理鑑定に期待されるもの—犯罪をどう分析するか
  - 第 10 回 過去の鑑定例から、犯罪理解の変遷を知る（わが国において）
  - 第 11 回 過去の鑑定例から、犯罪理解の変遷を知る（先進諸外国において）
  - 第 12 回 近年の鑑定例
  - 第 13 回 司法面接と治療的面接の違いを知る
  - 第 14 回 司法面接のテクニックと演習
  - 第 15 回 全体のまとめと意見交換
- 〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕  
実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

担当領域の発表と確認小テストの実施により知識の定着をはかる

できるだけ多くの鑑定例にあたり、犯罪心理の専門家のあり方を学ぶ

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

宿題としての課題から、自らテーマを見つけ、掘り下げて報告する

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

平常点50% プレゼンテーションや実習の能力50%

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『触法発達障害者への複合的支援』/藤川洋子・井出浩編著/福村出版/2011/978-4-571-42040-5

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

「実践的科目」

家庭裁判所調査官として、5000件に及ぶ少年事件について調査実務に携わったほか、精神障害や発達障害が疑われる刑事事件について、精神鑑定に従事した。

家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践

270422N0J

大学院

心理学研究科

2単位 集中

その他

—

60

村松 朋子 中藤 信哉 森谷 寛之

〔科目の教育目標（Course Description）〕

本科目は、集団に焦点をあてた心理学的支援に関する理論とそれに基づく心理実践の実践について学ぶ。すなわち、家族や集団内力動および地域援助などへの理論的理解を深め、心理学的支援の方法を習得する。

そこで本科目では、以下のことを目標とする。

①家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援の理論と方法と実践について説明できる

②地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法について説明できる

③心理に関する相談、助言、指導等へ、上記①及び②を応用することができる

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

①家族の心理的支援における理論と方法について説明できる。

②家族関係などの集団の関係性と地域社会や集団・組織に

働きかける心理的援助に関する理論と方法について説明できる。

③家族関係、地域社会に焦点を当てた心理的支援に関する相談・援助・指導などについて学び、包括的に理解し、説明することができる。

④さまざまな家族関係がある。それを具体的に理解する手段として描画法をもとに家族の在り方についてとその心理的支援について説明できる。

⑤地域社会における不登校などのひきこもり対策、自殺と心理的支援について説明できる。

⑥集団におけるパワーの問題—いじめ、虐待、DV、パワハラについて、「被害者意識・加害者意識」モデルから説明できる。

⑦集団に焦点を当てた心理的支援の理論と方法について説明できる。

⑧集団への心理的支援の特徴を、個人への心理的支援との比較において理解し、説明できる。

⑨集団を活用した地域社会の心理的支援の実際について理解し、説明できる。

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見直しをもって応用的に活用できる。
思考・解決力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断することができる。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断することができる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら討論することができる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できていない。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的な支援計画を立てることができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切に分析することができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

【授業計画】

- 第 1 回 家族システムと心理的支援 (村松)
- 第 2 回 家族を理解するための概念と家族療法 (村松)
- 第 3 回 家族への臨床的アプローチ (1) 思春期・青年期の問題と家族への心理的支援 (村松)
- 第 4 回 家族への臨床的アプローチ (2) 夫婦の問題と心理的支援 (村松)
- 第 5 回 個人へのエンパワメントと集団 (家族)・コミュニティへのエンパワメント (村松)
- 第 6 回 描画法による家族理解 (1) (森谷)  
家族の在り方は様々である。その姿をどのように捉えるのか。代表的な描画法 (家族画, 丸と家族, 動的家族画など) について実習も含めて紹介したい。
- 第 7 回 描画法による家族理解 (2) (森谷)  
ここでは別の家族画を紹介したい。一つは筆者が1983年春頃に開発した九分割統合絵画法を家族画に応用する方法である。もう一つは、バーンズ (1990) によって開発された円枠家族描画法である。どちらもマンダラから発想されたところで共通している。
- 第 8 回 不登校・いじめ・DV・パワハラ・自殺への理解と支援 (森谷)  
不登校は子どもが社会と出会う場面での葛藤として理解できる。筆者は不登校を精神力動モデルで説明し、理解することができることを示した。また、このモデルは、単純ではあるが、多くの不登校現象を説明できる。また、自殺対策などいろいろ複雑な心理現象に応用でき、理解できやすくなり、支援につなげることができる。
- 第 9 回 衝突の心理学—いじめにおける被害者意識と加害者意識 (森谷)  
不登校といじめ、虐待、DV、パワハラを比較すると、その性格の違いがはっきりする。いじめなどの場合、いじめっ子、いじめられっ子という二つの対立する立場が、あたかも「衝突」しているようにみえる。一方が加害者で、他方が被害者とみなされる。この2人の微妙な相互関係を理解するために、筆者は1990年代半ば頃に「心理衝突モデル」を構想した。「加害者“意識”」と「被害者“意識”」という鍵概念で説明する。
- 第 10 回 いじめなどの事例研究 (森谷)  
心理療法のかかわりから得られたいじめや不登校の事例を取り上げる。夢や描画などからその心理を考える。
- 第 11 回 個人と集団の関係性 (中藤)
- 第 12 回 集団への心理的支援の諸理論 (中藤)
- 第 13 回 集団への心理的支援の特徴 (中藤)
- 第 14 回 集団を活用した地域社会の心理的支援 (1) (中藤)
- 第 15 回 集団を活用した地域社会の心理的支援 (2) (中藤)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

講義と討論で授業を進める。講義では問題解決に向けた思考力を養い、討論では実践的方法を主体的に考察する。森谷担当の場合、描画法の紹介のために実習を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

家族関係・集団・地域社会さまざま問題や葛藤に関心を持ち、関連する文献を参照して講義でのディスカッションに参加できるように準備すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

授業参加度60%、レポート40%で評価する

〔留意事項 (Other Information)〕

講義の日程および講義の予定(順序)は決まり次第公表する。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

森谷寛之 2005 子どものアートセラピー 金剛出版

森谷寛之 2018 臨床心理学への招待―無意識の理解から心の健康へ― サイエンス社

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『家族心理学：家族システムの発達と臨床的援助』中釜洋子・野末武義・布柴靖枝・無藤清子(著)有斐閣ブックス  
森谷寛之 2012 コラージュ療法の実践の手引き 金剛出版

〔参考URL(URL for Reference)〕

0

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫村松朋子 実務経験あり：公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

中藤信哉 実務経験あり：公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関での勤務経験あり

森谷寛之 実務経験あり：公認心理師・臨床心理士として教育機関・医療機関・産業領域での勤務経験あり

## 健康心理学特論(心の健康教育に関する理論と実践)

270424N0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期

金曜3限

ー

60

鶴田 薫

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

健康心理学は、心理学がいかに関人の健康で幸福な生活に貢献できるか、その可能性を究める実践的な学問である。そしてそれは、心理職の国家資格である公認心理師に期待される、大きな役割の一つであるとも言える。

そのような時代の社会的なニーズを背景に、本講義では心の健康教育についての理論を学び、その技法について体験実習を通して習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・心の健康とは何かについて学ぶ
- ・心の健康に影響を与えるストレス、パーソナリティ、行動(認知を含む)についての理論を学ぶ
- ・心の健康教育とは何か、その理論と目的について学ぶ
- ・心の健康教育の技法について、体験実習を通して学ぶ

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
心の健康についての理解	心の健康とは何か、またその重要性を理解できない	心の健康を理解し、心の健康が私たちの生活に与える影響について知る	心の健康とストレスの関係、また心の健康に影響を与えるパーソナリティや行動があることを知る	レベル3の知識をもとに、心の健康を保持・増進する方法を考え、助言できる
心の健康教育についての理解	心の健康教育とは何か、またその目的について理解できない	心の健康教育とその目的について理解する	どのような健康教育が各ライフステージで必要か、またそれがどのような場で行われるかを知る	レベル3の知識をもとに、支援する対象者に必要な心の健康教育を考えることができる
心の健康教育を実践する力	心の健康教育の体験実習に積極的に参加しない	心の健康教育の技法について、体験実習を通して積極的に学ぼうとする	各技法の目的や効果について、体験を通して理解する	支援する対象者にどのような心の健康教育の技法が適しているかを考え、実施できる


〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション  
健康とは？  
健康心理学とは？
- 第 2 回 健康とストレス
- 第 3 回 健康とパーソナリティ
- 第 4 回 健康と行動
- 第 5 回 健康心理アセスメント
- 第 6 回 心の健康教育とは？
- 第 7 回 心の健康教育の現状と課題
- 第 8 回 心の健康教育の実践 1  
人間関係トレーニング①ピア・サポート
- 第 9 回 心の健康教育の実践 2  
ストレスマネジメント①リラクセーション
- 第 10 回 心の健康教育の実践 3  
ストレスマネジメント②アンガーコントロール
- 第 11 回 心の健康教育の実践 4  
人間関係トレーニング②アサーション
- 第 12 回 心の健康教育の実践 5  
人間関係トレーニング③コンセンサス
- 第 13 回 心の健康教育の実践 6  
ストレスマネジメント③認知行動療法
- 第 14 回 心の健康教育の実践 7  
ストレスマネジメント④マインドフルネス
- 第 15 回 まとめ  
健康心理学の可能性  
公認心理師への期待

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

健康心理学および心の健康教育の理論の学習は講義形式で行い、心の健康教育の技法の学習は体験実習で行う

授業中の学生の発問に対して、適宜口頭でフィードバックを行う

また授業全体に対しては、最終回で授業内容をふりかえり、フィードバックを行う

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

心の健康に影響を与えるストレス・パーソナリティ・行動について、文献を検索し、熟読して講義に臨むこと

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、授業態度(50%)、課されたレポートの内容(50%)に基づいて総合的に行う

〔留意事項 (Other Information)〕

授業内で資料を配布する

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

特定のテキストは使用しない

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『心の健康教育』/松本剛・岡崎圭子(編著)/木立の文庫/2019/9784909862051

『健康心理学概論』/日本健康心理学会/実務教育出版/2002/9784788960916

『ベーシック健康心理学』/山蔦圭輔/ナカニシヤ出版/2015/9784779509186

『ライフコースの健康心理学』/森和代・石川利江・松田与理子/晃洋書房/2017/9784771028876

『健康心理学』/太田信夫・竹中晃二/北大路書房/2017/9784762829956

『よくわかる健康心理学』/森和代・石川利江・茂木俊彦/ミネルヴァ書房/2012/9784623061570

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

臨床心理士・公認心理師として教育機関や医療機関などで勤務経験あり

心理実践実習 (学外) I A

270440A0J

大学院

心理学研究科

後期集中

その他

DP4: 思考・解決力

伊藤 一美 村松 朋子 中藤 信哉

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている保健医療等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

保健医療分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
4. 多職種連携および地域連携
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

第1回 学外実習：全体オリエンテーション（大学内）（担当：伊藤・三好（ⅡA統括））

第2回 保健医療分野等の学外実習オリエンテーション（大学内）（担当：伊藤・村松・中藤）

第3回 各実習施設についての事前指導（大学内）（担当：各施設の実習担当教員）

第4回 事前オリエンテーション（実習先）（担当：各施設の実習担当者・実習担当教員）

これらを経て、各実習施設で実地の実習を開始する。実習中は、実習担当教員による巡回指導のほか、大学での中間指導も適宜実施される。

実習終了後、学内において、実習期間全体を振り返っての実習生の自己評価や実習指導者の講評を踏まえ、事後指導が実施される。

それ以外の具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

1. 指定された保健医療分野等に関する学外実習施設における実習（原則毎週1日・8時間以上、但し実習施設により変更あり）、および、実習担当教員による大学等での事前・中間・事後指導を含めて、計120時間以上の実習を行う。
2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4. 担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

配属先の実習機関に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

80

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

〔留意事項（Other Information）〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり。公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習（学外） I B

270440B0J

大学院  
心理学研究科  
前期集中  
その他

DP4：思考・解決力

伊藤 一美 村松 朋子 中藤 信哉

【科目の教育目標（Course Description）】

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている保健医療等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方を学ぶことを目的とする。

【教育・学習の個別課題（Course Objectives）】

保健医療分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
4. 多職種連携および地域連携
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

【ルーブリック表】

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。

職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。
------	------------------------------------	-----------------------------	--	--

【授業計画】

第1回 保健医療分野等の学外実習オリエンテーション（大学内）（担当：伊藤・村松・中藤）

第2回 各実習施設についての事前指導（大学内）（担当：各施設の実習担当教員）

第3回 事前オリエンテーション（実習先）（担当：各施設の実習担当者・実習担当教員）

これらを経て、各実習施設で実地の実習を開始する。

実習中は、実習担当教員による巡回指導のほか、大学での中間指導も適宜実施される。

実習終了後、学内において、実習期間全体を振り返っての実習生の自己評価や実習指導者の講評を踏まえ、事後指導が実施される。

それ以外の具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

【定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート】

実施しない。

【教育・学習の方法（Course Methods）】

1. 指定された保健医療分野等に関する学外実習施設における実習（原則毎週1日・8時間以上、但し実習施設により変更あり）、および、実習担当教員による大学等での事前・中間・事後指導を含めて、計120時間以上の実習を行う。
2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4. 担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

※上記の長期実習のほか、夏季休暇中に、福祉、教育、司法等の分野において、単発での見学実習を行う。

【準備学習の具体的な方法（Class Preparation）】

配属先の実習機関に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでい

る、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

80

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行 (60点)、実習施設 (実習指導者) による評価 (15点)、実習担当教員による評価 (15点)、その他提出物・実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり。臨床心理士・公認心理師として、医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

## 心理実践実習 (学外) II A

270441A0J

大学院

心理学研究科

後期集中

その他

DP4：思考・解決力

薦田 未央 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている福祉・教育分野等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

福祉・教育分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
4. 多職種連携および地域連携
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見直しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

第1回 学外実習：全体オリエンテーション (大学内)

第2回 福祉・教育分野等の学外実習オリエンテーション (大学内)

第3回 各実習施設についての事前指導 (大学内)

第4回 事前オリエンテーション (実習先)

これらを経て、各実習施設で実地の実習を開始する。

実習中は、実習担当教員による巡回指導のほか、大学での中間指導も適宜実施される。

実習終了後、学内において、実習期間全体を振り返っての実習生の自己評価や実習指導者の講評を踏まえ、事後指導が実施される。

それ以外の具体的な内容と進行については、個々の施設別に、実習担当教員により示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 指定された福祉・教育分野等に関する学外実習施設における実習 (原則毎週1日・8時間以上、但し実習施設により変更あり)、および、実習担当教員による大学等での事前・

中間・事後指導を含めて、計120時間以上の実習を行う。

2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4. 担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配属先の実習機関に関する情報（沿革、理念、概要、利用者等）について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

80

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行（60点）、実習施設（実習指導者）による評価（15点）、実習担当教員による評価（15点）、その他提出物・実習ノートなど（10点）で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり。公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

心理実践実習（学外）ⅡB

270441B0J

大学院  
心理学研究科  
前期集中  
その他

DP4：思考・解決力

薦田 未央 三好 智子 佐藤 睦子 向山 泰代 空間 美智子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目は、心理的支援を実践するために必要な知識と技能の修得を目的とする。その中でも、心理に関する支援を要する者等に対して実践的な関わりが行われている福祉・教

育分野等に関する学外実習施設において、心理的支援に必要な知識や技能、連携のあり方等を学ぶことを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

福祉・教育分野等の特徴および特殊性と関連付けて、以下を課題とする。

1. 心理に関する支援を要する者等に関する「コミュニケーション」「心理検査」「心理面接」「地域支援」等の知識及び技能の修得
2. 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成
3. 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ
4. 多職種連携および地域連携
5. 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・スキル	心理支援に要する知識・スキルが理解できず、習得できていない。	心理支援に要する基本的知識・スキルを理解・習得している。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、場面に応じて活用できる。	心理支援に要する知識・スキルを理解・習得し、視野の広がりや見通しをもって応用的に活用できる。
思考力・主体性	心理支援について、主体的に思考・判断して行動することができない。	心理支援について、専門的視点をもって主体的に思考・判断し、行動している。	心理支援について、専門的視点をもって対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、問題解決に行動できる。	心理支援について、対象者やその環境を理解し、積極的・主体的に思考・判断し、批判的視点も持ちながら専門性をもって行動できる。
職業倫理	公認心理師の職業倫理を理解できておらず、不適切なふるまいが見られる。	公認心理師の職業倫理を理解し、基本的ふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて、適切なふるまいができる。	公認心理師の職業倫理を理解し、対象者や協働者に対する理解を踏まえて適切なふるまいをし、自己研鑽に努めている。

〔授業計画〕

第1回 福祉・教育分野等の学外実習オリエンテーション（大学内）

第2回 各実習施設についての事前指導（大学内）

第3回 事前オリエンテーション（実習先）

これらを経て、各実習施設で実地の実習を開始する。  
 実習中は、実習担当教員による巡回指導のほか、大学での  
 中間指導も適宜実施される。

実習終了後、学内において、実習期間全体を振り返っての  
 実習生の自己評価や実習指導者の講評を踏まえ、事後指導  
 が実施される。

それ以外の具体的な内容と進行については、個々の施設別  
 に、実習担当教員により示される。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

1. 指定された福祉・教育分野等に関する学外実習施設における実習 (原則毎週1日・8時間以上、但し実習施設により変更あり)、および、実習担当教員による大学等での事前・中間・事後指導を含めて、計120時間以上の実習を行う。
2. 心理に関する支援を要する者等への支援の実際を見学するとともに、担当ケースについては実習指導者又は実習担当教員による指導の下で支援を実践する。
3. 担当ケース等について、実習指導者又は実習担当教員と協議し、支援計画を作成する。
4. 担当ケースの実践を通して、心理支援者としての職業倫理を理解する。
5. 実習施設に関連した実習中のリスク管理等について実習指導者、実習担当教員と協議、確認する。
6. 実習中は、実習担当教員や実習指導者による個別指導を受け、また実習記録により振り返りを行う。
7. 実習課題に対しては、実習担当教員や実習指導者が、実習記録へのコメントや適宜口頭によってフィードバックする。

※ 上記の長期実習のほか、夏季休暇中に、福祉、教育、司法等の分野において、単発での見学実習を行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

配属先の実習機関に関する情報 (沿革、理念、概要、利用者等) について、HPおよび事前訪問等で理解を深めておく。また本実習の前に履修している学内実習において学んでいる、基本的な支援態度、知識、技術について振り返り、さらに自己理解を深めておく。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

80

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

実習施設での実習課題の遂行 (60点)、実習施設 (実習指導者) による評価 (15点)、実習担当教員による評価 (15点)、その他提出物・実習ノートなど (10点) で総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

実務経験等：あり。公認心理師・臨床心理士として医療機関・教育機関等での勤務経験あり。

放映法特論

270442N0J  
 大学院  
 心理学研究科

DP4：思考・解決力  
 村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

治療的なアセスメントの方法論の理解を目指し、そのために必要な心理アセスメントツールを正確に使用できるスキルを習得する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- 1) パーソナリティ・アセスメントに関する理論と研究について十分な知識を有すること。
- 2) 包括システムによるロールシャッハ法の施行法、コーディング、スコアリングを習得すること。
- 3) アセスメント・レポートを作成できること。
- 4) 共感、傾聴、適切な境界の維持などの基本的な臨床スキルを体得すること。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション、ロールシャッハの歴史と展開
- 第 2 回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) の施行法
- 第 3 回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) のコーディング：反応領域と発達水準、組織化活動
- 第 4 回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) のコーディング：決定因子、形態水準
- 第 5 回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) のコーディング：特殊スコア
- 第 6 回 ロールシャッハ・テスト (包括システム) 構造一覧表の作成

- 第 7 回 ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈のためのガイドライン
- 第 8 回 ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：コントロール
- 第 9 回 ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：感情
- 第 10 回 ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：認知の3側面
- 第 11 回 ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：自己知覚と対人知覚
- 第 12 回 ロールシャッハ・テスト（包括システム）の解釈：まとめ
- 第 13 回 ロールシャッハ・テスト（包括システム）を用いた事例検討
- 第 14 回 複数のアセスメント・データを用いた治療的アセスメントの事例検討
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験（Final Exam）または定期試験に替わるレポート〕

実施する

〔教育・学習の方法（Course Methods）〕

授業は、講義形式で行います。

みなさんが事前学習をしてきたことを前提に解説やディスカッションを行います。こちらから質問や意見を頻繁に聞いていきますので、積極的に発言して下さい。

〔準備学習の具体的な方法（Class Preparation）〕

講義内容はかなりのボリュームがあるので、自主的な学習が必須となります。

宿題や必要な事前学習は、こちらからその都度、具体的に提示します。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準（Evaluation）〕

授業参加に関する積極性（30%）、定期試験（70%）

定期試験終了後、解説を行う。

〔留意事項（Other Information）〕

進行上の都合により、内容が変更される可能性がある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

『ロールシャッハ・テスト包括システムの基礎と解釈の原理』/エクスナー/金剛出版/2009/9.784772410823E12

必要に応じて提示します。

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

≪実践的科目≫

医療機関、教育機関で臨床心理士としての勤務経験あり。

## 心理学特殊研究 B（発達心理学）

270802NOJ  
大学院  
心理学研究科  
2単位 後期  
金曜  
ー  
90  
高井 直美

〔科目の教育目標（Course Description）〕

発達心理学に関する重要な理論について理解を深め、さらに内外の最近の研究動向をレビューすることを通して、現在の研究課題を認識し、発達心理学の発展に寄与できる研究テーマを探る能力を身に着ける。

〔教育・学習の個別課題（Course Objectives）〕

1. 発達心理学の重要な理論について、学ぶ。
2. 内外の研究論文を読解する。
3. 受講生の研究テーマに関係する研究論文を講読する。
4. 発達心理学の発展に寄与できる研究テーマを立案する。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力	自分の研究テーマを見つけることができない	自分の研究テーマを見つけつつある	自分の研究テーマを見出している	自分の研究テーマに沿って、研究を進展させている
知識・理解力	発達心理学についての基本的な知識・理解力がない	発達心理学についての基本的な知識・理解力が少し見られる	発達心理学についての基本的な知識・理解力が見られる	発達心理学についての基本的な知識・理解力がかなり見られる
言語力	自分の考えを言葉にまとめることができない	自分の考えを言葉にまとめることが少しできる	自分の考えを言葉にまとめることができる	自分の考えを言葉にまとめることがかなりできる
思考・解決力	問題意識を言葉にまとめることができない	問題意識を言葉にまとめることが少しできる	問題意識を言葉にまとめることができる	問題意識を言葉にまとめることがかなりできる
共生・協働する力	発達支援の基礎理解ができていない	発達支援について、関心をもっている	発達支援の方法を理解している	発達支援を実践している
創造・発信力	文献をまとめて、発表することができない	文献発表ができる	文献発表をうまくできる	文献発表で、創造的な発信ができる

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション  
内外の文献をどのように読んでいくか、基本的な態度を確認する。
- 第 2 回 認知発達の理論  
認知発達の理論に関する文献講読
- 第 3 回 認知発達の研究論文の理解  
認知発達の理論に関する文献講読と討論
- 第 4 回 社会性の発達の理論  
社会性の発達の理論に関する文献講読
- 第 5 回 社会性の発達の研究論文の理解  
社会性の発達の理論に関する文献講読と討論
- 第 6 回 言語発達の理論  
言語発達の理論に関する文献講読
- 第 7 回 言語発達の研究論文の理解  
言語発達の理論に関する文献講読と討論
- 第 8 回 受講生の研究領域について①  
受講生の研究テーマに関する文献講読
- 第 9 回 受講生の研究領域について②  
受講生の研究テーマに関する文献講読と討論
- 第 10 回 受講生の研究領域について③  
受講生の研究テーマに関する文献講読を通して、発展的な研究計画を作成する。
- 第 11 回 発達心理学の研究手法①  
観察研究
- 第 12 回 発達心理学の研究手法②  
実験的研究
- 第 13 回 発達心理学の研究手法③  
調査研究
- 第 14 回 英文講読①  
海外の研究から、最新のトピックスを探る。
- 第 15 回 英文講読②  
発達心理学の発展に寄与できる研究論文を講読する。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

受講生による発表と討論を中心に進める。まとめのレポートを課し、提出後に、レポートについてのフィードバックを行う。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日本発達心理学会や日本心理学会など、学会にはできる限り積極的に参加し、心理学研究者の研究テーマの最近の動向をつかんでおくことよい。

日常的に、自分の研究テーマに関する内外の最新の文献の講読を行うこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

発表と討論への参加を70%、まとめのレポートを30%とする。

〔留意事項 (Other Information)〕

授業順序は変わることがある。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊研究D (教育評価)

270804N0J  
大学院  
心理学研究科  
2単位 後期  
火曜  
—  
90  
尾崎 仁美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

教育評価に関する基本概念や歴史的展開、教育評価をめぐる現代的課題について理解を深めるとともに、教育的決定のための評価資料の収集方法や整理および解釈の仕方について理解することを目的とする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

1. 教育評価の意義と目的、歴史的展開について理解する。
2. さまざまな評価方法の長所と短所を理解する。
3. 評価資料の収集方法や解釈の方法を学ぶ。
4. 教育評価をめぐる現代的課題について理解を深める。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
知識・理解力	教育評価の基本概念や評価方法について理解し、説明することができない	教育評価の基本概念や評価方法について理解し、説明することができる	レベル2に加えて、教育評価の概念・知識の応用を理解し、説明することができる	レベル3に加えて、教育評価の概念・知識を活用して研究課題に取り組むことができる。

〔授業計画〕

- 第 1 回 イントロダクション
- 第 2 回 教育評価の基本的概念
- 第 3 回 教育評価の意義・目的
- 第 4 回 教育評価の歴史的展開
- 第 5 回 教育目標と教育評価の関係
- 第 6 回 指導に活かす評価のあり方と評価に影響を与える要因
- 第 7 回 教育評価と心理的影響
- 第 8 回 教育評価の方法
- 第 9 回 評価資料の収集法
- 第 10 回 評価資料の解釈と利用
- 第 11 回 学校における評価の実践

- 第 12 回 授業・教師・学校の評価
- 第 13 回 教育評価の現代的課題
- 第 14 回 諸外国における教育評価
- 第 15 回 まとめ

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

受講生による発表とディスカッションを中心に進める。参考資料は、授業中に適宜指示をする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

日頃より教育評価の方法や課題について最新の情報を得るようにすること。

発表内容の背景となる文献や関連文献を熟読しておくこと。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

評価は、発表・ディスカッションへの参加状況 (70%)、レポート (30%) により総合的に行う。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

## 心理学特殊研究 F (心理アセスメント)

270806N0J

大学院

心理学研究科

2単位 後期

木曜

ー

90

向山 泰代 村松 朋子

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

本科目では、学部・博士前期課程で学んだ種々の心理アセスメント理論と、さまざまな臨床実践での経験を基に、研究テーマを具現化して行くツールとして必要な心理アセスメント理論を選択し応用していく手順を理解する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

(1) 心理学的研究と心理アセスメントとの関連を、観察法・面接法・心理検査・調査法から理解する

(2) 臨床実践において心理アセスメントをどのように研究に生かしていくかを各種心理療法から理解する

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4

自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

第 1 回 オリエンテーション

第 2 回 研究テーマとアセスメント理論について－質問紙法との関連で

第 3 回 研究テーマとアセスメント理論について－観察法との関連で

第 4 回 研究テーマとアセスメント理論について－性格検査との関連で

第 5 回 研究テーマとアセスメント理論について－知能検査との関連で

第 6 回 研究テーマとアセスメント理論について－発達検査との関連で

第 7 回 研究テーマとアセスメント理論について－高次脳機能検査との関連で

第 8 回 研究テーマとアセスメント理論について－投射法との関連で

第 9 回 研究テーマとアセスメント理論について－来談者中心療法との関連で

第 10 回 研究テーマとアセスメント理論について－力動的な心理療法との関連で

第 11 回 研究テーマとアセスメント理論について－認知・行動療法との関連で

第 12 回 研究テーマとアセスメント理論について－ブリーフセラピー・システム論との関連で

第 13 回 研究テーマとアセスメント理論について－グループ療法との関連で

第 14 回 研究テーマとアセスメント理論について－ナラティブセラピーとの関連で

第 15 回 心理アセスメントと研究倫理について

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

事例、文献等を用いて討議する

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

学会誌の研究論文、学会や研究会での発表論文などから、関心領域として自ら選択したもの、あるいは、予習用に指定した文献を授業前に熟読しておく

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

40

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

受講者自身の自発的な学びと討論を中心とするため、発表と討論 (70%)、適宜実施されるレポート等 (30%) に基づいて総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

担当教員は、公認心理師および臨床心理士として、実務経験あり。

## 心理学特殊演習 I

270831N0J

大学院

心理学研究科

1単位 前期

木曜 6限

ー

30

尾崎 仁美 伊藤 一美 三好 智子 向山 泰代 村松 朋子 松島 るみ 高井 直美

### 〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学特殊演習Iは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

### 〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。

### 〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

### 〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (各主指導・副指導教員)
- 第 2 回 演習 (課題の設定) (1) (各主指導・副指導教員)
- 第 3 回 演習 (課題の設定) (2) (各主指導・副指導教員)
- 第 4 回 演習 (課題の設定) (3) (各主指導・副指導教員)
- 第 5 回 演習 (課題の設定) (4) (各主指導・副指導教員)
- 第 6 回 演習 (課題の設定) (5) (各主指導・副指導教員)
- 第 7 回 演習 (課題の設定) (6) (各主指導・副指導教員)
- 第 8 回 演習 (課題の設定) (7) (各主指導・副指導教員)
- 第 9 回 演習 (課題の設定) (8) (各主指導・副指導教員)
- 第 10 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 11 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 12 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 13 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 14 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 15 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

### 〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

### 〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門に近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

すなわち、授業中に重要事項について発問したり、回答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習 II

270832NOJ

大学院  
心理学研究科  
1単位 後期  
木曜 6限  
—

30

尾崎 仁美 伊藤 一美 三好 智子 向山 泰代 村松 朋子 松島 るみ 高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学特殊演習IIは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員)
- 第 2 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員)
- 第 3 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員)
- 第 4 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員)
- 第 5 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員)
- 第 6 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員)
- 第 7 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 8 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 9 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 10 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 11 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 12 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 13 回 経過発表 (7) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 14 回 経過発表 (8) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 15 回 経過発表 (9) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門に近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

すなわち、授業中に重要事項について発問したり、回答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference) 〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

心理学特殊演習III

270833N0J

大学院

心理学研究科

1単位 前期

木曜 6限

ー

30

尾崎 仁美 伊藤 一美 三好 智子 向山 泰代 村松 朋子 松島 るみ 高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学特殊演習IIIは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文2編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				

思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 オリエンテーション (各主指導・副指導教員)
- 第 2 回 演習 (課題の設定) (1) (各主指導・副指導教員)
- 第 3 回 演習 (課題の設定) (2) (各主指導・副指導教員)
- 第 4 回 演習 (課題の設定) (3) (各主指導・副指導教員)
- 第 5 回 演習 (課題の設定) (4) (各主指導・副指導教員)
- 第 6 回 演習 (課題の設定) (5) (各主指導・副指導教員)
- 第 7 回 演習 (課題の設定) (6) (各主指導・副指導教員)
- 第 8 回 演習 (課題の設定) (7) (各主指導・副指導教員)
- 第 9 回 演習 (課題の設定) (8) (各主指導・副指導教員)
- 第 10 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 11 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 12 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 13 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 14 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 15 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門の近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

すなわち、授業中に重要事項について発問したり、回答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

### 心理学特殊演習Ⅳ

270834N0J

大学院

心理学研究科

1単位 後期

木曜6限

ー

30

尾崎 仁美 伊藤 一美 三好 智子 向山 泰代 村松 朋子 松島 るみ 高井 直美

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

心理学特殊演習Ⅳは、教育・研究テーマが共通あるいは近い関係にある複数の院生と教員によって行われる研究会方式の演習である。

院生が、自らの研究の途中経過や研究成果を演習で発表し、さらには他の院生の発表に対して客観的な見方で意見を述べるなどを通して、自立した研究者になるにふさわしい研究能力や発表のしかたを身につけていくことを目標にする。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

演習では、科学的心理学の基盤に立つ議論を行うよう努め、研究の信頼性・妥当性の吟味も十分行っていく。そして院生が自らの研究テーマを追求し、具体的な研究の形にしていくように、複数の教員で指導する。

院生は自身の研究テーマを追求するため、内外の研究論文を熟読して発表し、複数の教員・院生と共に、綿密な討論を行うことを通して、自らの研究を展開していく。そして、博士論文作成の準備を行っていく。すなわち、査読つき論文2編以上の投稿を目指す。また、国内外において学術的な交流が可能になるよう、十分な英語能力の習得を目指す。

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				

知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

- 第 1 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員)
- 第 2 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員)
- 第 3 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員)
- 第 4 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員)
- 第 5 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員)
- 第 6 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員)
- 第 7 回 経過発表 (1) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 8 回 経過発表 (2) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 9 回 経過発表 (3) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 10 回 経過発表 (4) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 11 回 経過発表 (5) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 12 回 経過発表 (6) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 13 回 経過発表 (7) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 14 回 経過発表 (8) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)
- 第 15 回 経過発表 (9) (各主指導・副指導教員を中心に必要に応じて科目担当教員と)

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

各自の研究テーマに沿った発表を行っていく。

通常は、専門に近い院生・教員によって演習を行うが、年に数度、心理学研究科前期課程との合同で演習を実施し、幅広い専門性を有する教員や院生と共に発表や討論を行っていく。

すなわち、授業中に重要事項について発問したり、回答に対して適宜口頭でフィードバックする。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

研究計画や研究経過発表について、その背景となる文献等にも十分目を通して参加すること。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

30

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

演習での発表および発表資料の作り方、演習での議論への参加などを総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕

後期特別研究

270838N0J

大学院

心理学研究科

集中

DP3：言語力

向山 泰代 伊藤 一美 松島 るみ

〔科目の教育目標 (Course Description)〕

博士論文作成のための研究指導を行う。さまざまな専門分野で研究している教員から指導を受ける機会を提供し、博士論文作成に必要な幅広い知識の獲得を促し、柔軟な発想や独創性を育成する。

〔教育・学習の個別課題 (Course Objectives)〕

- ・ 研究テーマと研究計画の立案
- ・ 文献による先行研究の検討
- ・ 方法論の確立
- ・ データの分析
- ・ 論文の執筆

〔ルーブリック表〕

DP	レベル1(不可レベル)	レベル2	レベル3	レベル4
自分を育てる力				
知識・理解力				
言語力				
思考・解決力				
共生・協働する力				
創造・発信力				

〔授業計画〕

本科目の授業は、個々の受講生の研究内容および進捗状況に応じて計画される。年度初めに、受講生は当該年度についての具体的な研究計画を策定する。指導教員は受講生の研究計画に照らして研究指導計画を立案し、これらの研究計画および研究指導計画をもとに授業を進める。年度末

に受講生は当該年度内の成果について研究報告書を作成し、指導教員に提出する。提出された研究報告書を、以降の研究計画および研究指導計画に反映させていく。

〔定期試験 (Final Exam) または定期試験に替わるレポート〕

実施しない

〔教育・学習の方法 (Course Methods)〕

受講生の研究テーマに基づいて、主指導教員1名と副指導教員2名を決めて、遠隔あるいは対面での個別指導を行う。個別指導の過程で討議された内容は、心理学特殊演習などでの発表時の素材となり、発表での経験はさらに個別指導に生かされることになる。授業中に重要事項について発問し、受講生からの応答を得て、その応答に適宜フィードバックしていく。このような質疑応答の循環過程を通じて、受講生の研究に対する発見や考察を深化させていく。

〔準備学習の具体的な方法 (Class Preparation)〕

関連する先行研究を展望する、データ収集や論文の執筆・投稿等における研究倫理を確認し遵守する、博士論文のアウトラインを構想するなど、授業時間以外の学習が重要である。

〔準備学習に必要な標準時間数(合計) (Standard Prep Study hours (Total))〕

60

〔評価方法・評価基準 (Evaluation)〕

年度内の個別指導や発表などでの質疑、討議への参加状況、研究計画書および研究報告書の内容から総合的に評価する。

〔留意事項 (Other Information)〕

後期特別研究では、主論文(博士論文)についての研究テーマと研究計画の立案を目指し、受講生には数多くの文献にあたらせ、関連する研究分野における自身の研究の位置づけや研究成果等について客観的な理解を促す。また、心理学研究としてどのような意義をもつ研究であるかについて、深く省察するように指導する。並行して、副論文および参考論文の作成指導も行う。授業の進行は、個々の研究内容にしたがって計画される。

〔テキスト(Textbook) (書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN/学内販売の有無)〕

〔参考文献(References)(書籍名(Title)/著者(Author)/出版社(Publisher)/出版年(Year Published)/ISBN)〕

〔参考URL(URL for Reference)〕

〔実務経験のある教員による実践的科目〕